

AV センター

TX-SA701

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

目次

基本編

こんなこともできます

応用編

こんなこともできます

こんなこともできます

主な特長

■ ドルビー*デジタル、ドルビーデジタルEX、ドルビープロロジック II サラウンド再生可能
■ルーカスフィルム社が提唱する「THX®** Select」規格に準拠
■THXサラウンドEX、DTS***、DTS-ES Discrete（ディスクリート） 6.1、DTS-ES Matrix（マトリックス） 6.1、DTS Neo（ネオ）：6、DTS 96/24サラウンド再生可能
■MPEG（エムペグ）-2 AAC再生可能
■再生周波数の広帯域化（10Hz～100kHz）を実現する技術WRAT（Wide（ワイド） Range（レンジ） Amplifier（アンプリファイヤー） Technology（テクノロジー））
■飛躍的な音質向上、デジタル信号からピュアなアナログ信号を生成するVLSC（Vector（ベクター） Linear（リニア） Shaping（シェーピング） Circuitry（サーキットリィ））搭載（フロントL/R、センター）
■信号とノイズ領域との近接を回避して聴感上のS/Nを向上させるオプティマム・ゲイン・ボリューム回路
■32bit DSPを2つ使用した高精度デジタル処理回路
■ダウンミックスによるフロントL/Rチャンネルのダイナミックレンジの減少や、S/N劣化を防ぐ技術「ノン・スケーリング・コンフィグレーション」採用の回路
■DVD-Audio（オーディオ）プレーヤーなどへの拡張性を実現する5.1チャンネル入力端子装備
■パワーアンプが接続できるマルチチャンネル（7.1ch）プリ出力端子装備
■アナログのマルチチャンネル入力に対しても、スピーカー設定やディレイがかけられるADコンバーター搭載
■高音域が強調された劇場用サウンドを家庭で適切なバランスに補正する「Re-EQ（リイーキュー）****（シネマ・リ・イコライザー）」機能
■小音量でもサラウンドを楽しめるLATE（レイト） NIGHT（ナイト）機能（ドルビーデジタル時のみ）
■D4/コンポーネント映像入力端子2系統、出力端子1系統装備
■Ｓ映像入力端子5系統/出力端子3系統装備
■デジタル入力端子として光3系統、同軸1系統、デジタル出力端子として光1系統、同軸1系統装備
■ビデオ（コンポジット）やSビデオ信号をコンポーネント/D4端子に出力するビデオコンバーター搭載
■モニターを見ながら、初期設定や各種設定が簡単にできるオンスクリーンディスプレイ（OSD）機能
■他機の操作および短縮操作を可能にするラーニング＆プリプログラムド、マクロ機能搭載のバックライト付きリモコンを付属
■レコードもお楽しみいただけるPHONO（フォノ）端子装備

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
"Dolby"、"ドルビー"、"Pro Logic"、"Surround EX"およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
** ルーカスフィルムTHX、THXはTHX社の商標または登録商標です。
*** 本機は、デジタル・シアター・システムズ社からのライセンスに基づき製造されています。
"DTS"、"DTS-ES Extended Surround"および"Neo：6"は、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。
**** Re-Equalization、Re-EQロゴは、THX社の商標です。

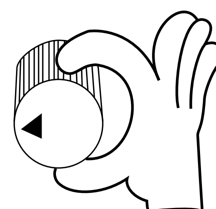
AAC パテントマーキング
Pat.5,848,391 5,291,557 5,451,954 5 400 433 5,222,189 5,357,594 5 752 225
5,394,473 5,583,962 5,274,740 5,633,981 5 297 236 4,914,701 5,235,671
07/640,550 5,579,430 08/678,666 98/03037 97/02875 97/02874 98/03036
5,227,788 5,285,498 5,481,614 5,592,584 5,781,888 08/039,478 08/211,547
5,703,999 08/557,046 08/894,844 5,299,238 5,299,239 5,299,240 5,197,087
5,490,170 5,264,846 5,268,685 5,375,189 5,581,654 5,548,574 5,717,821

THX Select
THX Selectの認証を取得したホーム・シアター・コンポーネントは、いずれも一連の厳しい品質/性能試験に合格しています。このような製品にのみ付与されているTHX Select のロゴは、ご購入いただいたホーム・シアター製品が、長期間にわたって卓越した性能を発揮することを保証するものです。THX Select の要件には、パワーアンプ性能、プリアンプ性能、デジタル/アナログ空間での動作などをはじめとする、何百ものパラメータが定義されています。またTHX Select レシーバーは、劇場用映画のサウンドトラックを正確にホーム・シアターで再現するための特許技術である、THX技術を備えています。

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の、最後にある（N）等のアルファベットは、製品の色を表す記号です。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

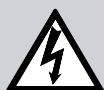


この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



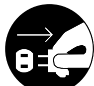


●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない





電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
  煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない



分解禁止

- 本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでくだい。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
- 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない



- 本機を使用できるのは日本国内のみです。
- 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

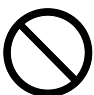


- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
  本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次の点に気をつけてご使用ください。
- 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
- 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、ふとんの上に置いて使用しないでください。
- 本機を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面、横から20cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。

■ 水のかかるところに置かない

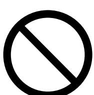

水場での使用禁止

- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。


水ぬれ禁止

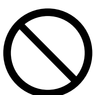
- 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない



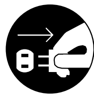
- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない



- 本機の通風孔などから金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

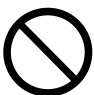


電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

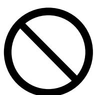


- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがありますのでご注意ください。
- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■ 電源コンセントにはオーディオ機器以外接続しない

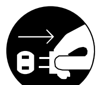


- 本機の電源コンセントはオーディオ機器専用です。表示された定格以内でご使用ください。表示された定格以上の機器やヘヤードライヤー、電気こたつなどの電熱器具、オーブン・レンジなどの調理器具は絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

オーディオ機器の正しい使いかた

⚠警告

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

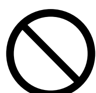
■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない



接触禁止

- 雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

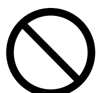
■ 乾電池を充電しない



- 乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより、火災、けがの原因となります。

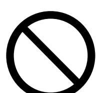
⚠注意

■ 設置上の注意



- 強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に他のオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない



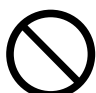
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について



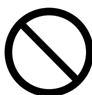
- 本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

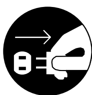


- 電源を入れたときは音量（ボリューム）に注意してください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因になることがあります。
- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
- キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意



- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
- 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。



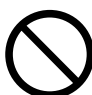
電源プラグをコンセントから抜いてください

- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■ 電池について

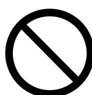


- 電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



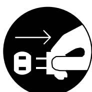
- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■ スピーカーコードについて



- スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検・工事について

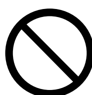


電源プラグをコンセントから抜いてください

- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。



- 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
  本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。
- 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。



- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

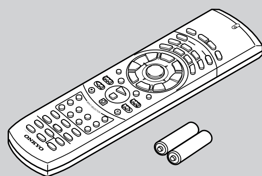


- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
  化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

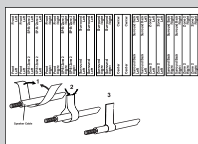
付属品を確認する

付属品

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（ ）内の数字は数量を表しています。



リモコン（RC-533M）… （1）
乾電池（単三形、R6）… （2）

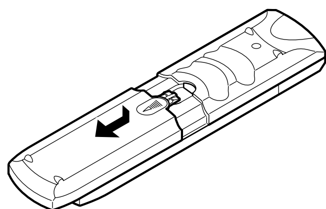


スピーカーコード用ラベル… （1）

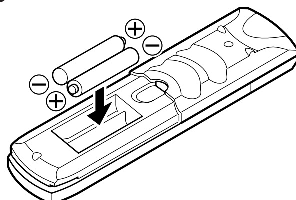
取扱説明書…（本書1）
保証書…（1）
オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内…（1）

リモコンを準備する

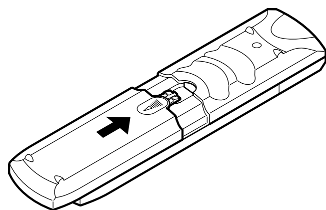
1. カバーを矢印の方向にずらしてあける



2. 中の極性表示にしたがって、付属の乾電池2個を＋（プラス）と−（マイナス）を間違えないように入れる



3. カバーを戻す

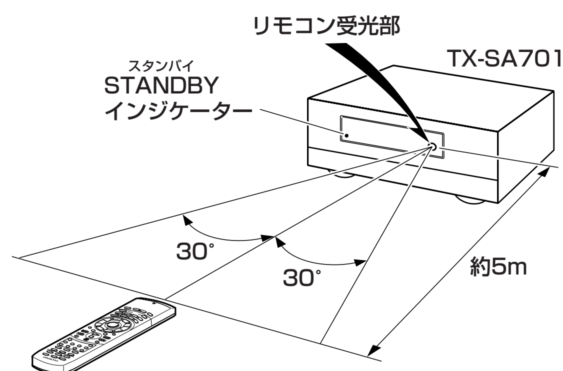


ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 寿命がなくなった電池を入れたままにしておくと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して2本とも新しい電池と交換してください。
- 使用頻度にもよりますが、付属の電池の寿命は約6ヵ月です。電池を交換するときは、単3形をご使用ください。

リモコンを使う

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて使用してください。リモコンからの信号を受信すると、本機のSTANDBY（スタンバイ）インジケーターが点灯します。



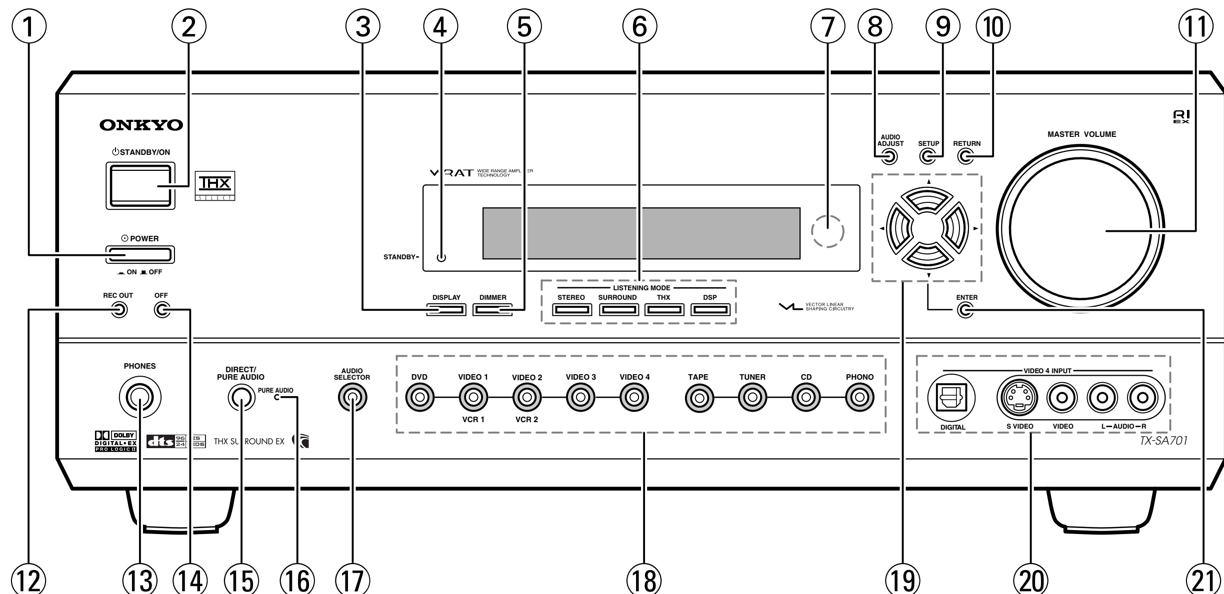
ご注意

- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

本体、リモコンボタンの名前と働き

前面パネル

詳しい説明は〔　　〕内のページをご覧ください。



①POWERスイッチ〔32〕
本機の主電源を入/切します。主電源が入るとSTANDBYインジケーターが点灯します。

②STANDBY/ONボタン〔32〕
主電源が入っているときに電源のスタンバイ/オンを切り換えます。

③DISPLAYボタン〔49〕
表示部の情報を切り換えます。

④STANDBYインジケーター〔32〕
スタンバイ状態のときやリモコンからの信号を受信すると点灯します。

⑤DIMMERボタン〔40〕
表示部の明るさを切り換えます。

⑥LISTENING MODEボタン〔43、46～48〕
リスニングモードを選びます。

⑦リモコン受光部〔8〕
リモコンからの信号を受信します。

⑧AUDIO ADJUSTボタン〔43、59〕
音質の調整やリスニングモードの条件設定を行います。

⑨SETUPボタン〔34～37、52、54～58〕
テレビと表示部にメニュー項目を表示します。

⑩RETURN ボタン〔34～37、52、54～58〕
メニュー操作時に押すと、1つ前の画面に戻ります。メインメニュー画面で押すと、メニュー操作を終了します。

⑪MASTER VOLUMEつまみ〔39、42〕
音量を調整します。
音量は基本的にMin・1・2･･･98・99・Maxの範囲で調整できます。

⑫REC OUTボタン〔10、51〕
録音するとき、本機から出力する機器を選びます。

⑬PHONES端子〔40〕
標準プラグのステレオヘッドホンを接続する端子です。

⑭OFFボタン〔10〕
REC OUTを「オフ」にします。

⑮DIRECT/PURE AUDIO切換ボタン〔43、46〕
リスニングモードの「ダイレクト」と「ピュアオーディオ」を切り換えます。

⑯PURE AUDIOインジケーター〔46〕
リスニングモードが「Pure Audio」のとき、点灯します。

⑰AUDIO SELECTORボタン〔41、42〕
オーディオ入力信号の種類を選びます。

⑱入力切換ボタン（DVD、VIDEO1～4、TAPE、TUNER、CD、PHONO)
〔36～39、41、42、46、51、55、56〕
再生するソースを選びます。

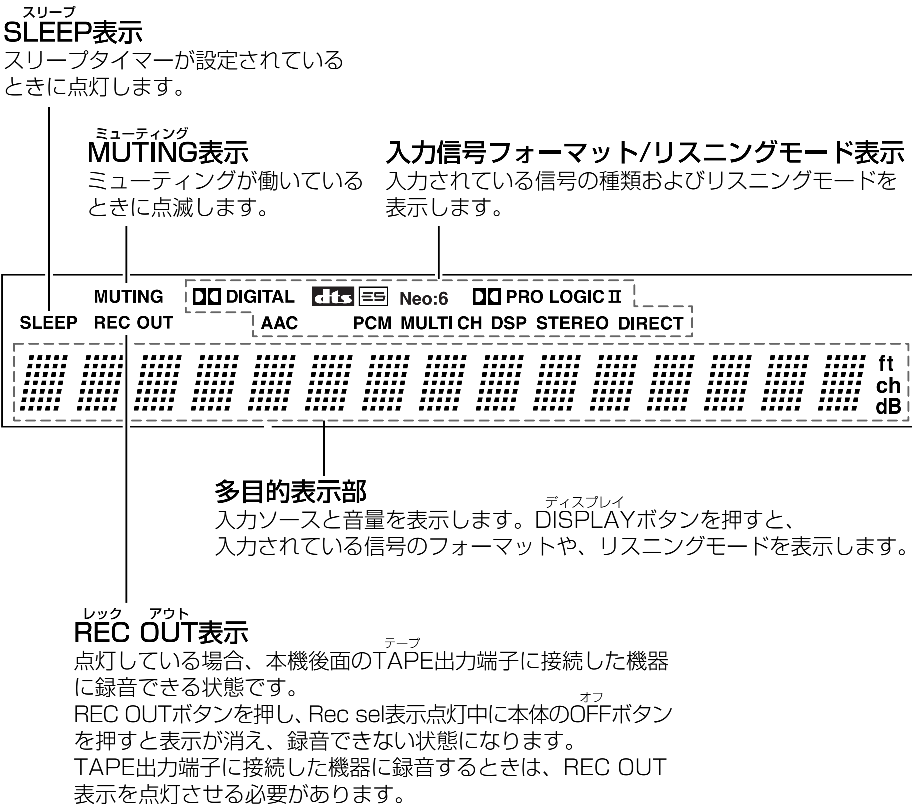
⑲カーソル▲/▼/◀/▶ボタン
〔34～37、41、43、50、52～59〕
メニュー項目を選択します。

⑳VIDEO　4 INPUT端子〔26、51〕
ビデオカメラやゲーム機などを接続します。

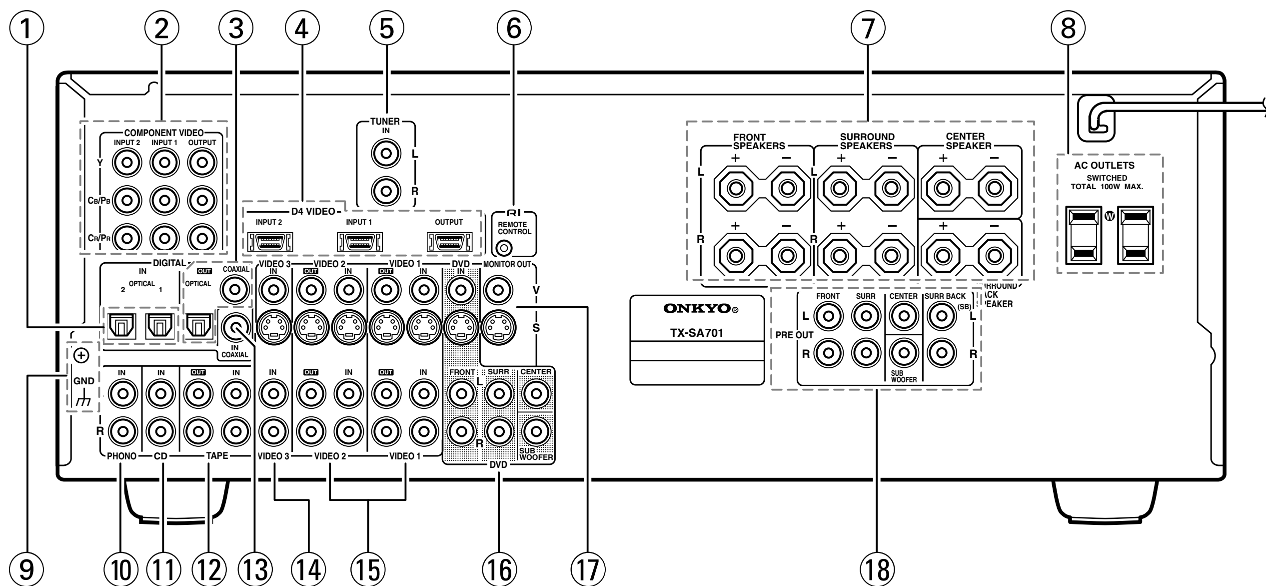
㉑ENTER ボタン〔34～37、52、54～58〕
選択している項目を確定します。

本体、リモコンボタンの名前と働き

表示部



後面パネル



①DIGITAL IN 1、2端子（OPTICAL）
デジタル音声の入力端子。光デジタルケーブルを使ってデジタル再生機器を接続します。

②COMPONENT VIDEO INPUT1、2端子
コンポーネント映像を入力する端子。コンポーネントビデオコードを使って接続します。S映像より良い画質が得られます。

COMPONENT VIDEO OUTPUT端子
本機からコンポーネント映像を出力する端子。コンポーネントビデオコードを使って接続します。S映像より良い画質が得られます。

③DIGITAL OUT端子（OPTICAL/COAXIAL）
デジタル音声の出力端子。OPTICAL端子は光デジタルケーブル、COAXIAL端子は同軸デジタルケーブルを使って録音機器を接続します。

④D4 VIDEO INPUT1、2端子
D映像を入力する端子。D映像ケーブルを使って接続します。S映像より良い画質が得られます。

D4 VIDEO OUTPUT端子
本機からD映像を出力する端子。D映像ケーブルを使って接続します。S映像より良い画質が得られます。

⑤TUNER IN端子
オーディオ用ピンコードを使ってチューナーを接続します。

⑥RI REMOTE CONTROL端子
RI端子付きオンキヨー製品と接続し、連動させる端子。RIケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

⑦スピーカー端子
スピーカーを接続します。

⑧AC OUTLETS（電源コンセント）
本機に接続する機器の電源プラグを接続することができます。

⑨GND端子
レコードプレーヤーのアース線を接続します。

⑩PHONO IN端子
オーディオ用ピンコードを使ってレコードプレーヤーを接続します。本機は、ムービングマグネット（MM）カートリッジを使用するレコードプレーヤー用に設計されています。

⑪CD IN端子
オーディオ用ピンコードを使ってCDプレーヤーを接続します。

⑫TAPE IN/OUT端子
オーディオ用ピンコードを使ってテープデッキやMDレコーダーなどの録音機器を接続します。

⑬DIGITAL IN端子（COAXIAL）
デジタル音声の入力端子。同軸デジタルケーブルを使ってデジタル再生機器を接続します。

⑭VIDEO 3 IN端子
オーディオ用ピンコードなどを使ってビデオデッキや、BS/CSチューナーなどを接続します。

⑮VIDEO 1、2 IN/OUT端子
オーディオ用ピンコードなどを使ってビデオデッキなど録画機器を接続します。

⑯DVD端子
DVDプレーヤーを接続します。

⑰MONITOR OUT端子
接続した映像機器の映像を、本機を通してTVなどのモニターに映します。

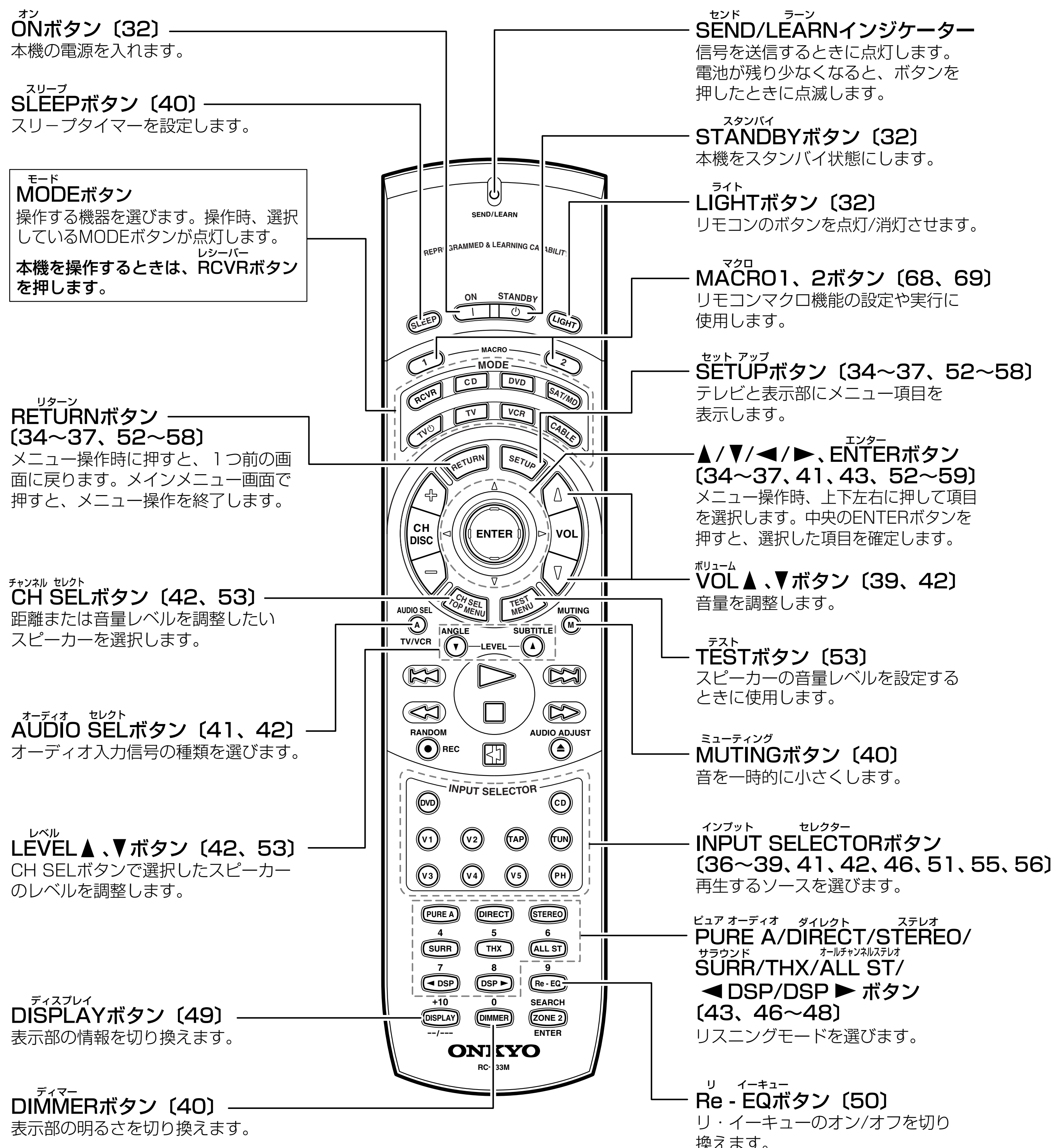
⑱PRE OUT端子
本機をプリアンプとして使用する場合、パワーアンプと接続します。サブウーファーはここに接続します。

本体、リモコンボタンの名前と働き

リモコン（RC-533M）

RCVRモード（本機を操作するとき）

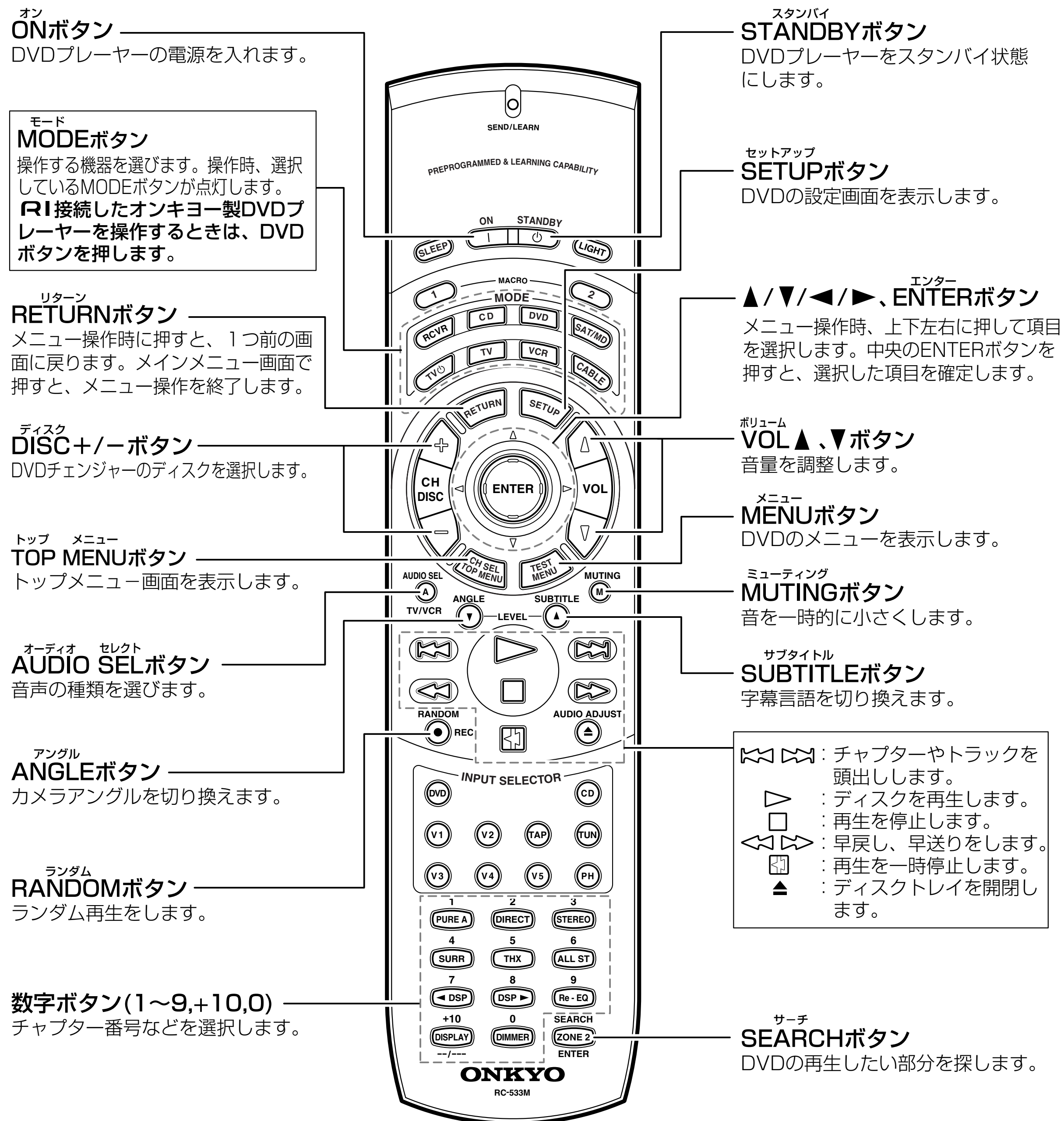
詳しい説明は〔　〕内のページをご覧ください。
本機を操作する前に、RCVRボタンを押してください。



本機に付属のリモコンでRI接続をしたオンキヨー製品を操作することができます。
MODEボタンで操作する機器を選んでから操作ボタンを押します。RIケーブルとオーディオ用ピンコードを正しく接続してください。本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

DVDモード（本機にRI接続したDVDプレーヤーを操作するとき）

DVDプレーヤーを操作する前に、リモコンをDVDモードにするため、MODEボタンのDVDボタンを押してください。



ONボタン
DVDプレーヤーの電源を入れます。

MODEボタン
操作する機器を選びます。操作時、選択しているMODEボタンが点灯します。
RI接続したオンキヨー製DVDプレーヤーを操作するときは、DVDボタンを押します。

RETURNボタン
メニュー操作時に押すと、1つ前の画面に戻ります。メインメニュー画面で押すと、メニュー操作を終了します。

DISC＋/－ボタン
DVDチェンジャーのディスクを選択します。

TOP MENUボタン
トップメニュー画面を表示します。

AUDIO SELボタン
音声の種類を選びます。

ANGLEボタン
カメラアングルを切り換えます。

RANDOMボタン
ランダム再生をします。

数字ボタン(1～9,+10,0)
チャプター番号などを選択します。

STANDBYボタン
DVDプレーヤーをスタンバイ状態にします。

SETUPボタン
DVDの設定画面を表示します。

▲/▼/◄/►、ENTERボタン
メニュー操作時、上下左右に押して項目を選択します。中央のENTERボタンを押すと、選択した項目を確定します。

VOL▲、▼ボタン
音量を調整します。

MENUボタン
DVDのメニューを表示します。

MUTINGボタン
音を一時的に小さくします。

SUBTITLEボタン
字幕言語を切り換えます。

⏮ ⏭	：チャプターやトラックを頭出しします。
▷	：ディスクを再生します。
□	：再生を停止します。
◁◁ ▷▷	：早戻し、早送りをします。
⏸	：再生を一時停止します。
⏏	：ディスクトレイを開閉します。

SEARCHボタン
DVDの再生したい部分を探します。

本体、リモコンボタンの名前と働き

CDモード（本機にRI接続したCDプレーヤーを操作するとき）

CDプレーヤーを操作する前に、リモコンをCDモードにするため、MODEボタンのCDボタンを押してください。

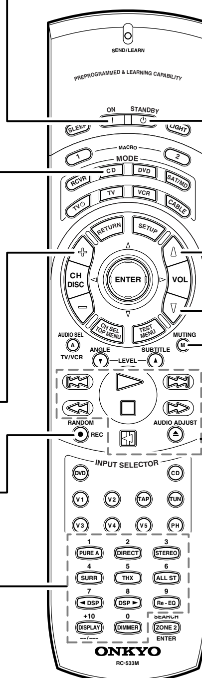
オン
ONボタン
CDプレーヤーの電源を入れます。

モード
MODEボタン
操作する機器を選びます。操作時、選択しているMODEボタンが点灯します。
RI接続したオンキヨー製CDプレーヤーを操作するときは、CDボタンを押します。

ディスク
DISC＋ボタン
CDチェンジャーのディスクを選択します。

ランダム
RANDOMボタン
ランダム再生をします。

数字ボタン(1〜9,+10,0)
曲番などを選択します。



スタンバイ
STANDBYボタン
CDプレーヤーをスタンバイ状態にします。

ボリューム
VOL▲、▼ボタン
音量を調整します。

ミューティング
MUTINGボタン
音を一時的に小さくします。

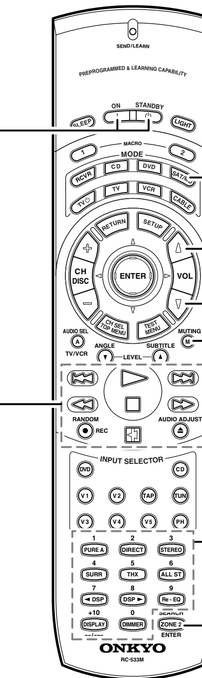
⏮ ⏭	：トラックを頭出しします。
▷	：ディスクを再生します。
□	：再生を停止します。
⏪ ⏩	：早戻し、早送りをします。
⏸	：再生を一時停止します。
⏏	：ディスクトレイを開閉します。

MDモード（本機にRI接続したMDレコーダーを操作するとき）

サテライト
MDレコーダーを操作する前に、リモコンをMDモードにするため、MODEボタンのSAT/MDボタンを押してください。

オン　スタンバイ
ON/STANDBYボタン
MDレコーダーのスタンバイ/オフを切り換えます。

⏮ ⏭	：トラックを頭出しします。
▷	：ディスクを再生します。録音一時停止状態で押すと、録音を始めます。
□	：再生・録音を停止します。
⏪ ⏩	：早戻し、早送りをします。
⏸	：再生・録音を一時停止します。
●REC	：録音をします。
⏏	：ディスクを取り出します。



モード
MODEボタン
操作する機器を選びます。操作時、選択しているMODEボタンが点灯します。
RI接続したオンキヨー製MDレコーダーを操作するときは、SAT/MDボタンを押します。

ボリューム
VOL▲、▼ボタン
音量を調整します。

ミューティング
MUTINGボタン
音を一時的に小さくします。

数字ボタン(1〜9,+10,0)
曲番などを選択します。

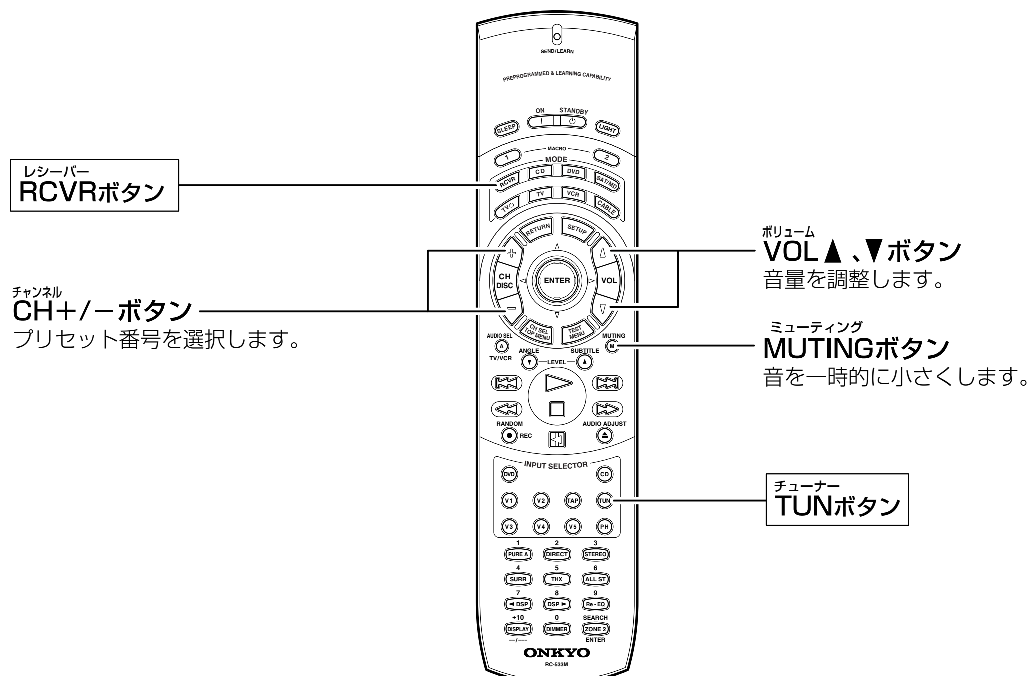
エンター
ENTERボタン
選択した数字を確定します。

サテライト
- SAT/MDボタンは、オンキヨー製MDレコーダーのMODEボタンですが、62ページでBSチューナーの操作を学習させることができます。BSチューナーの操作を学習させた場合は、オンキヨー製MDレコーダーの操作はできません。67ページで学習させた操作を消去してください。

TX-SA701(09-16)(SN29343498)　14　03.4.11, 5:53 PM

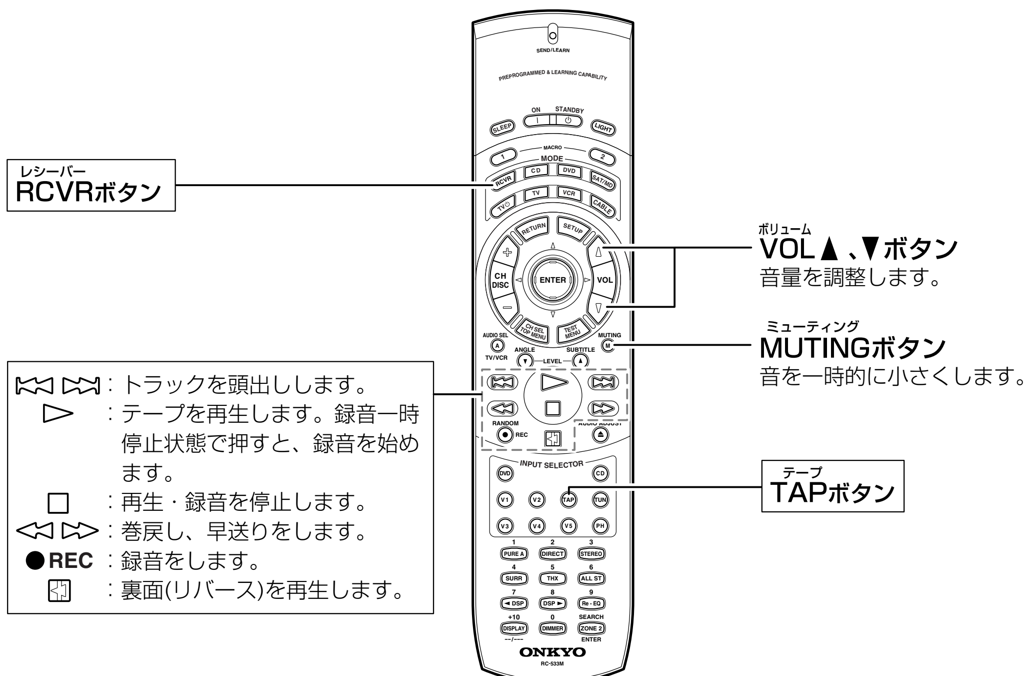
TUNERモード（本機にRI接続したチューナーを操作するとき）

チューナーを操作する前に、MODEボタンのRCVRボタンを押してから、INPUT SELECTORボタンのTUNボタンを押してください。



TAPEモード（本機にRI接続したカセットデッキを操作するとき）

カセットデッキを操作する前に、MODEボタンのRCVRボタンを押してから、INPUT SELECTORボタンのTAPボタンを押してください。



ご注意

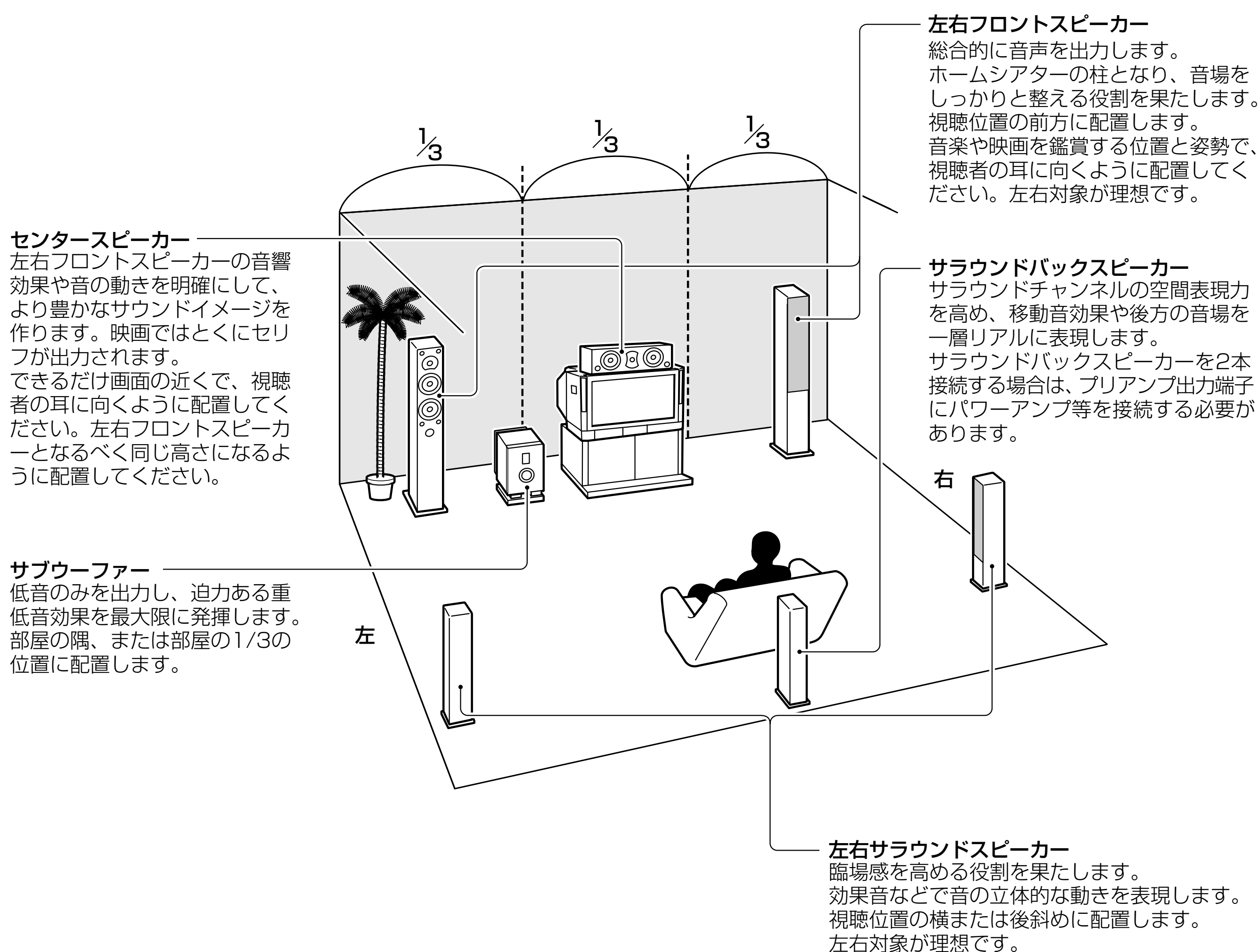
録音状態によっては、|◀◀/▶▶|ボタンを押したときに正しく動作しないことがあります。

ホームシアターとは

ホームシアターを楽しもう

本機は優れた機能を使って音の立体感、移動感を実現し、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれる音響効果をお楽しみいただけます。THX Surround EXの再生には、THX社認定のTHXスピーカーシステムのご使用をおすすめします。
DVDではディスクの記録方法により、DTSやドルビーデジタル再生、THX再生、テレビや衛星放送ではオンキヨー独自のDSPサラウンド再生をお楽しみいただけます。

スピーカーの使いかた
2つお持ちの場合、左右フロントスピーカーとして使用します。（2チャンネル再生）
3つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカーとして使用します。（3チャンネルサラウンド）
4つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。（4チャンネルサラウンド）
5つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。（5チャンネルサラウンド）
6つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーとして使用します。（6チャンネルサラウンド）
7つお持ちで、本機のプリアウト端子にパワーアンプを接続してご使用になる場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、左右サラウンドバックスピーカーとして使用します。（7チャンネルサラウンド）
サブウーファーをお持ちの場合、スピーカーの数に関係なく、重低音効果を発揮するために使用します。（○.1チャンネル再生）



- 最適なサラウンド再生をお楽しみいただくには、音が届く時間を一定にするため視聴位置からスピーカーの距離を設定する必要があります。また、音のバランスを調整するため、それぞれのスピーカーの音量の設定を行ってください。（☞52、53ページ）

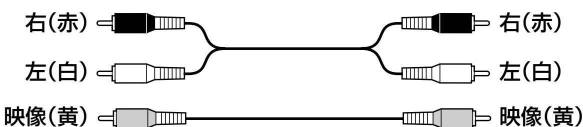
接続をする

接続の前に

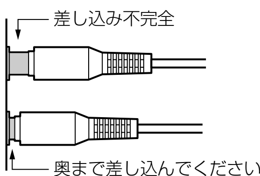
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 電源コードは全ての接続が終わるまでつながないでください。

ビデオ用、オーディオ用ピンコードは以下のように接続してください。

- 入力端子は赤いコネクター(Rの表示)を右チャンネル、白いコネクター(Lの表示)を左チャンネル、黄色のコネクター(Vの表示)をビデオチャンネルに接続してください。



- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。



- ビデオコード、オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと束ねないでください。音質や画質が悪くなることがあります。

光デジタル入力端子/出力端子について

本機の光デジタル端子はすべてシャッタータイプですので、フタをそのまま奥へ倒すようにして光デジタルケーブルを差し込んでください。

映像/音声ケーブルと端子の種類について

映像ケーブルと端子の種類

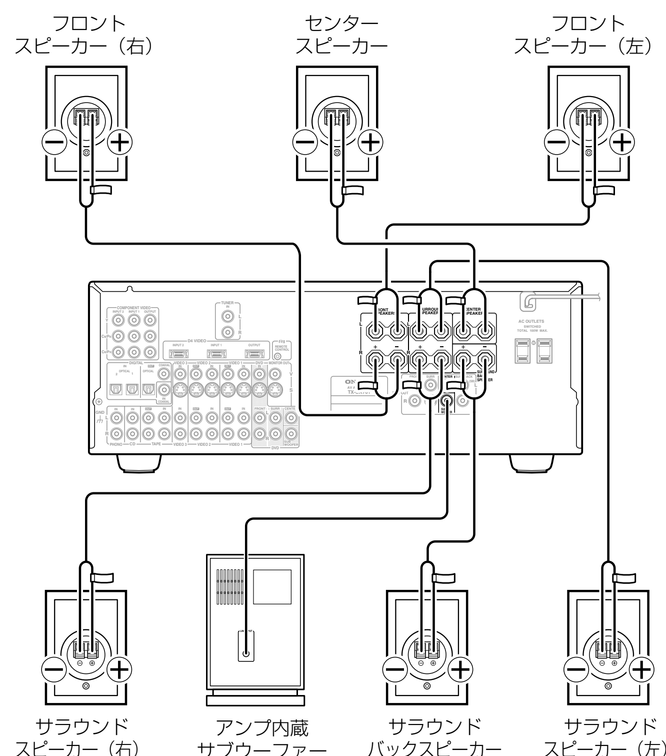
ケーブルの名称	ケーブルの形	端子の形	ケーブルや端子の役割
コンポーネントビデオコード	CR CB Y	Y CB/PB CR/PR	画質はSビデオより良く、D端子と同レベルです。映像機器の制御信号(アスペクト比など)を送ることはできません。
D端子用接続コード		D4	画質はSビデオより良く、コンポーネントと同レベルです。映像機器の制御信号(アスペクト比など)を送ることができます。
Sビデオコード		S VIDEO	コンポジットの映像よりよい画質が得られます。映像機器の制御信号(アスペクト比など)を送ることはできません。
ビデオコード(コンポジット)		VIDEO	標準的な映像信号で、多くのテレビやビデオなどの映像機器に装備されています。

音声ケーブルと端子の種類

ケーブルの名称	ケーブルの形	端子の形	ケーブルや端子の役割
光デジタルケーブル(OPTICAL)		OPTICAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質はCOAXIALと同レベルです。
同軸デジタルケーブル(COAXIAL)		COAXIAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質はOPTICALと同レベルです。
オーディオ用ピンコード		AUDIO L R	アナログ音声を伝送します。
マルチチャンネル接続コード		FRONT SURR CENTER L R SUB WOOFER	DVDオーディオ対応のDVDプレーヤーなどにあります。アナログマルチチャンネル音声を伝送します。

スピーカーを接続する

スピーカーの配置については「ホームシアターとは」(☞16ページ)および「サラウンドバックスピーカーの配置について」をご覧ください。
本機にはインピーダンスが16Ω以下のスピーカーを接続してください。インピーダンスが4Ω〜5Ωのスピーカーを接続するときは、34ページで「スピーカーインピーダンス」を4Ωに設定してください。
6Ω〜16Ωのスピーカーを接続するときは、設定を変更する必要はありません。



サラウンドバックスピーカーを1本接続する場合

1. 本機のSURR BACK SPEAKER端子にスピーカーを接続します。
2. 34ページの「スピーカーに関する基本設定をする」の手順 ***4*** で、「1ch」を選びます。

!ヒント

パワーアンプを通して1本のサラウンドバックスピーカーを接続する場合は、PRE OUT SURR BACK L端子を使用してください。34ページ、手順 ***4*** の設定は「1ch」にします。

サラウンドバックスピーカーを2本接続する場合

1. 本機のPREOUT SURR BACK L/R端子にパワーアンプの音声入力端子をそれぞれ接続し、パワーアンプにスピーカーを接続します。
2. 34ページの「スピーカーに関する基本設定をする」の手順 ***4*** で、「2ch(Pre)」を選びます。

ご注意

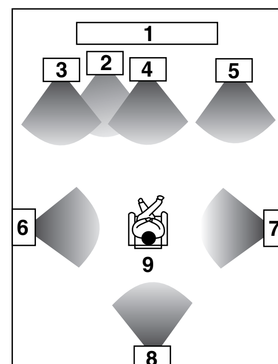
この設定をした場合は、本機のSURR BACK SPEAKER端子にスピーカーを接続しても、正しいサラウンド効果は得られません。

サラウンドバックスピーカーの配置について

サラウンドバックスピーカーは、Dolby(ドルビー) Digital(デジタル) EX、THX Surround(サラウンド) EX、DTS-ES Matrix(マトリックス) 6.1、DTS-ES Discreat(ディスクリート) 6.1で楽しむときに必要です。

■サラウンドバックスピーカーが1本の場合

スピーカーを本機のサラウンドバックスピーカー端子に接続します。



1 テレビまたはスクリーン
2 サブウーファー
3 左フロントスピーカー
4 センタースピーカー
5 右フロントスピーカー
6 左サラウンドスピーカー
7 右サラウンドスピーカー
8 サラウンドバックスピーカー
9 視聴位置

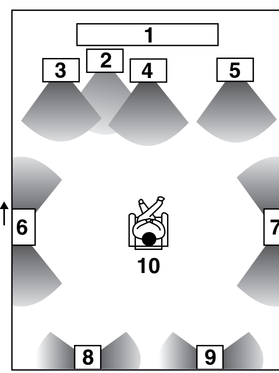
■サラウンドバックスピーカーが2本の場合

2本のサラウンドバックスピーカーを使用するには、本機のPRE OUT端子にパワーアンプを接続し、そのアンプにスピーカーを接続します。(☞29ページ)
設置例1は、ダイポール型スピーカーを設置した場合です。

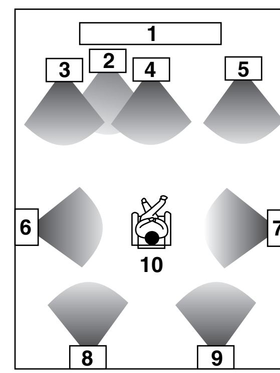
ダイポール型スピーカーとは、前と後ろなど、二つの方向に同じ音を出す、双指向性スピーカーのことです。
ダイポール型スピーカーでは位相*を合わせるため、多くはスピーカーに矢印表示が書いてあります。サラウンドスピーカーは矢印(↑)がスクリーンへ向かうように配置し、サラウンドバックスピーカーは、お互いの矢印(→)が向き合うように配置してください。

*位相: 正弦波の1周期(0〜360度)における波形の位置を示す言葉。各スピーカー間の距離や取り付け角度、+、−の配線間違いなどで位相が合っていないと、音像や音場が不明瞭になったり、聞きづらさがあったりします。

設置例1

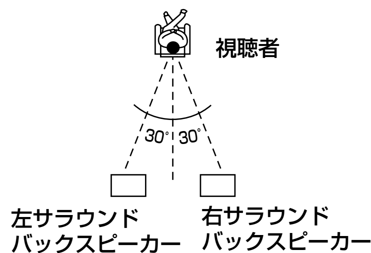


設置例2



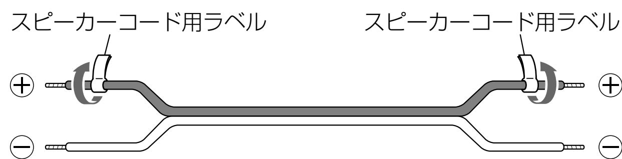
1 テレビまたはスクリーン
2 サブウーファー
3 左フロントスピーカー
4 センタースピーカー
5 右フロントスピーカー
6 左サラウンドスピーカー
7 右サラウンドスピーカー
8 左サラウンドバックスピーカー
9 右サラウンドバックスピーカー
10 視聴位置

左右サラウンドバックスピーカーは、視聴者と各スピーカーの角度が約30°になるように、視聴者の後部に配置します。（THX社推奨）また、視聴者の耳より1m高い位置にスピーカーを配置してください。



スピーカーコード用ラベルの使いかた

本機はスピーカー端子の⊕側に色をつけて識別しやすくしています。付属のスピーカーコード用ラベルをお持ちのスピーカーコード両端のプラス⊕に貼ると識別が簡単になります。
本機のスピーカー端子は以下のように色分けしています。



左フロント	：白	左フロントスピーカーのコード両端（⊕側）に白いラベルを貼る
右フロント	：赤	右フロントスピーカーのコード両端（⊕側）に赤いラベルを貼る
センター	：緑	センタースピーカーのコード両端（⊕側）に緑のラベルを貼る
左サラウンド	：青	左サラウンドスピーカーのコード両端（⊕側）に青いラベルを貼る
右サラウンド	：灰	右サラウンドスピーカーのコード両端（⊕側）に灰色のラベルを貼る
サラウンドバック	：茶	サラウンドバックスピーカーのコード両端（⊕側）に茶色のラベルを貼る

スピーカーコードの接続

本機のスピーカー端子のプラス⊕とスピーカーのプラス⊕端子にラベルを貼った側のスピーカーコードを接続します。本機のスピーカー端子のマイナス⊖とスピーカーのマイナス⊖端子とをラベルの貼っていない側のスピーカーコードで接続します。

①スピーカーコードの被覆を15mmカットする

15mm

②しん線の先端をしっかりとよじる

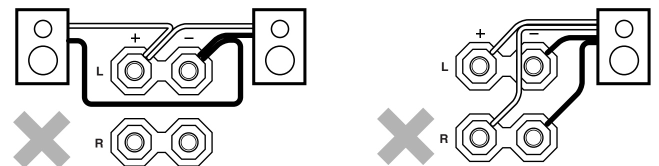
③ねじをゆるめる

④しん線を差し込む

⑤ねじを締め付ける

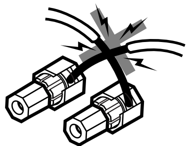
ご注意

- プラス⊕とマイナス⊖を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると音声が不自然になりますのでご注意ください。
- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。
- 1台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合、1台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。



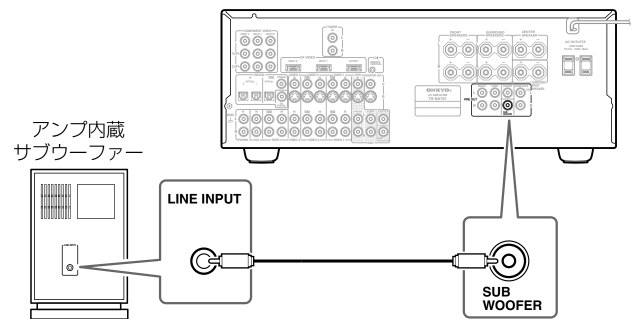
危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスを絶対に接触させないでください。



サブウーファーを接続する

パワーアンプ内蔵のサブウーファーをPRE OUT SUBWOOFER端子に接続します。



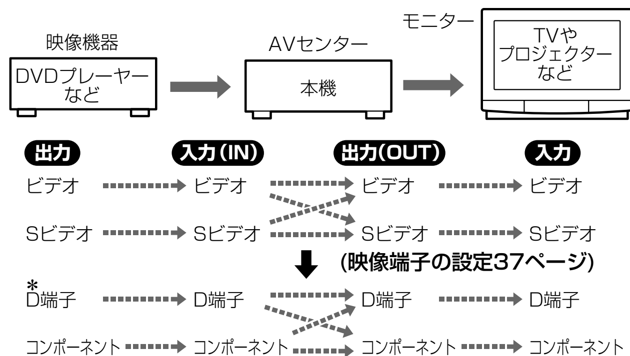
接続をする

テレビやプロジェクターなどのモニターを接続する

映像や操作内容をテレビなどのモニターに映すための接続です。

映像接続のしくみ

本機にはビデオ、Sビデオ、D端子、コンポーネントの4種類の映像入出力端子があります。接続する機器に合わせて使います。

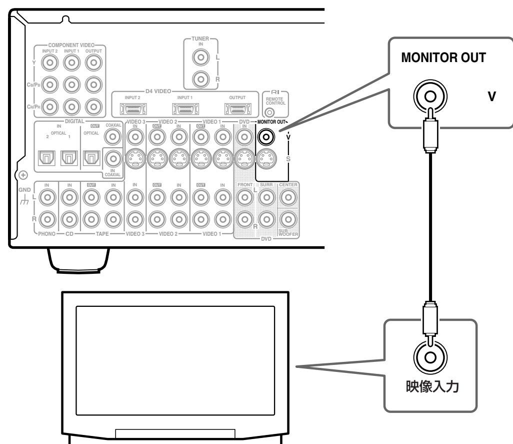


- 映像機器をD端子やコンポーネント端子を使って接続するときは、モニターと本機もD端子またはコンポーネント接続をする必要があります。ビデオ端子またはSビデオ端子を使って接続するときは、映像端子の設定(☞37ページ)をすると、モニターと本機をビデオまたはSビデオ接続しなくてもD端子やコンポーネント接続から映像を出力することができます。

＊映像機器の映像出力からモニターの映像入力までD端子接続している場合のみ、アスペクト比などの制御信号を送れます。

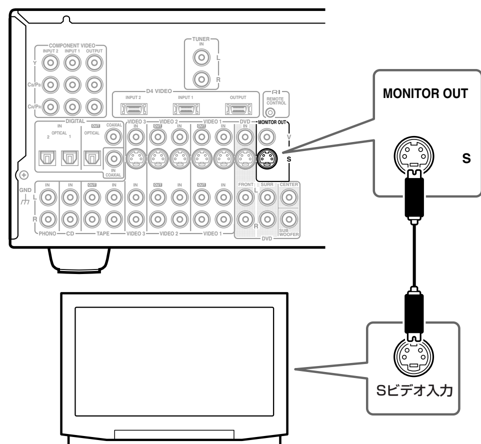
■ビデオ（コンポジット）入力端子と本機を接続する

ビデオコードでモニターの映像入力端子と本機のV MONITOR OUT端子を接続します。



■Sビデオ入力端子がある場合

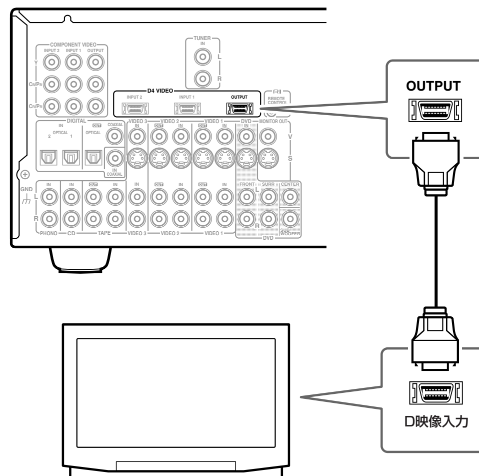
SビデオコードでモニターのSビデオ入力端子と本機のS MONITOR OUT端子を接続します。



映像機器をコンポーネント接続またはD端子接続する場合、モニターも下記のいずれかの接続をします。ただし、D端子とコンポーネント端子は内部で並列に接続されていますので、両方同時に接続しないでください。

■D入力端子がある場合

D端子用接続コードでモニターのD映像入力端子と本機のD4 VIDEO OUTPUT端子を接続します。

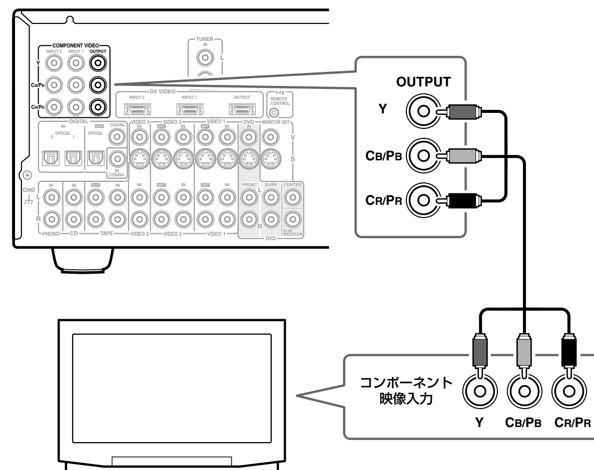


ご注意

D端子接続した場合は、コンポーネント端子の接続はしないでください。

■コンポーネント入力端子がある場合

コンポーネントビデオコードでモニターのコンポーネント映像入力端子と本機のCOMPONENT VIDEO OUTPUT端子を接続します。

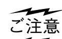


ご注意

コンポーネント端子接続した場合は、D端子の接続はしないでください。

映像機器を接続する　映像機器はそれぞれ「映像の接続」と「音声の接続」が必要です。

DVDプレーヤーの接続



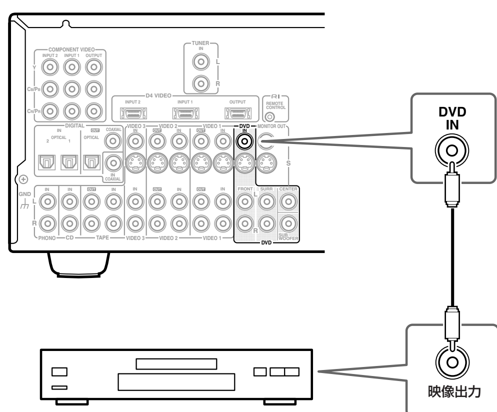
D4 VIDEO INPUT/OUTPUT端子とCOMPONENT VIDEO INPUT/OUTPUT端子は内部で並列に接続されていますので、1つの入力系統に両方を接続しないでください。たとえばD4 VIDEO端子のINPUT 1に映像機器を接続した場合は、COMPONENT VIDEO端子のINPUT 1には何も接続しないでください。

映像の接続

以下のいずれかの接続をします。

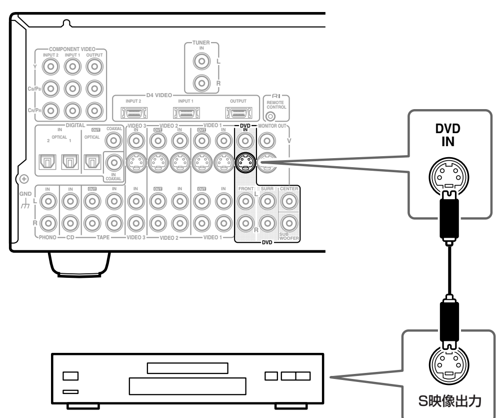
■ビデオ（コンポジット）出力端子を接続する場合

ビデオコードでDVDプレーヤーの映像出力端子と本機のV DVD IN端子を接続します。



■Sビデオ出力端子がある場合

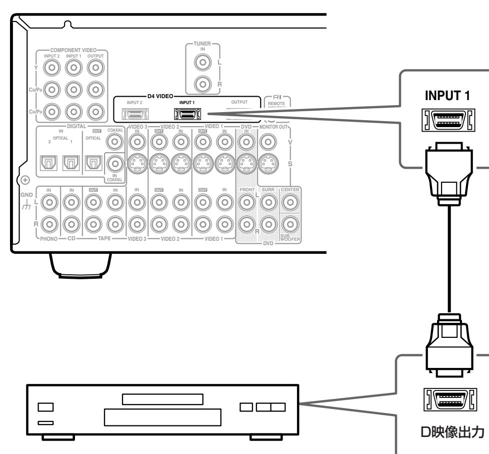
SビデオコードでDVDプレーヤーのS映像出力端子と本機のS DVD IN端子を接続します。ビデオ（コンポジット）接続より、良い画質が得られます。



■D映像出力端子がある場合

D端子用接続コードでDVDプレーヤーのD映像出力端子と本機のD4 VIDEO INPUT 1端子を接続します。Sビデオ接続より、良い画質を得られます。

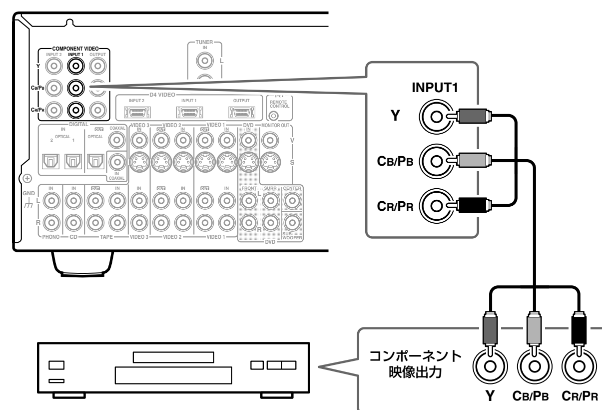
- モニターと本機もD端子またはコンポーネント接続をする必要があります。



■コンポーネント映像出力端子がある場合

コンポーネントビデオコードでDVDプレーヤーのコンポーネント映像出力端子と本機のCOMPONENT VIDEO INPUT1端子を接続します。Sビデオ接続より、良い画質を得られます。

- モニターと本機もコンポーネントまたはD端子接続をする必要があります。



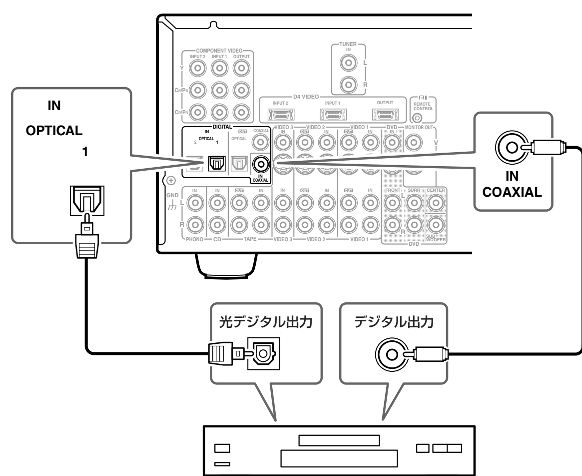
接続をする

音声の接続

■デジタル接続

本機でドルビーデジタルなどのデジタル音声をお楽しみいただけます。以下のいずれかの接続をします。

- OPTICALタイプの音声出力端子がある場合、光デジタルケーブルでDVDプレーヤーの光デジタル出力端子と本機のDIGITAL IN（OPTICAL 1）端子を接続します。
- COAXIALタイプの音声出力端子がある場合、同軸デジタルケーブルでDVDプレーヤーのデジタル出力端子と本機のDIGITAL IN（COAXIAL）端子を接続します。

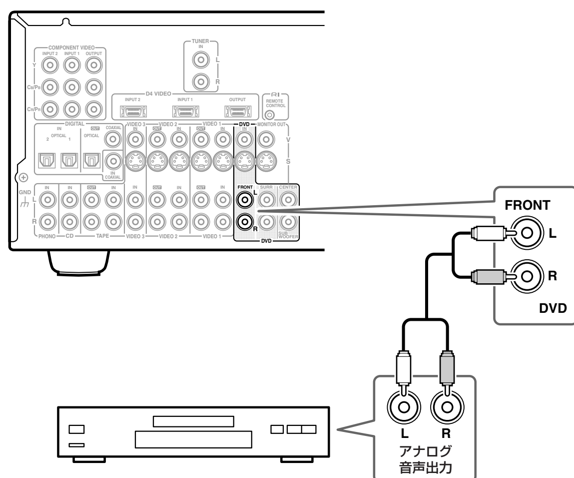


ご注意

DVDのデジタル入力はOPTICAL 1に設定されています。
OPTICAL 2やCOAXIALに接続した場合は、「デジタル入力端子の設定」を変更する必要があります。（☞36ページ）

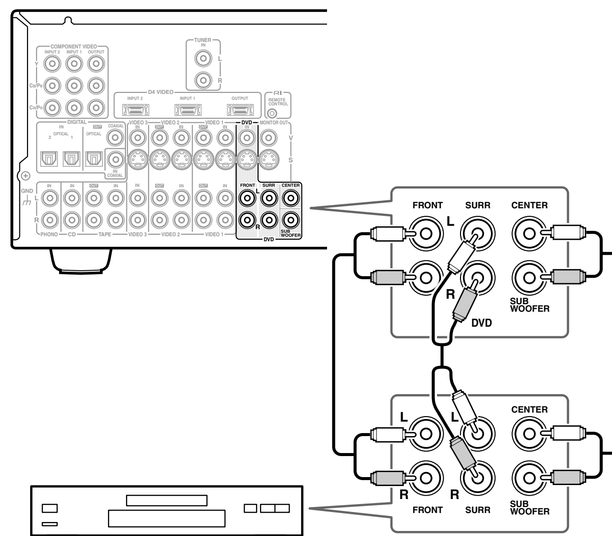
■アナログ接続

DVDの音声をアナログ録音する場合やオンキヨー製品で本機とRI連動させる場合の接続です。
オーディオ用ピンコードでDVDプレーヤーの音声出力端子と本機のDVD FRONT L/R端子を接続します。



■マルチチャンネル(5.1ch)出力端子がある場合

DVDオーディオなどのマルチチャンネル音声に対応している機器の場合、DVDオーディオなどの再生がお楽しみいただけます。
マルチチャンネル接続コードまたは、オーディオ用ピンコード3本を使ってDVDプレーヤーのマルチチャンネル出力端子と本機のDVD FRONT L/R、SURR L/R、CENTER、SUBWOOFER端子を接続します。



ご注意

DVDプレーヤーに5.1チャンネルと2チャンネルの両方の出力端子がある場合で、本機のDVD IN FRONT L/R端子だけを接続するときはDVDプレーヤーの2チャンネル出力端子と接続してください。

ビデオデッキの接続

■ VHSビデオまたはS-VHSビデオの場合

映像の接続

ビデオの映像を本機を通してお楽しみいただけます。

Sビデオ端子またはビデオ（コンポジット）端子を接続する

Sビデオコードでビデオデッキの Sビデオ出力端子と本機のS VIDEO 1 IN端子を接続します。コンポジット接続より、良い画質が得られます。

- モニターと本機もSビデオ接続をする必要があります。

ビデオ（コンポジット）接続の場合は、ビデオコードでビデオデッキの映像出力端子と本機のVIDEO 1 IN端子を接続します。

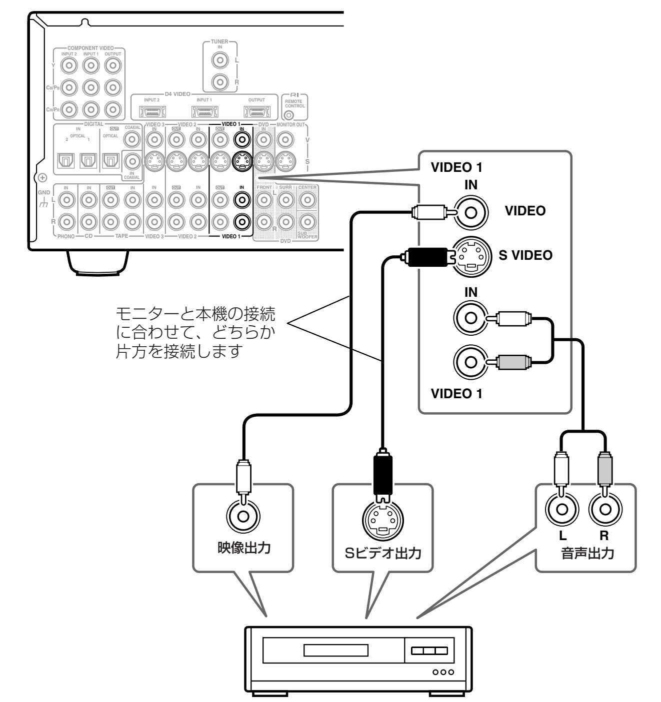
- モニターと本機もビデオ（コンポジット）接続をする必要があります。

音声の接続

本機でビデオデッキの音声をお楽しみいただけます。

アナログ接続

オーディオ用ピンコードでビデオデッキの音声出力端子と本機のVIDEO 1 IN L/R端子を接続します。



■ D-VHSビデオ（デジタル機能のあるビデオデッキ）の場合

映像の接続

ビデオの映像を本機を通してお楽しみいただけます。

D映像端子またはコンポーネント端子を接続する

D端子接続の場合は、D端子用接続コードでビデオデッキのD映像出力端子と本機のD4 VIDEO INPUT 2端子を接続します。S映像接続より、良い画質が得られます。

- モニターと本機もD端子またはコンポーネント接続をする必要があります。

コンポーネント接続の場合は、コンポーネントビデオコードで、ビデオデッキのコンポーネント映像出力端子と本機のCOMPONENT VIDEO INPUT 2端子を接続します。S映像接続より、良い画質が得られます。

- モニターと本機もコンポーネントまたはD端子接続をする必要があります。

音声の接続

本機でデジタル音声をお楽しみいただけます。

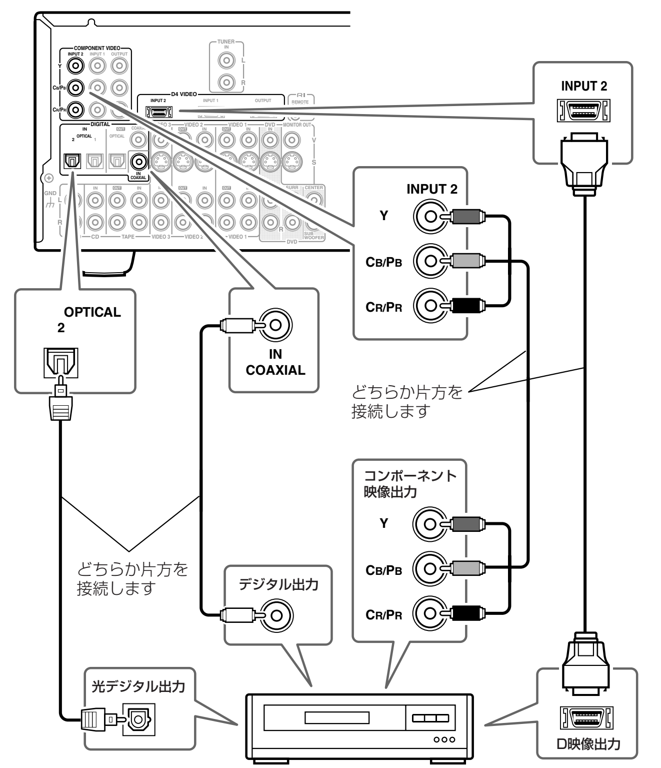
デジタル接続（D-VHSビデオ）

OPTICALタイプの音声出力端子がある場合は、ビデオデッキのデジタル出力端子と本機のDIGITAL IN（OPTICAL 2）端子を接続します。

COAXIALタイプの音声出力端子がある場合、ビデオデッキのデジタル出力端子と本機のDIGITAL IN（COAXIAL）端子を接続します。

ご注意

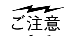
デジタル入力はあらかじめ設定されています。デジタル接続する場合は、「デジタル入力端子の設定」を変更する必要があります。（☞36ページ）



接続をする

■本機を通して録画するには

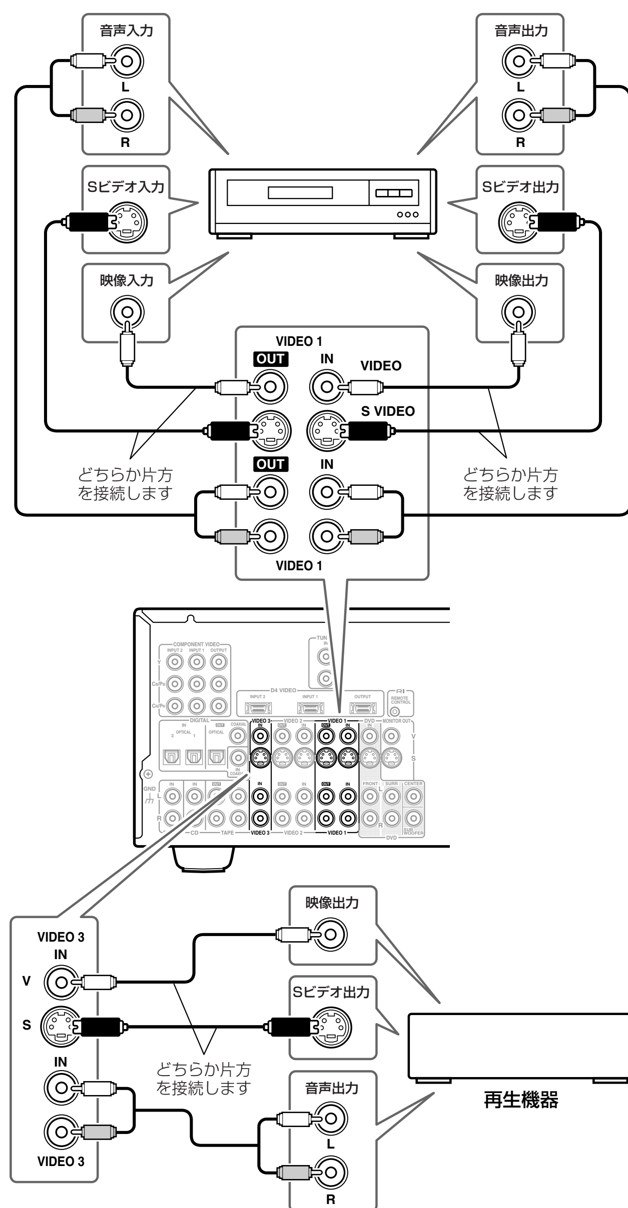
本機のS VIDEO 1 OUT端子とビデオデッキのS映像入力端子、または本機のV VIDEO 1 OUT端子とビデオデッキのVIDEO入力端子を接続します。
オーディオ用ピンコードで本機のVIDEO 1 OUT L/R端子とビデオデッキの音声入力端子を接続します。
テレビなどの再生機器の音声出力端子と本機の音声入力端子を接続します。



ビデオ端子に入力される信号は、ビデオ端子でしか録画できません。テレビなどの再生機器をビデオ端子接続した場合は、ビデオデッキなどの録画機器もビデオ端子接続をしてください。
また、S端子に入力される信号はS端子でしか録画できません。テレビなどの再生機器をS端子接続した場合は、ビデオデッキなどの録画機器もS端子接続をしてください。



録画をするときは本機の電源を入れる必要があります。本機がスタンバイ状態のままでは録画できません。



■本機を通さずに録画するには

テレビなどの再生機器の映像出力端子を直接ビデオデッキの映像入力端子に接続します。
再生機器の音声出力端子も直接ビデオデッキの音声入力端子に接続します。
詳細はお手持ちのビデオデッキや再生機器の取扱説明書をご覧ください。

テレビ、BSチューナー、LDプレーヤーなどの接続

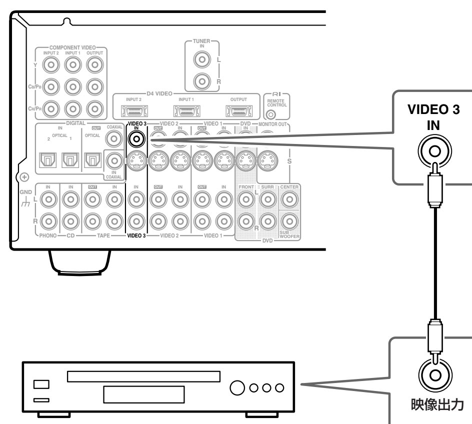
映像の接続

以下のいずれかの接続をします。コンポーネント端子またはD端子の接続をする場合は、本機とモニターもD端子またはコンポーネント端子の接続をしてください。
テレビを接続する場合は、以下の映像の接続をする必要はありません。音声の接続のみをします。

■ビデオ（コンポジット）出力端子がある場合

ビデオコードで接続する機器の映像出力端子と本機のV VIDEO 3 IN端子を接続します。

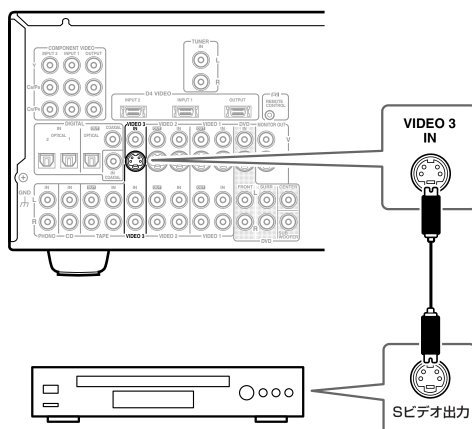
- モニターと本機もビデオ（コンポジット）接続をする必要があります。



■Sビデオ出力端子がある場合

Sビデオコードで接続する機器のSビデオ出力端子と本機のS VIDEO 3 IN端子を接続します。ビデオ接続より、良い画質が得られます。

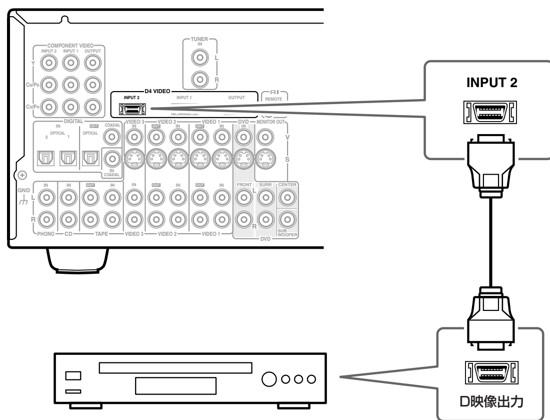
- モニターと本機もSビデオ接続をする必要があります。



■D映像出力端子がある場合

D端子用接続コードで接続する機器のD映像出力端子と本機のD4 VIDEO INPUT 2端子を接続します。Sビデオ接続より、良い画質を得られます。

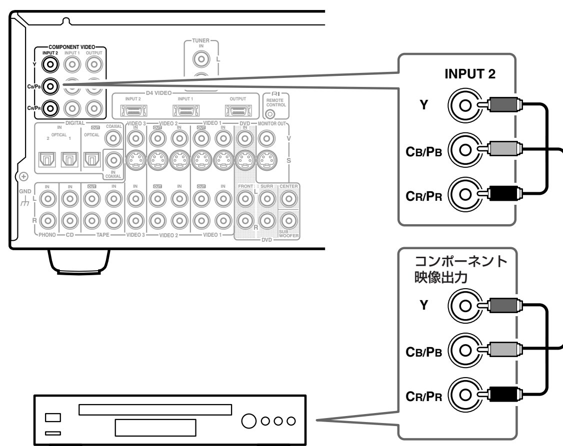
- モニターと本機もD端子またはコンポーネント接続をする必要があります。



■コンポーネント映像出力端子がある場合

コンポーネントビデオコードで接続する機器のコンポーネント映像出力端子と本機のCOMPONENT VIDEO INPUT 2端子を接続します。Sビデオ接続より、良い画質を得られます。

- モニターと本機もコンポーネントまたはD端子接続をする必要があります。



音声の接続

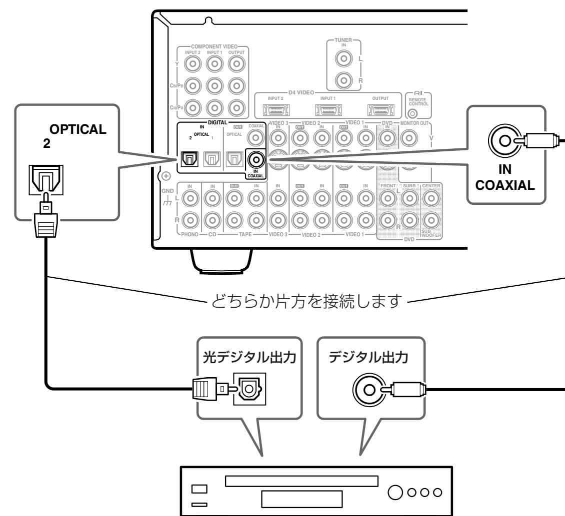
■デジタル接続

本機でデジタル音声をお楽しみいただけます。

- OPTICALタイプの音声出力端子がある場合、光デジタルケーブルで接続する機器の光デジタル出力端子と本機のDIGITAL IN（OPTICAL 2）端子を接続します。
- COAXIALタイプの音声出力端子がある場合、同軸デジタルケーブルで接続する機器のデジタル出力端子と本機のDIGITAL IN（COAXIAL）端子を接続します。

ご注意

デジタル入力はあらかじめ設定されています。デジタル接続する場合は、「デジタル入力端子の設定」を変更する必要があります。（☞36ページ）

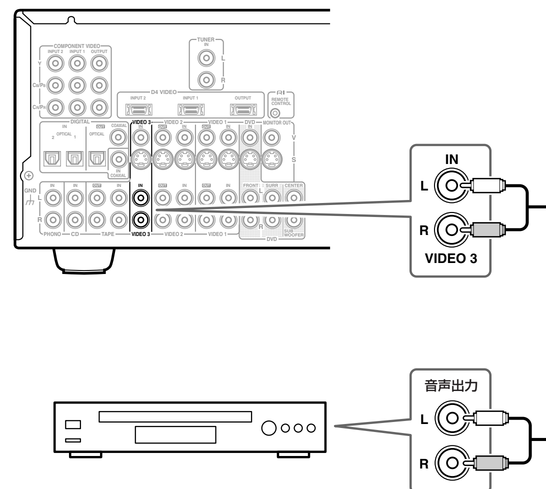


ご注意

本機にLDプレーヤーのAC-3RF出力端子は直接接続できません。LDプレーヤーでドルビーデジタル5.1chソフトをお楽しみいただくには、市販のデモジュレーターが必要です。

■アナログ接続

デジタル音声出力端子がない場合や接続する機器の音声をアナログ録音する場合は、オーディオ用ピンコードで接続する機器の音声出力端子と本機のVIDEO 3 IN L/R端子を接続します。



接続をする

ビデオカメラやテレビゲームの接続

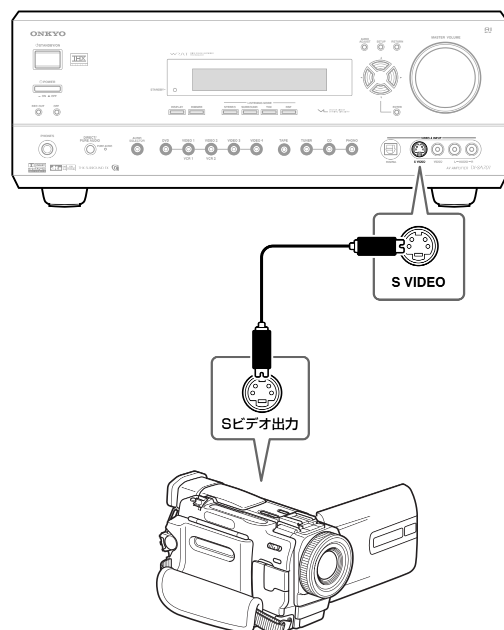
ビデオカメラやテレビゲームを前面パネルの端子に接続できます。

映像の接続

■Sビデオ出力端子がある場合

Sビデオコードで接続する機器のS映像出力端子と本機前面のVIDEO 4 INPUT S VIDEO端子を接続します。

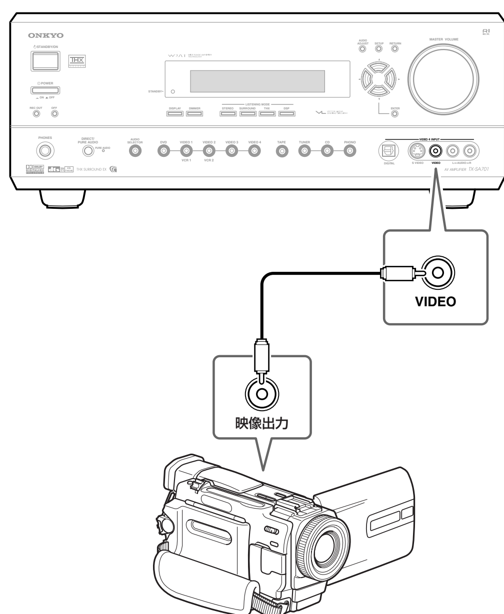
- モニターと本機もSビデオ接続をする必要があります。



■Sビデオ出力端子がない場合

ビデオコードで接続する機器のビデオ（コンポジット）出力端子と本機前面のVIDEO 4 INPUT VIDEO端子を接続します。

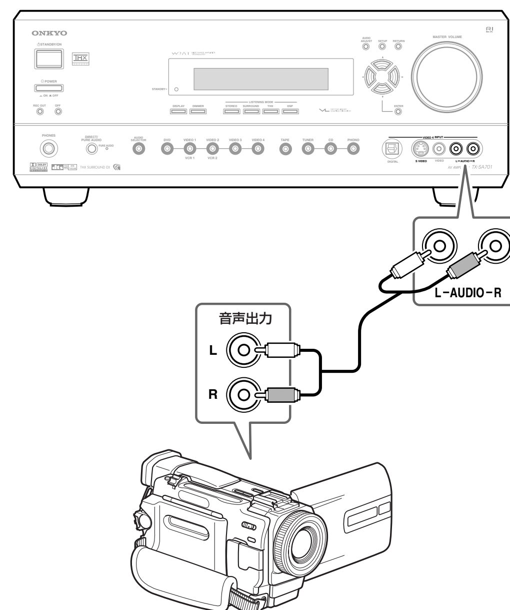
- モニターと本機もビデオ（コンポジット）接続をする必要があります。



音声の接続

■アナログ接続

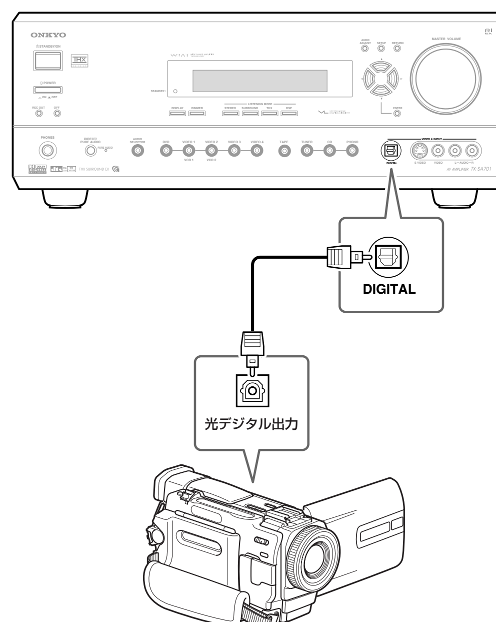
オーディオ用ピンコードで接続する機器の音声出力端子と本機前面のAUDIO INPUT端子を接続します。



■デジタル出力端子がある場合

本機でデジタル音声をお楽しみいただけます。

光デジタルケーブルで接続する機器の光デジタル出力端子と、本機前面のVIDEO 4 INPUT DIGITAL端子を接続します。



オーディオ機器を接続する

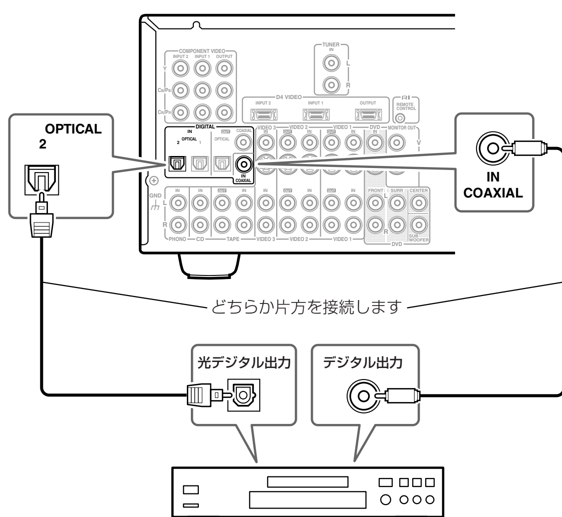
CDプレーヤーを接続する

■デジタル接続

CDは左右フロント2チャンネルで記録されているため、デジタル接続をしてもドルビーデジタルなどの音声はお楽しみいただけません。また、アナログ接続のみでもドルビープロロジックIIなどのサラウンド効果がお楽しみいただけます。

OPTICALタイプの音声出力端子がある場合は、光デジタルケーブルでCDプレーヤーの光デジタル出力端子と本機のDIGITAL IN（OPTICAL）端子を接続します。

COAXIALタイプの音声出力端子がある場合は、同軸デジタルケーブルでCDプレーヤーのデジタル出力端子と本機のDIGITAL IN（COAXIAL）端子を接続します。



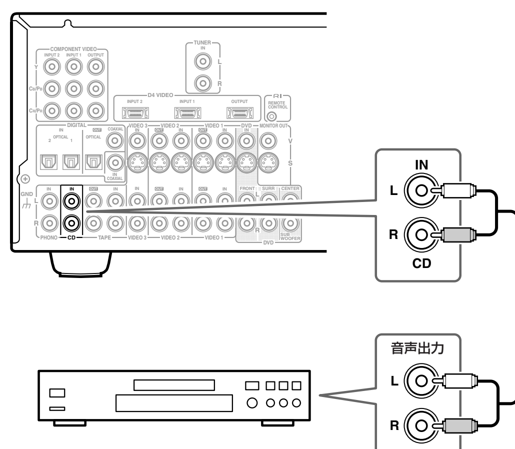
ご注意

CDのデジタル入力はCOAXIALに設定されています。OPTICAL端子に接続した場合は「デジタル入力端子の設定」を変更する必要があります。（☞36ページ）

■アナログ接続

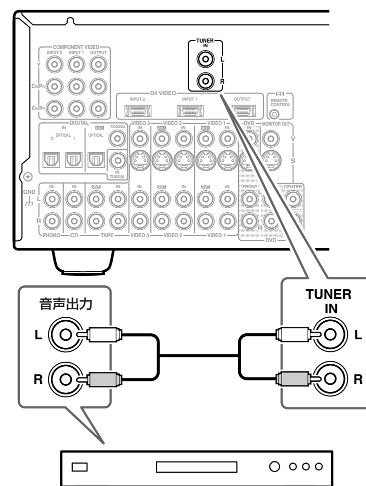
アナログ録音をする場合やオンキヨー製CDプレーヤーで本機とRI連動をさせる場合の接続です。

オーディオ用ピンコードで、CDプレーヤーの音声出力端子と本機のCD IN L/R端子を接続します。



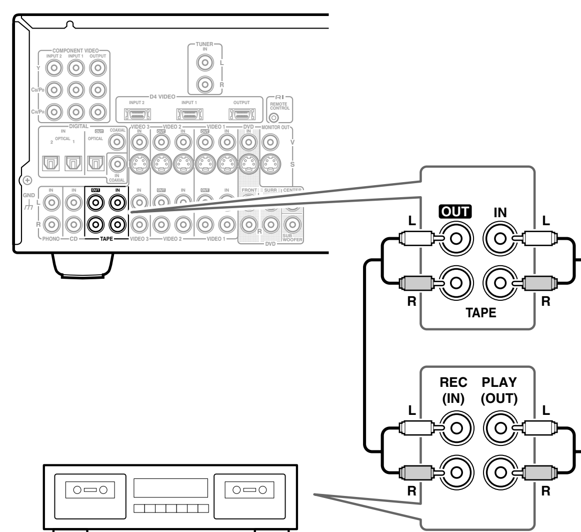
チューナーを接続する

オーディオ用ピンコードで、チューナーの音声出力端子と本機のTUNER IN L/R端子を接続します。



カセットデッキを接続する

オーディオ用ピンコードでカセットデッキの音声出力端子(PLAY)と本機のTAPE IN L/R端子を接続します。また、音声入力端子(REC)と本機のTAPE OUT L/R端子を接続します。



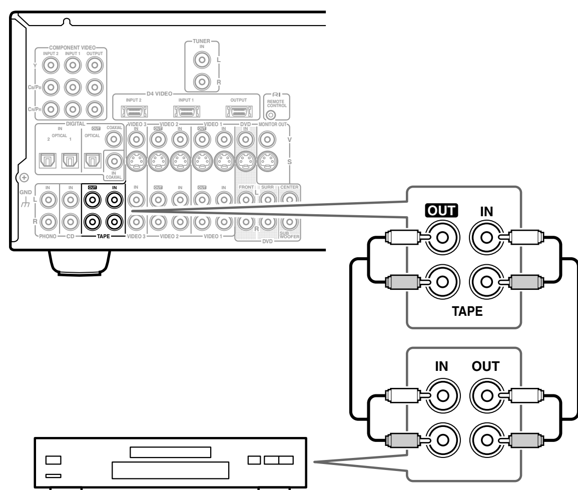
接続をする

MDレコーダー、DAT、CDレコーダーを接続する

カセットデッキの代わりにMDレコーダー、DAT、CDレコーダーなどの録音機器を接続することができます。

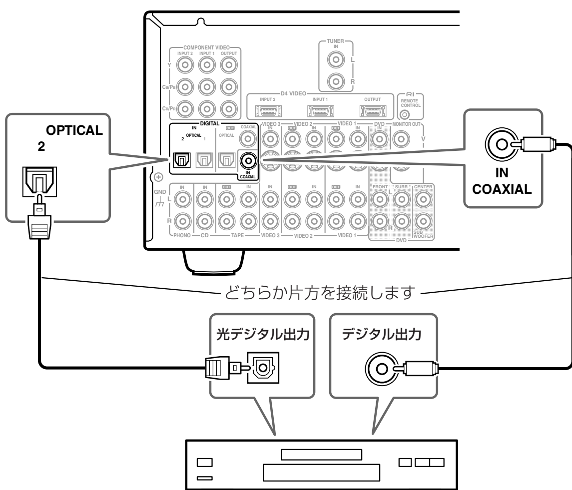
■ アナログ接続

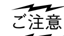
オーディオ用ピンコードで接続する機器の音声出力端子(PLAY)と本機のTAPE IN L/R端子を接続します。また、音声入力端子(REC)と本機のTAPE OUT L/R端子を接続します。



■ デジタル接続（入力端子の接続）

接続する機器にOPTICALタイプの音声出力端子がある場合は、光デジタルケーブルで本機のDIGITAL IN(OPTICAL)端子と接続します。
COAXIALタイプの音声出力端子がある場合は、同軸デジタルケーブルで本機のDIGITAL IN(COAXIAL)端子と接続します。

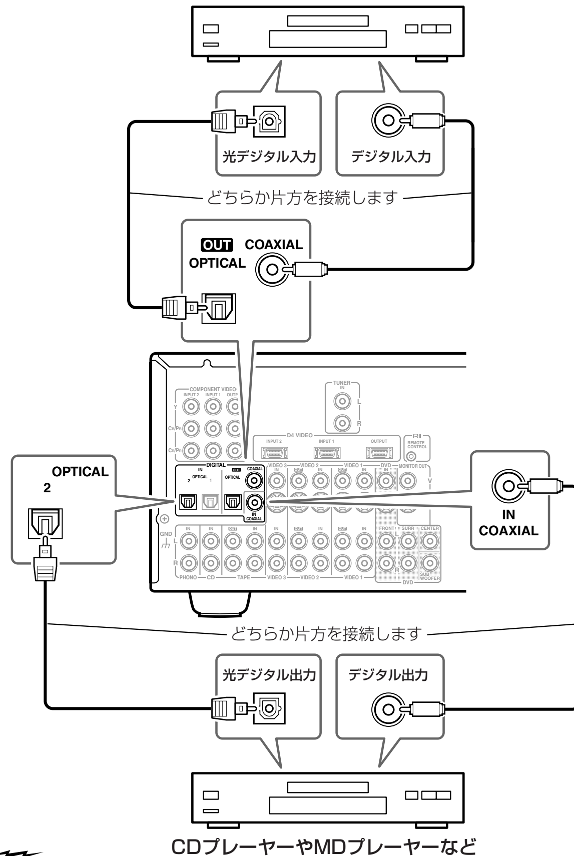




デジタル入力はあらかじめ設定されています。デジタル接続する場合は、「デジタル入力端子の設定」を変更する必要があります。

■ デジタル録音をするには

接続する機器にデジタル入力端子がある場合は本機のDIGITAL OUT端子に接続するとデジタル録音ができます。
接続する機器の端子の形状に合わせて、OPTICALもしくはCOAXIAL端子のどちらかに接続してください。
デジタル録音ができる音声信号はDIGITAL IN端子に入力された信号のみです。

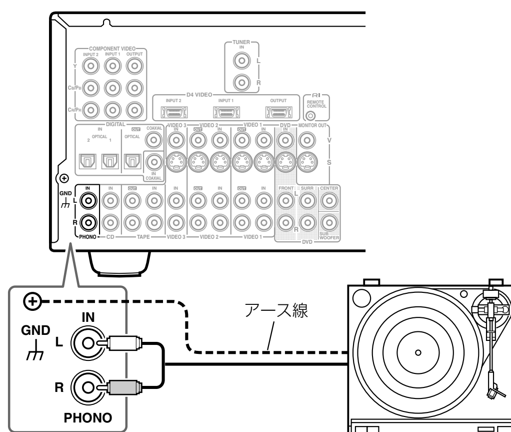




録音機器のデジタル入力端子と本機のDIGITAL OUT端子を接続する場合は、同じ機器のデジタル出力端子は接続しないでください。故障の原因となります。

レコードプレーヤーを接続する

本機は、ムービーングマグネット(MM)カートリッジを使用するレコードプレーヤー用に設計されています。レコードプレーヤーの接続コードを本機のPHONO IN L/R端子に接続します。



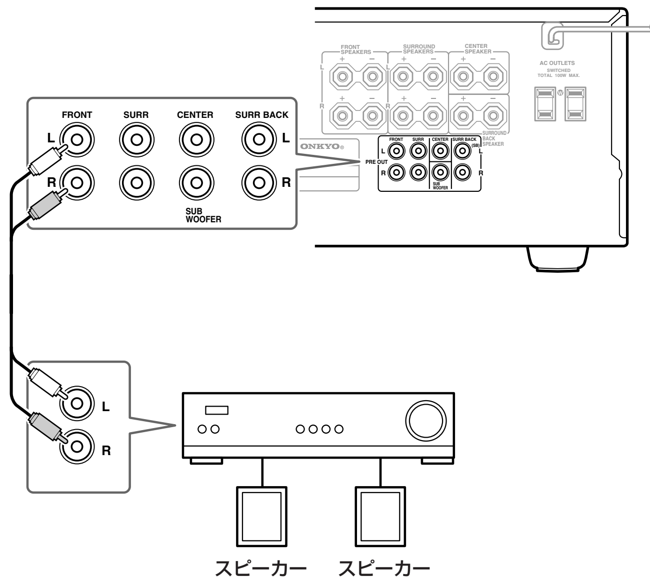


- アース(接地)線のあるレコードプレーヤーは、アース線を本機のGND端子に接続してください。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆にノイズが大きくなることがあります。その場合は、アース線を接続する必要はありません。
- MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをご使用になる場合は、レコードプレーヤーに昇圧トランスまたはヘッドアンプを接続します。次に、昇圧トランスやヘッドアンプの音声出力端子と本機のPHONO IN L/R端子を接続します。

パワーアンプを接続する

パワーアンプを本機に接続し、本機をプリアンプとして使用することができます。本機だけでは出力できない大音量で再生できるようになります。
プリメインアンプをパワーアンプとして使うこともできます。
パワーアンプの音声入力端子と本機のPRE OUT端子を接続します。下の図は、PRE OUT FRONT端子にパワーアンプの音声入力端子を接続する場合のイラストです。

サラウンドバックスピーカーにパワーアンプを接続する場合は、スピーカーの設定が必要です。18ページ、34ページに詳しい説明がありますので、あわせてご覧ください。

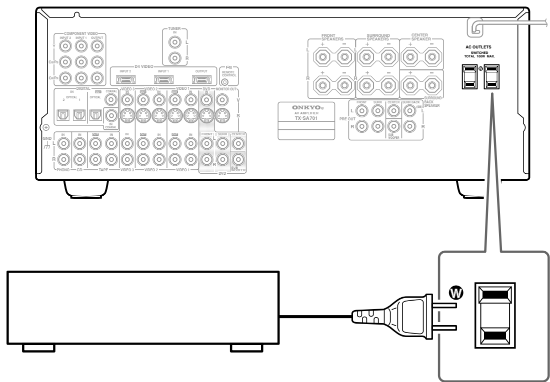


他機の電源プラグを本機につなぐ（AC OUTLETS）

本機は後面に電源コンセントがありますので、組み合わせて使用する製品の電源プラグを差し込むことができます。スタンバイ状態のときに本機の電源を入れると他機の電源も連動して入ります。
RI端子付きのオンキヨー製品は、常時通電しているコンセントにつないでください。

ご注意

接続には2つの電源コンセントがありますが、合計で100Wを超える機器は接続しないでください。



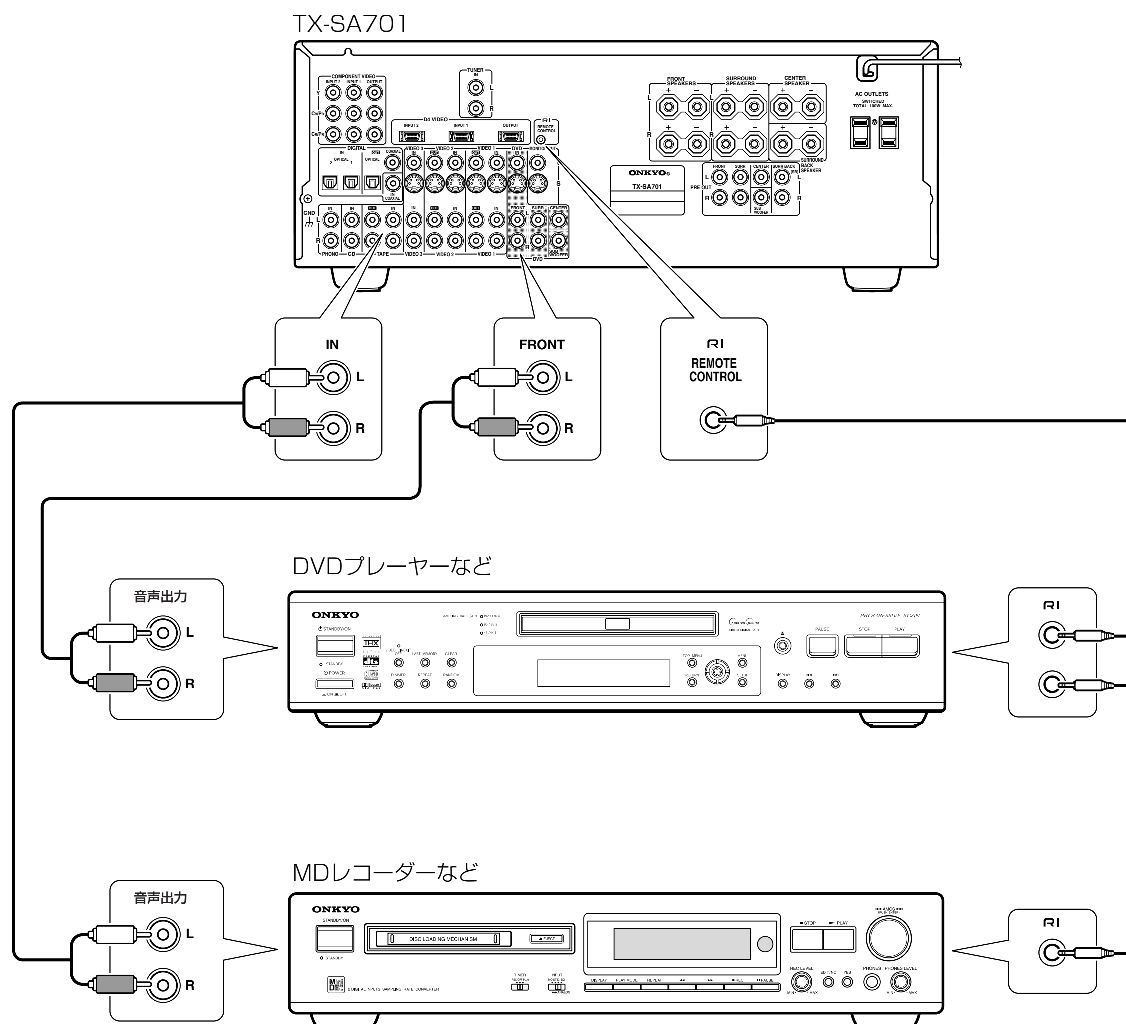
よりよい音で聞いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。他機の電源コードに目印がある場合は目印線側を本機の電源コンセントのⓌ側に合わせてください。他機の電源コードに目印がない場合はどちらを接続してもかまいません。

TX-SA701(17-32)(SN29343498) 29 03.4.11, 5:54 PM

オンキヨー製品と連動させる接続

RI端子付きのオンキヨー製品にRIケーブルとオーディオ用ピンコードを接続すると、以下のような連動機能が可能です。
RIケーブルとは、オンキヨーのシステム動作用ケーブルです。（本機には付属していません）
RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。17〜29ページを参照し、オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。



オートパワーオン機能

本機がスタンバイ状態のとき、接続した機器の電源を入れたり、再生を始めると、本機の電源が自動的に入ります。また、本機の電源を切ると接続されている機器全体の電源も切れます。



RI接続した機器の電源コードが本機の電源コンセント（AC OUTLETS）に接続されている場合はこの機能は働きません。

ダイレクトチェンジ機能

RI接続されている機器を再生すると、本機の入力が自動的に切り換わります。

リモコン操作機能

本機に付属のリモコンで各機器を操作することができます。



- 製品によってはRI接続をしても一部の機能が働かないことがあります。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- RIケーブルの接続は順序の指定はありません。
- RI端子が2つある場合、2つの端子の働きは同じです。どちらにもつなげます。

RIオーディオコントロール端子付きテレビとの連動について

本機はRI端子を持つテレビと接続すると次の動作が可能になります。

① テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入り、入力が切り換わります。
このときテレビの音は消え、本機に接続されたスピーカーから音が出ます。また、テレビを切る（スタンバイにする）と、本機もスタンバイ状態になります。ただし、本機で他の入力を選んでいる場合は、スタンバイ状態になりません。

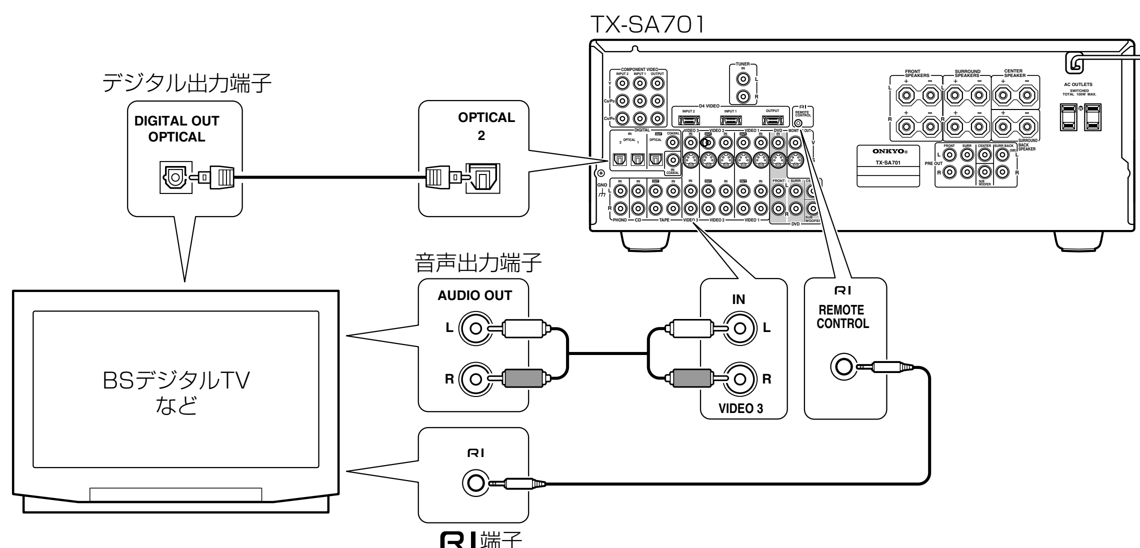
② テレビに付属のリモコンで本機の音量調整、ミューティング（消音）ができます。

③ 本機をスタンバイ状態にするとテレビの音が復帰し、テレビに付属のリモコンでテレビ側の機能（音量、消音）をコントロールできるようになります。

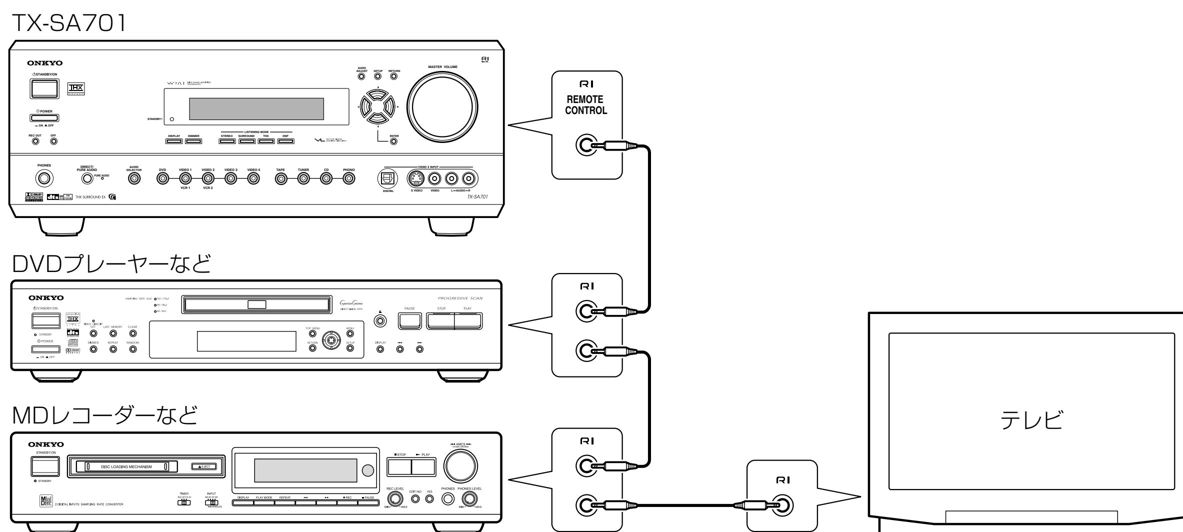
連動動作が可能なテレビについては、テレビのカタログや取扱説明書で、RI端子が装備されているかどうかをご確認ください。
本機にケーブルは付属していません。モノラルミニプラグコード（抵抗なし）を別途お求めください。

接続のしかた

- 本機のVIDEO（ビデオ） 3音声入力（VIDEO 3 IN L/R）端子を接続する
- モノラルミニプラグコードでテレビのRIオーディオコントロール端子と本機のRI端子を接続する
- テレビの光デジタル音声出力端子と本機のDIGITAL（デジタル） IN（イン）（OPTICAL（オプティカル） 2）端子と接続する
（テレビに光デジタル音声出力端子がない場合は接続する必要はありません）

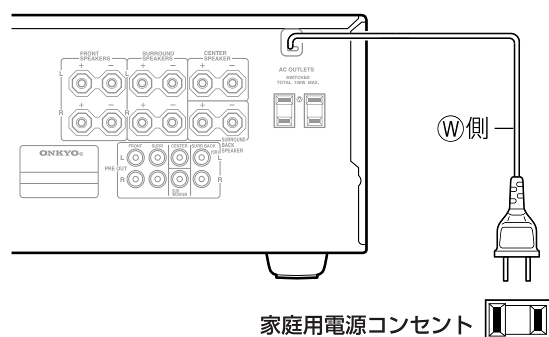


- 他のオンキヨー製品を接続する場合は、RIケーブルでRI端子どうしを接続してください。
- RI端子が2つある製品の場合、2つの働きは同じですのでどちらにでも接続できます。
- RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。



接続をする

電源コードを接続する



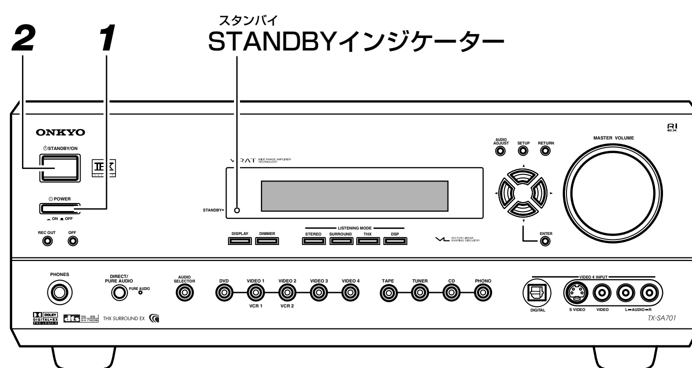
電源コードを接続する前に

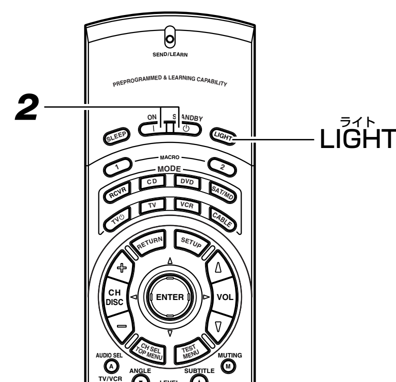
すべての接続が完了していることを確認してください。
本機の電源を入れると，瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。
コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

よりよい音で聞いていただくために

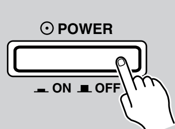
本機の電源コードは極性の管理がされています。電源コードの目印線（↑W↑）側を家庭用電源コンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合はどちらを接続してもかまいません。

電源を入れる





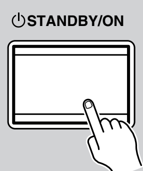
1



POWERスイッチを押して、主電源を入れる

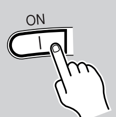
STANDBYインジケーターが点灯し、スタンバイ状態となります。
※お買い上げ時には、本機のPOWERスイッチは「ON」の状態になっていますので、電源コードのプラグをコンセントに差し込むとスタンバイ状態となります。

2



本体

または



リモコン

本体のSTANDBY/ONボタンまたはリモコンのONボタンを押す

STANDBYインジケーターが消え、表示部が点灯します。

スタンバイ状態に戻すには

本体のSTANDBY/ONボタンまたはリモコンのSTANDBYボタンを押します。

！ヒント

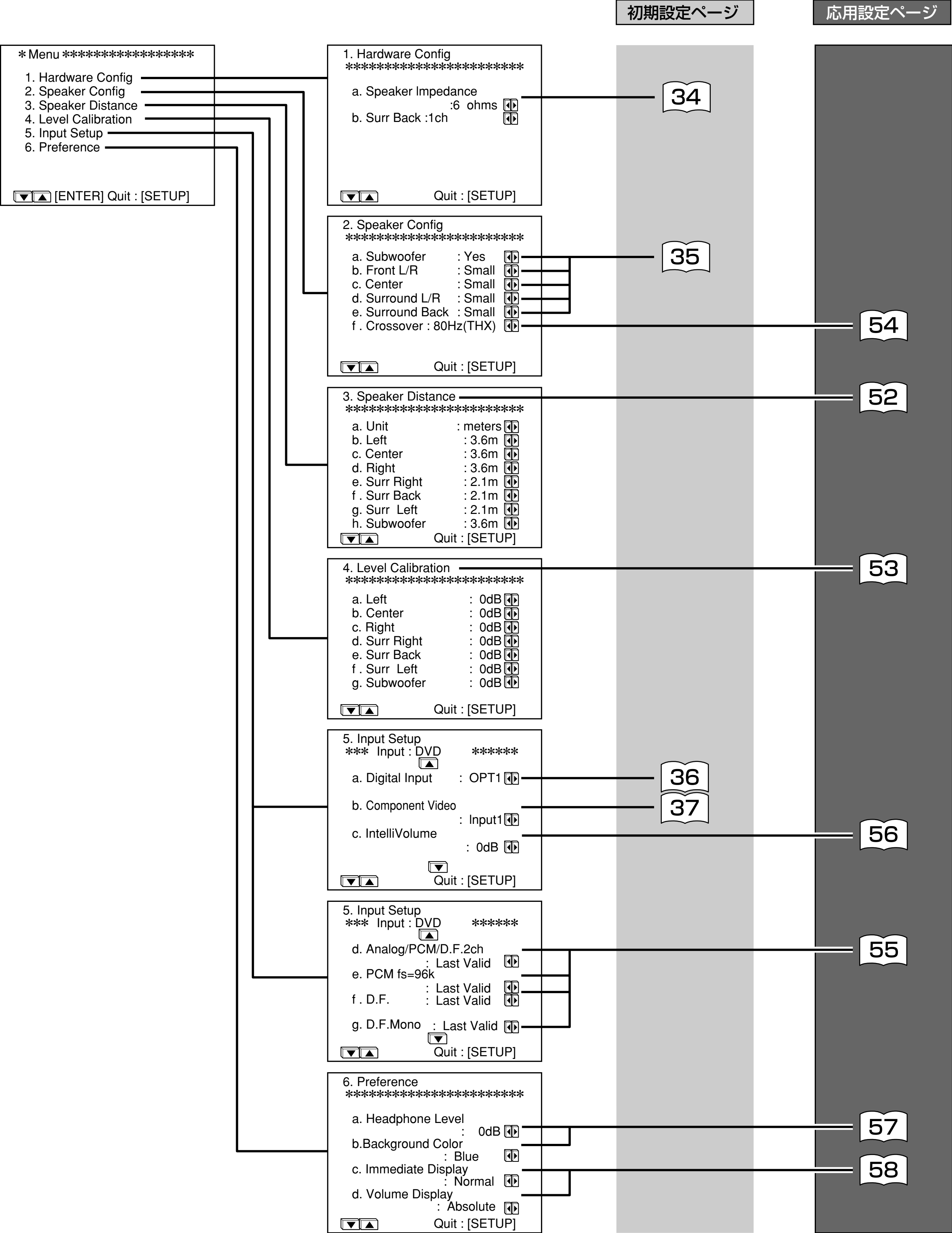
リモコンを薄暗い部屋などでお使いになるときは、LIGHTボタンを押してください。ボタンが内側から点灯し、文字が見やすくなります。

初期設定をする

OSDとは

OSDとはOn Screen Display（オン スクリーン ディスプレイ）の略で、本機での設定や操作内容を接続したテレビなどのモニターに大きく表示して操作をしやすくする機能です。

OSDマップ



初期設定をする

スピーカーに関する基本設定をする

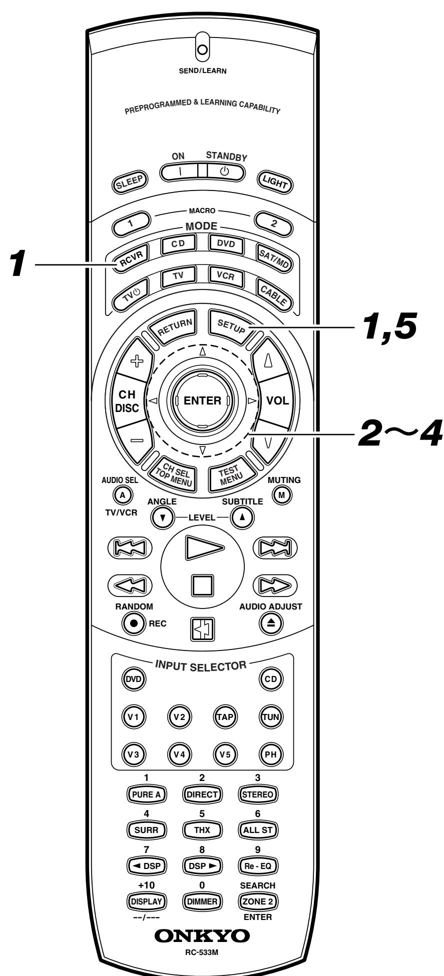
スピーカーインピーダンスおよびサラウンドバックスピーカーの接続台数を設定する

まずここでは、下記の2つの基本設定をしておきます。

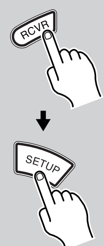
- 接続したスピーカーのインピーダンス（Ω）を設定します。各スピーカーの背面や取扱説明書でインピーダンス（Ω）をご確認ください。インピーダンスが6Ω以上の場合は、設定を変更する必要はありません。
- サラウンドバックスピーカーを接続している場合に、その本数を設定します。サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、設定を変更する必要はありません。

ご注意

設定を変更するときは、必ず本機の音量を最小にしてください。



1

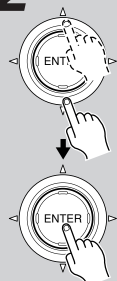


RCVR ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

```
＊Menu ******************
  1. Hardware Config
  2. Speaker Config
  3. Speaker Distance
  4. Level Calibration
  5. Input Setup
  6. Preference

▼▲ [ENTER] Quit : [SETUP]
```

2

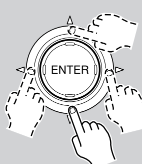


▲/▼ボタンで「1.Hardware Config」を選び、ENTERボタンを押す

```
1. Hardware Config
************************
  a. Speaker Impedance
                  :6  ohms
  b. Surr Back :1ch

▼▲                Quit : [SETUP]
```

3

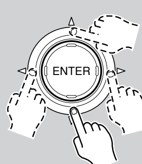


▲/▼ボタンを押して「a. Speaker Impedance」を選び、◀/▶ボタンで「4 ohms」または「6 ohms」を選ぶ

4 ohms：接続したスピーカーの中に1台でも4Ω～5Ωのスピーカーがある場合に選択します。

6 ohms：接続したスピーカーがすべて6Ω以上の場合に選択します。

4



▲/▼ボタンを押して「b. Surr Back」を選び、◀/▶ボタンで「1ch」または「2ch(Pre)」を選ぶ

1ch：サラウンドバックスピーカー1本をスピーカー端子（SURROUND BACK SPEAKER）に接続している場合に選択します。

2ch：サラウンドバックスピーカー2本をプリアウト端子（PRE SURR BACK）に接続した外部アンプに接続している場合に選択します。

！ヒント

- ここで接続に適した設定をしないと、正しいサラウンド効果を得ることができません。
- サラウンドバックスピーカーを外部アンプを通して1本だけ接続している場合は、「1ch」に設定してください。

ご注意

「2ch（Pre）」に設定した場合は、本機のSURR BACK SPEAKER端子にスピーカーを接続しても、正しいサラウンド効果は得られません。

5



SETUPボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

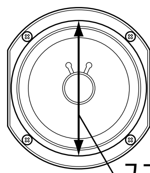
！ヒント

本体のSETUPボタン、カーソルボタン、ENTERボタンでも操作することができます。

スピーカーの設定をする

接続したスピーカーの「有/無」と「大きさ」を設定します。

スピーカーの大きさの目安



目安としては、お手持ちのスピーカーのユニット部が直径16cm以上の場合は「Large」、それ以下の場合は「Small」を選んでください。

ユニット部直径

1 リモコンのRCVRボタンを押してからSETUPボタンを押して、メインメニューを表示させる

```
＊Menu ******************
 1. Hardware Config
 2. Speaker Config
 3. Speaker Distance
 4. Level Calibration
 5. Input Setup
 6. Preference

▼▲ [ENTER] Quit : [SETUP]
```

2 ▲/▼ボタンを押して「2. Speaker Config（スピーカー環境）」を選び、ENTERボタンを押す

スピーカー設定メニューが表示されます。

```
2. Speaker Config
*************************
 a. Subwoofer      : Yes
 b. Front L/R      : Small
 c. Center         : Small
 d. Surround L/R   : Small
 e. Surround Back  : Small
 f . Crossover : 80Hz(THX)

▼▲                Quit : [SETUP]
```

3 ▲/▼ボタンを押して「a. Subwoofer」を選び、◀/▶ボタンでサブウーファーの「有/無」を選ぶ

Yes ：サブウーファーを接続している場合
No ：サブウーファーを接続していない場合

4 ▲/▼ボタンを押して「b. Front L/R」を選び、◀/▶ボタンでフロントスピーカーの大きさを選ぶ

Small ：小型のフロントスピーカーを接続している場合
Large ：大型のフロントスピーカーを接続している場合

ご注意

手順**3**で「No」を選択した場合は、「Large」に固定されます。

5 ▲/▼ボタンを押して「c. Center」を選び、◀/▶ボタンでセンタースピーカーの設定をする

Small ：小型のセンタースピーカーを接続している場合
Large ：大型のセンタースピーカーを接続している場合
None ：センタースピーカーを接続していない場合

ご注意

手順**4**で「Small」を選択した場合は、「Large」は選択できません。

6 ▲/▼ボタンを押して「d. Surround L/R」を選び、◀/▶ボタンでサラウンドスピーカーの設定をする

Small ：小型の左右サラウンドスピーカーを接続している場合
Large ：大型の左右サラウンドスピーカーを接続している場合
None ：左右サラウンドスピーカーを接続していない場合

ご注意

手順**4**で「Small」を選択した場合は、「Large」は選択できません。

7 ▲/▼ボタンを押して「e. Surround Back」を選び、◀/▶ボタンでサラウンドバックスピーカーの設定をする

Small ：小型のサラウンドバックスピーカーを接続している場合
Large ：大型のサラウンドバックスピーカーを接続している場合
None ：サラウンドバックスピーカーを接続していない場合

ご注意

- 手順**6**で「None」を選択した場合は、この項目は選択できません。
- 手順**6**で「Small」を選択した場合は、「Large」を選択することはできません。

8 SETUPボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

本体のSETUPボタン、カーソルボタン、ENTERボタンでも操作することができます。

初期設定をする

入力の設定をする

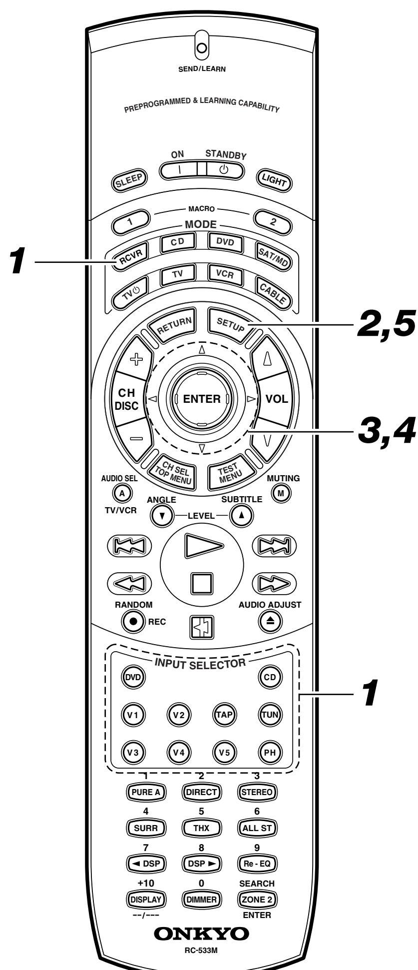
デジタル入力端子（DIGITAL INPUT）の設定

本機後面のデジタル入力端子には、それぞれのデジタル再生機器が割り当てられています。接続した機器がデジタル入力端子の初期設定と異なる場合は、設定を変更する必要があります。

入力ソース	デジタル入力端子の初期設定
DVD	OPT1（オプティカル1）
VIDEO 1	――――
VIDEO 2	――――
VIDEO 3	OPT2（オプティカル2）
TAPE	――――
TUNER	――――
PHONO	――――
CD	COAX（コアキシャル）

例：**本機後面のOPT 2端子にCDプレーヤーを接続した場合**
CDのデジタル入力端子の初期設定はCOAXのため、「OPT2」に設定を変更する必要があります。

本機後面のOPT 1端子にDVD以外の機器を接続した場合
DVDのデジタル入力端子の初期設定はOPT 1のため、「----」に設定を変更する必要があります。



1 **RCVRボタンを押してからINPUT SELECTORボタンを押して、入力ソースを選ぶ**

設定を変更する入力ソースを選びます。

ご注意
VIDEO 4はフロントパネルのOPTデジタル入力として固定されているため、設定はできません。

2 **SETUP ボタンを押して、メインメニューを表示させる**

```
＊Menu ****************
1. Hardware Config
2. Speaker Config
3. Speaker Distance
4. Level Calibration
5. Input Setup
6. Preference
[ENTER] Quit : [SETUP]
```

3 **▲/▼ボタンを押して「5. Input Setup」を選び、ENTERボタンを押す**

インプットセットアップメニューが表示されます。

```
5. Input Setup
*** Input : DVD ******
a. Digital Input : OPT1
b. Component Video
 : Input1
c. IntelliVolume
 : 0dB
Quit : [SETUP]
```

4 **▲/▼ボタンを押して「a. Digital Input」を選び、◀/▶ボタンで機器を接続したデジタル入力端子を選ぶ**

5 **SETUPボタンを押す**

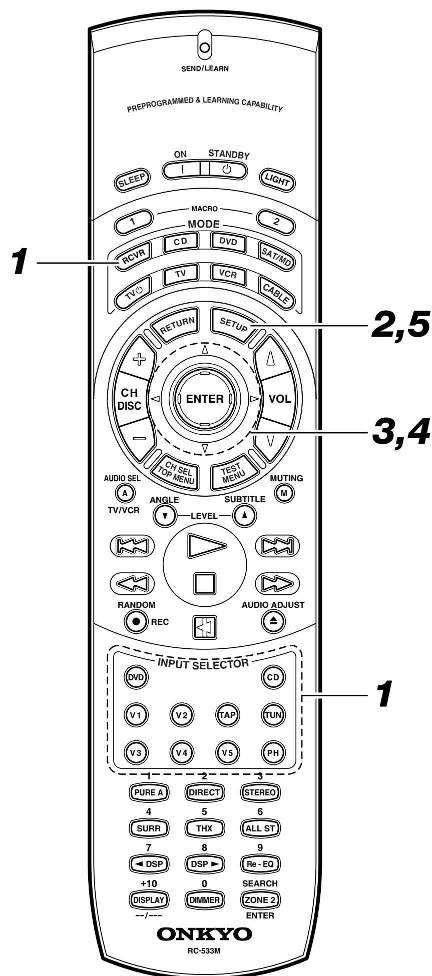
設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント
本体の入力切換ボタン、SETUPボタン、カーソルボタン、ENTERボタンでも操作することができます。

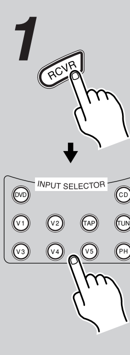
映像端子（COMPONENT VIDEO）の設定

本機のD入力端子、COMPONENT入力端子には、それぞれ入力（再生）ソースが割り当てられています。接続した映像機器が初期設定と異なる場合は、設定を変更する必要があります。また、VIDEOまたはS VIDEO端子を接続した機器の映像をD端子やコンポーネント接続から出力する場合に設定します。それ以外の場合は、設定を変更する必要はありません。

入力ソース	D端子またはCOMPONENT端子の初期設定
DVD	INPUT 1
VIDEO 1	INPUT 2
VIDEO 2	INPUT 2
VIDEO 3	INPUT 2
VIDEO 4（前面パネル）	INPUT 2



1



RCVR ボタンを押してから INPUT SELECTOR ボタンを押して、入力ソースを選ぶ

設定を変更する入力ソースを選びます。

2

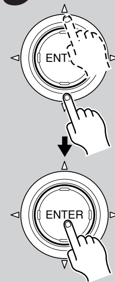


SETUPボタンを押して、メインメニューを表示させる

```
＊Menu ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
 1. Hardware Config
 2. Speaker Config
 3. Speaker Distance
 4. Level Calibration
 5. Input Setup
 6. Preference

[▼][▲] [ENTER] Quit : [SETUP]
```

3

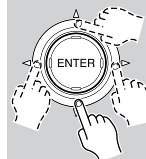


▲/▼ボタンを押して「5. Input Setup」を選び、ENTERボタンを押す

インプットセットアップメニューが表示されます。

```
5. Input Setup
 ***  Input : DVD      ******
            [▲]
 a. Digital Input    :  OPT1
 b. Component Video
                     :  Input1
 c. IntelliVolume
                     :  0dB
            [▼]
[▼][▲]          Quit : [SETUP]
```

4



▲/▼ボタンを押して「b. Component Video」を選び、◀/▶ボタンで設定を選ぶ

Input 1：映像機器をD4 VIDEO INPUT 1またはCOMPONENT VIDEO INPUT 1に接続した場合に選択します。

Input 2：映像機器をD4 VIDEO INPUT 2またはCOMPONENT VIDEO INPUT 2に接続した場合に選択します。

Video：VIDEOまたはS VIDEO端子に接続した機器の映像を、D端子やコンポーネント接続から出力する場合に選択します。

Last：オーディオ機器を接続している場合に選択します。

！ヒント

Lastに設定すると、入力を切り換えてもモニターに映像が残ります。VIDEO 1をLastに設定した場合、DVDを再生してから入力ソースをVIDEO 1に切り換えると、DVDの映像を見ながらVIDEO 1の音楽がお楽しみいただけます。

5



SETUPボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

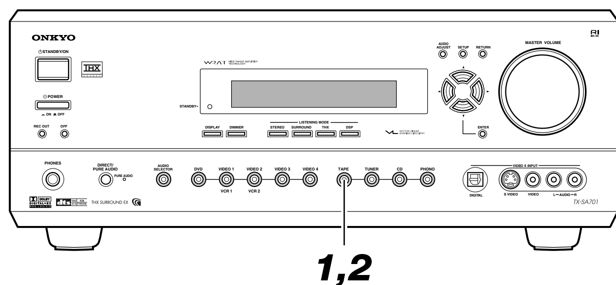
！ヒント

本体の入力切換ボタン、SETUPボタン、カーソルボタン、ENTERボタンでも操作することができます。

初期設定をする

入力表示を切り換える

オンキヨーのRI端子付きMDレコーダーを本機のTAPE端子に接続した場合、ダイレクトチェンジなどのシステム動作を正しく行うために、入力表示を切り換える必要があります。



1,2

1 TAPE

入力切換ボタンの「TAPE」を押し、表示部に「TAPE」を表示させる

TAPE

2 TAPE

「TAPE」表示が「MD」表示に切り換わるまで、TAPEボタンを押し続ける（約2秒かかります。）

MD

■入力表示切り換えを元に戻すには



「MD」表示が「TAPE」表示に切り換わるまで、TAPEボタンを押し続ける（約2秒かかります。）

映画・音楽を鑑賞する（基本編）

接続した機器を再生する

1

本体

または

リモコン

演奏する機器を選ぶ

本体では…

入力切換ボタンを押します。

リモコンでは…

RCVR（レシーバー）ボタンを押してからINPUT（インプット） SELECTOR（セレクター）ボタンを押します。

2

選んだ機器の演奏を始める

映像機器を再生する場合は、テレビなどモニターの入力を切り換える必要があります。
また、再生機器で音声出力設定が必要な場合もあります。

3

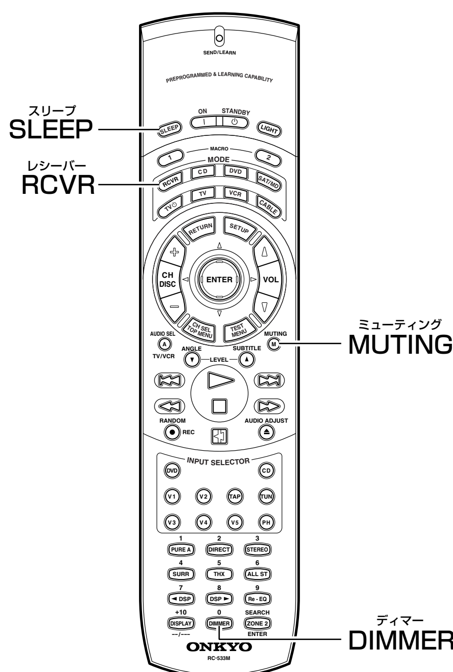
本体

または

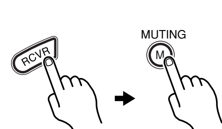
リモコン

本体のMASTER（マスター） VOLUME（ボリューム）つまみ、またはリモコンのVOLUME（ボリューム）▲/▼ボタンで音量を調整する

音量は基本的にMin・1・2‥‥98・99・Maxまでの範囲で調整できます。



一時的に音量を小さくする



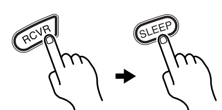
リモコンの RCVR（レシーバー）ボタンを押してから、MUTING（ミューティング）ボタンを押す

表示部に「MUTING」が点滅します。

■解除するには

もう一度MUTINGボタンを押してください。
（音量を変えたり、STANDBY（スタンバイ）/ON（オン）ボタンを押した場合にも解除されます。）

スリープタイマーを使う



リモコンの RCVR ボタンを押してから、SLEEP（スリープ） ボタンを押す

本体表示部に「Sleep 90min」と表示され、90分後にスタンバイ状態になります。
ボタンを押すたびに10分単位で設定時間が短くなります。

- スリープタイマー設定中はSLEEPインジケーターが点灯します。

■残り時間を確認するには

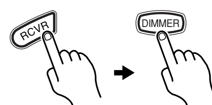
スリープタイマーが予約されているときにSLEEPボタンを押すと、スタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。ただし、残り時間が10分以下のときに再びSLEEPボタンを押すと、スリープタイマーは解除されます。

■スリープタイマーを解除するには

SLEEPインジケーターが消えるまで、くり返しSLEEPボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから再度電源を入れるとスリープタイマーは解除されます。

表示部の明るさを変える

表示部の明るさを変えることができます。



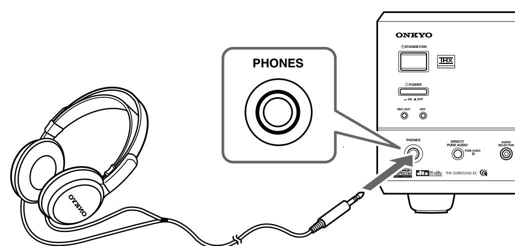
リモコンの RCVR ボタンを押してから、DIMMER（ディマー）ボタンを押す

押すたびに以下のように明るさが変わります。

→ やや暗い → 暗い → ふつう →

！ヒント　本体のDIMMERボタンでも操作できます。

ヘッドホンで聞く

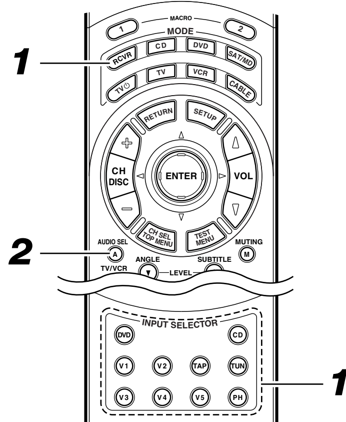


PHONES（フォーンズ）端子にヘッドホンのステレオ標準プラグを接続する

- 接続する時は音量を下げてください。
- スピーカーからの音が消えます。
- 「Direct（ダイレクト）」、「Pure（ピュア） Audio（オーディオ）」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的に「Stereo（ステレオ）」になり、ヘッドホンのプラグを抜くと元のリスニングモードに戻ります。
- ヘッドホン接続時は、「Direct」、「Stereo」、「Pure Audio」のリスニングモードが選択できます。
- マルチチャンネル入力を選んでいるときは、左右フロントチャンネルの音声のみ聞こえます。

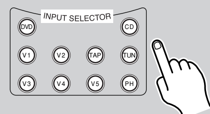
音声信号の種類を選ぶ

音声信号にはアナログ、デジタル、マルチチャンネルの3種類があります。
それぞれの入力端子に接続している機器に合わせて、どの信号を再生するかを選択できます。



1





RCVR（レシーバー）ボタンを押してから、INPUT（インプット） SELECTOR（セレクター）ボタンで設定する機器を選ぶ

2



AUDIO（オーディオ） SEL（セレクト） ボタンを押す

現在の設定が表示されている間に、AUDIO SELボタンを押すと、以下のように表示が切り換わります。

→ Auto（オート） → Multich（マルチチャンネル） → Analog（アナログ） →
（入力がDVDのときのみ）

Auto（オート）：
デジタル信号を優先して再生しますが、デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。デジタル接続をしており、デジタル入力端子が設定されている場合に選びます。

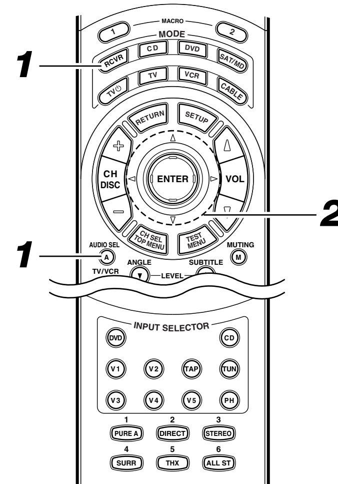
Multich（マルチチャンネル）：
マルチチャンネルの音声を再生するときに選びます。アナログマルチチャンネル対応のDVDプレーヤーなどをマルチチャンネル接続している必要があります。

Analog（アナログ）：
アナログ信号を再生します。1つの機器をアナログ/デジタルの両方に接続していてもアナログ音声信号を再生します。

！ヒント

本体の入力切換ボタン、AUDIO（オーディオ） SELECTOR（セレクター）ボタンでも操作できます。

Auto（オート）モードをDTS、PCMに固定する



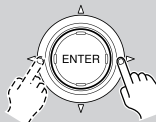
1





RCVR ボタンを押してから、AUDIO SELボタンを（くり返し）押して「Auto（オート）」を選ぶ

2



「Auto」表示中に◀/▶ボタンで設定するモードを選ぶ

Auto（オート）：
入力される信号に適したデジタル信号を優先して再生します。デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。

DTS：
AutoでDTS-CDを再生するときDTS信号を識別して読み取る間や、CDの早送り、早戻しをするときのノイズが気になる場合に選択します。DTS以外の音声が入力されても音は出ません。

PCM：
AutoでCDなどのPCM信号の曲間で頭切れが気になる場合に選択します。PCM以外の音声が入力されても音は出ません。

ご注意

DTS対応のCDやLDを再生するときは、必ず「Auto」または「DTS」を選択してください。「PCM」を選択するとノイズが出力されます。

！ヒント

本体のAUDIO（オーディオ） SELECTOR（セレクター）ボタン、◀/▶ボタンでも操作できます。

映画・音楽を鑑賞する（基本編）

マルチチャンネル接続した機器を再生する

DVDプレーヤーとマルチチャンネル接続をしている場合、DVDオーディオやスーパーオーディオCDなどの再生をお楽しみいただけます。22ページの通り正しく接続されていることを確認してください。

マルチチャンネル再生をする

1 RCVR（レシーバー）ボタンを押してから、INPUT（インプット） SELECTOR（セレクター）ボタンの「DVD」を押す

2 AUDIO（オーディオ） SEL（セレクト）ボタンを（くり返し）押して、「Multich（マルチチャンネル）」を選ぶ

MULTI CH
Audio :Multich

3 DVDプレーヤーを再生する

4 VOLUME（ボリューム）▲/▼ボタンで音量を調整する

音量は基本的にMin･1･2･･･98･99･Maxまでの範囲で調整できます。

！ヒント

本体の入力切換ボタン、AUDIO（オーディオ） SELECTOR（セレクター）ボタン、MASTER（マスター） VOLUME（ボリューム）つまみでも操作できます。

マルチチャンネル再生時のスピーカー音量を調節する

マルチチャンネル音声を再生中、各スピーカーのレベルをお好みに調整することができます。

1 RCVR（レシーバー）ボタンを押してから、CH SEL（チャンネルセレクト）ボタンを押して、調整するスピーカーを選ぶ

CH SELボタンを押すたびに、次の順でスピーカーが切り換わります。

左フロントスピーカー → センタースピーカー → 右フロントスピーカー → 右サラウンドスピーカー → 左サラウンドスピーカー → サブウーファー → 左フロントスピーカー

ご注意

サラウンドバックスピーカーと「Speaker（スピーカー） Config（コンフィグ）（スピーカー環境）」で「No（ノー）」または「None（ナン）」に設定したスピーカーは、調整できません。

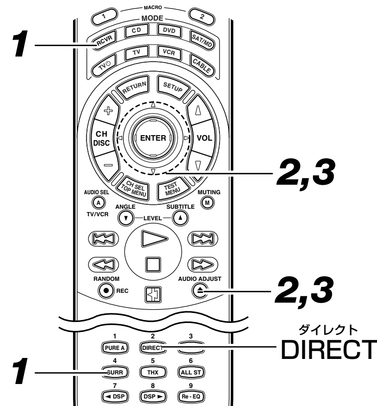
2 LEVEL（レベル） ▲ / ▼ボタンを押して、音量レベルを調整する

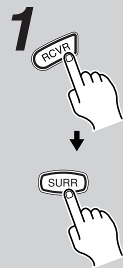
－12ｄB～+12ｄBの範囲で調整できます。

- サブウーファーは－30ｄB～+12ｄBの範囲で調整できます。

マルチチャンネルの音質を調整する

トーンコントロール機能で左右フロントスピーカーのみ音質を調整することができます。

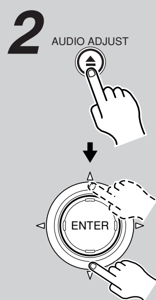




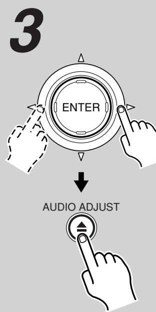
1 RCVR ボタンを押してから、SURR（サラウンド）ボタンを押す

「Tone On（トーン オン）」と表示され、トーンコントロール機能が働くようになります。

DVD　Tone On



2 AUDIO ADJUST（オーディオ アジャスト）ボタンを押してから、▲/▼ボタンを押して「Bass（バス）（低音）」または「Treble（トレブル）（高音）」を選ぶ



3 ◀/▶ボタンを押して、レベルを調整し、AUDIO ADJUSTボタンを押す

－12dB～＋12dBの範囲内で2dBずつ調整できます。

！ヒント

本体のSURROUND（サラウンド）ボタン、AUDIO（オーディオ） ADJUST（アジャスト）ボタン、◀/▶ボタンでも操作できます。

！ヒント

トーンコントロール機能が働くと同時に次の設定が有効になります。

- スピーカーに関する基本設定をする（☞34ページ）
- 低音域の管理設定をする（クロスオーバー）（☞54ページ）
- 視聴位置からスピーカーまでの距離を設定する（スピーカーディスタンス）（☞52ページ）

ご注意

DVDプレーヤーなど、再生機器側に同様の機能がある場合があります。本機で設定する場合は、再生機器側では設定しないでください。

■ トーンコントロール機能を解除するには



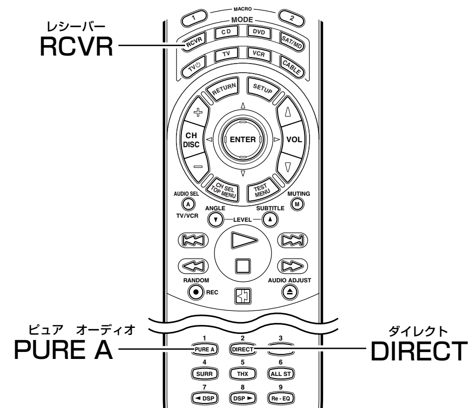
DIRECT（ダイレクト）ボタンを押す

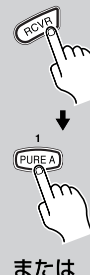
「Direct」と表示され、トーンコントロール機能が解除されます。

- 本体のDIRECTボタンでも操作できます。

Direct（ダイレクト）モードまたはPure Audio（ピュア オーディオ）モードで聞いてみる

マルチチャンネル再生では、DirectとPure Audioの2つのリスニングモードをお楽しみいただくことができます。





RCVR ボタンを押してから、PURE A（ピュア オーディオ）ボタンまたはDIRECT（ダイレクト）ボタンを押す

または

どちらのリスニングモードも、音源に忠実な再生を行います。音質調整回路も通しません。

Pure Audio（ピュア オーディオ）ではさらに、表示部を消して、ビデオ回路の電源を切り、ノイズの発生源をできるだけ抑えて再生します。

！ヒント

本体で操作するときは、DIRECT（ダイレクト）/PURE（ピュア） AUDIO（オーディオ）ボタンを押します。

押すたびに「Direct」と「Pure Audio」が交互に切り換わります。

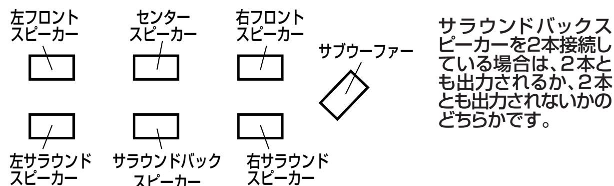
映画・音楽を鑑賞する（応用編）

リスニングモードを使う

リスニングモードの種類について

本機のリスニングモードを使うと、お部屋にいながら映画館やコンサートホールなどの臨場感あふれる雰囲気を味わって頂けます。本機には以下のリスニングモードがあります。最適なサラウンド再生をお楽しみいただくために、スピーカーの設定を行ってください。（☞52ページ）

下のイラストは、そのリスニングモード時に出力されるスピーカーを表します。



サラウンドバックスピーカーを2本接続している場合は、2本とも出力されるか、2本とも出力されないかのどちらかです。

Direct（ダイレクト）
左右フロントスピーカーからのみ出力されます。もともとの音源に手を加えない、ピュアな音をお楽しみいただけます。

Pure Audio（ピュア オーディオ）
Direct（ダイレクト）モードに加え、表示部を消してビデオ回路の電源を切り、ノイズの発生源をできるだけ最小限にすることで、より原音に忠実な音楽再生を行います。（ビデオ回路の電源を切るため、映像が出なくなります。）

Stereo（ステレオ）
左右フロントスピーカーとサブウーファーから出力されます。

Mono（モノ）
モノラル信号で収録された古い映画を再生したり、2言語が記録されているソースを左右のチャンネルを独立して再生するモードです。DVDなどに記録された音声多重のサウンドトラックを再生できます。

Theater-Dimensional（シアター ディメンショナル） または
2つまたは3つのスピーカーであたかも5.1チャンネル再生しているかのようなバーチャル再生をお楽しみいただけます。左右それぞれの耳に届く音声の特性を制御することによって実現しています。反射音成分が大きいと期待した効果が得られない場合があるため、できるだけ反射音の少ない環境をお勧めします。

Dolby Pro Logic II（ドルビー プロ ロジック）
映画に最適なMovie（ムービー）モードと音楽再生に最適なMusic（ミュージック）モードの2つのモードが選択できます。Movieモードでは、従来モノラルで帯域の狭かったサラウンドチャンネルがステレオ再生になり、それぞれ独立した音を出すため、より移動感のある再生が楽しめます。DOLBY SURROUND マークのついたVHSやDVDビデオ、または一部のテレビ番組再生時に楽しむことができます。
また、Musicモードでは、2チャンネルの音楽に対しても自然な音場感をサラウンドチャンネルより再生します。CDなどのステレオ音楽や、ライブを記録したDVDにも適しています。

Dolby Digital（ドルビー デジタル）
劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドが体験できるサラウンドモードです。DOLBY DIGITAL マークのついたDVD、LD、CDなどの再生時に楽しむことができます。

Dolby Digital EX（ドルビー デジタル）
5.1チャンネルに背面のサラウンドバックチャンネルを増やし、6.1チャンネルにすることで、より空間表現力を高め、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をリアルに体感できます。サラウンドバックチャンネルの音声は左右サラウンドチャンネルに振り分けられるため、通常の5.1チャンネル環境で再生することも可能です。5.1チャンネルで記録されたDOLBY マークのついたDVD,LDの再生時に楽しむことができます。

DTS
限りなく原音に忠実なサラウンドを再現するデジタルサラウンド方式です。完全に分離させた5.1チャンネルで膨大となる音声データを、可能な限り原音に近い状態で圧縮したデジタルデータです。極めて高音質の音声を提供します。再生するにはDTS出力が可能なDVDプレーヤーが必要です。dts マークのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS-ES Discrete 6.1（ディスクリート）
DTSにサラウンドバックを追加した、6.1チャンネルサラウンドです。DTS6.1チャンネル収録ソフトに対応しています。
追加されたサラウンドバックチャンネルを含めて6.1チャンネルすべてが完全に独立してデジタル記録されているため、立体感、移動感などがより鮮明に再現できます。dts ES のついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS-ES Matrix 6.1（マトリックス）
DTSにサラウンドバックを追加した、6.1チャンネルサラウンド。
DTS5.1チャンネル収録ソフトを6.1チャンネル再生します。
DTS5.1チャンネル収録ソフトにはサラウンドバックチャンネルの情報も組み込まれているため、それぞれのチャンネルを6.1チャンネルに復元して再生します。dts マークまたは dts ES のついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS Neo:6（ネオ）
2チャンネルで収録されたソースを6.1チャンネルで再生するモードです。6チャンネルすべてに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間の独立性も優れています。映画に最適なCinema（シネマ）モードと音楽再生に最適なMusicモードの2つのモードがあります。
Cinemaモードでは、6.1チャンネルのソースとしてリアルな移動感にあふれたサラウンドが再現されます。音声がステレオのVHSやDVDビデオ、テレビ番組に使用します。Musicモードでは、サラウンドチャンネルを使用することで通常のステレオ出力では得られない自然な音場を生み出します。2チャンネルの音楽に対しても自然な音場感をサラウンドチャンネルより再生します。Musicモードは音声がステレオのCDなどに適しています。

AAC
MPEG-2（エムペグ） AAC方式で圧縮されたデジタルデータで、最大5.1チャンネルのサラウンド音声を提供します。
BSデジタル放送などのAACソースを再生するために使用します。

AAC Dolby EX（ドルビー）
MPEG-2（エムペグ） AAC方式で圧縮されたデジタルデータを6.1チャンネルで再生します。

THX Cinema（シネマ）* または
5.1チャンネル/6.1チャンネルでのTHX方式です。映画館のような広い場所で再生することを想定して録音編集された劇場用映画を見るときに適しています。

THX Surround EX*

「THXサラウンドEX－ドルビーデジタルサラウンドEX」は、ドルビーラボラトリーズとTHX社で共同開発されたフォーマットです。ドルビーデジタルサラウンドEXの技術でエンコードされたサウンドトラックを映画館で使用すると、ミキシング時に追加されたチャンネルが独立して再生されます。サラウンドバックと呼ばれるこのチャンネルは、従来の左右フロント、センター、左右サラウンド、サブウーファーの各チャンネルに加えて、視聴者の背後に新たな音場を作り出します。

＊THXサラウンドを忠実に再生するには、THX社認定THXスピーカーシステムのご使用をおすすめします。

オンキヨー独自のサラウンドモード（DSP）

アナログ信号やCDなどのPCM信号を再生しているときに楽しむことができます。

Orchestra

クラシックやオペラに適したモードです。
センターチャンネルをカットするとともに、音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。
大ホールで聞いているような自然な響きが楽しめます。

Unplugged

アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聞いているような音場イメージをつくります。

Studio-Mix

ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドは、あなたをあたかもクラブハウスにいるような気分にするでしょう。

TV Logic

放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。
局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。

Enhance

音楽鑑賞やテレビのスポーツ番組を見るのに適しています。
効果音は自然にサラウンド、サラウンドバックスピーカーに移動し、より躍動感のあるサウンドを再現します。

Mono Movie

古い映画などモノラル信号の映画ソースを再生するのに適したモードです。センターチャンネルからはそのままの音声を、他のスピーカーからは適度に残響処理を施したセンター音を出力します。モノラルでも臨場感をお楽しみいただけます。

All Ch Stereo

BGMとして音楽をかけるときに便利なモードです。すべてのチャンネルでステレオ再生しますので迫力ある音場をお楽しみ頂けます。

入力信号と対応するリスニングモード

入力信号の種類	アナログ/PCM	PCM fs=96kHz	DTS※		Dolby Digital				AAC				
			5.1ch	6.1ch	＊/2	2/0	1/0	それ以外	＊/2	2/0	1/0	1＋1	それ以外
主なソース／リスニングモード	カセット/CD ビデオ/ラジオ テレビ、LDなど	DVD 96k/24bitなど	DVDビデオ LD、CDなど		DVDビデオなど				BSデジタル放送など				
Pure Audio	●	●											
Direct	●	●											
Stereo	●	●	●	●	●	●		●	●	●			●
Mono	●					●	●			●	●		
Theater-Dimensional	●		●	●	●	●		●	●	●			●
Dolby Pro Logic II Movie	●					●				●			
Dolby Pro Logic II Music	●					●				●			
Dolby Digital					●			●					
Dolby Digital EX					●								
DTS Neo:6 Cinema	●					●				●			
DTS Neo:6 Music	●					●				●			
DTS			●	●									
DTS-ES Discreate				●									
DTS-ES Matrix			●										
AAC									●				●
AAC Dolby EX									●				
AAC Main												●	
AAC Sub												●	
AAC Main+Sub												●	
THX Cinema	●		●	●	●	●		●	●	●			●
THX Surround EX					●				●				
Orchestra	●		●	●	●	●		●	●	●			●
Unplugged	●		●	●	●	●		●	●	●			●
Studio-Mix	●		●	●	●	●		●	●	●			●
TV Logic	●		●	●	●	●		●	●	●			●
Enhance	●		●	●	●	●		●	●	●			●
Mono Movie	●					●	●			●	●		
All Ch Stereo	●					●				●			

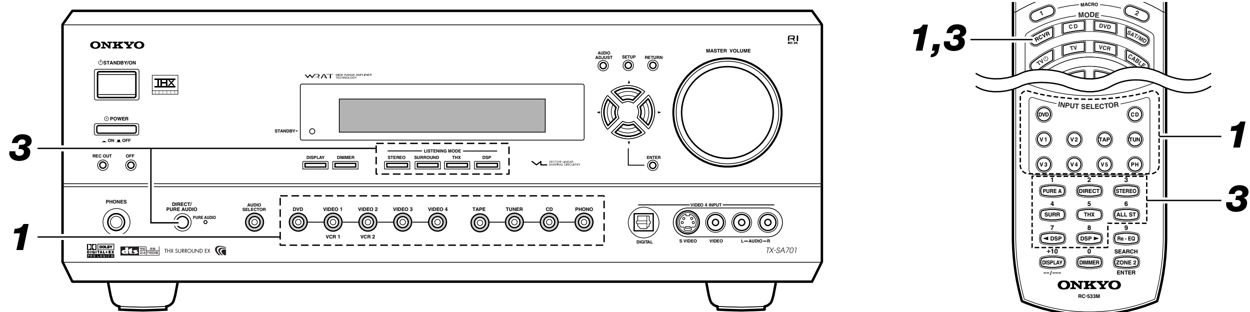
※DTSの96k/24bit信号を再生する場合、リスニングモードがステレオまたはDTSのときは96kHzとして、それ以外のリスニングモードを選んだときはDTS 48kHzとして処理されます。

ご注意　接続しているスピーカーの数や入力信号のフォーマットによっては上記のリスニングモードを選択できないことがあります。

TX-SA701(39-51)(SN29343498)　45　03.4.11, 5:57 PM

映画・音楽を鑑賞する（応用編）

リスニングモードを選ぶ



1 入力を切り換えて、再生する機器を選ぶ

DVD VIDEO 1 VIDEO 2 VIDEO 3 VIDEO 4
VCR 1 VCR 2
TAPE TUNER CD PHONO

本体

または

INPUT SELECTOR

リモコン

本体では…

入力切換ボタンを押します。

リモコンでは…

RCVRボタンを押してから、INPUT SELECTORボタンを押します。

2 選んだ機器を再生する

3 リスニングモードを選ぶ

LISTENING MODE
STEREO SURROUND THX DSP

および

DIRECT/
PURE AUDIO

本体

または

1 PURE A　2 DIRECT　3 STEREO
4 SURR　5 THX　6 ALL ST
7 ◄DSP　8 DSP►

リモコン

LISTENING MODEボタンを押して、リスニングモードを選びます。

リモコンの場合は、RCVRボタンを押してからリスニングモードを選びます。

ご注意　入力信号によって選択できるリスニングモードが異なります。（☞45ページ「入力ソースに対応するリスニングモード」をご覧ください。）

PURE A（リモコン）：リスニングモードを「Pure Audio」に切り換えます。

DIRECT（リモコン）：リスニングモードを「Direct」に切り換えます。

DIRECT/PURE AUDIO（本体）：押すごとにリスニングモードを「Direct」と「Pure Audio」を交互に切り換えます。Pure AudioのときにPure Audioインジケーターが点灯します。

STEREO：リスニングモードを「Stereo」に切り換えます。
AACの音声多重信号が入力されているときは、主音声と副音声を切り換えます。押すたびに、「Main」→「Sub」→「Main+Sub」と切り換わります。

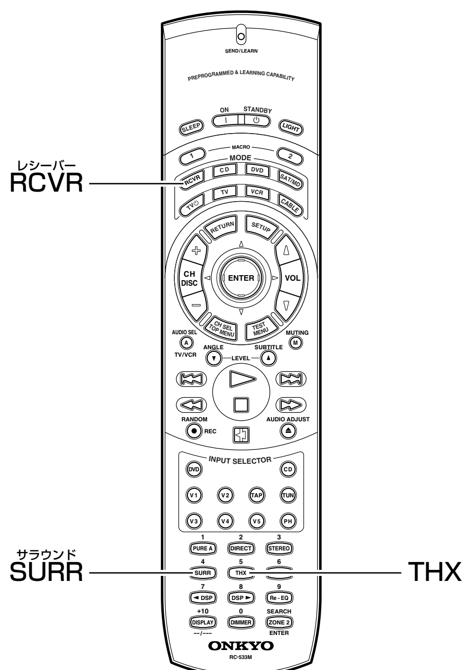
SURR/SURROUND：2チャンネル信号が入力されているときは、リスニングモードを「Dolby Pro Logic II Movie/Music」、「DTS Neo:6 Cinema/Music」に切り換えます。
：デジタル信号が入力されているときは、47ページの設定が行えます。
：マルチチャンネル信号が入力されているときは、「Tone On」と表示され、低音、高音効果が得られます。（☞43ページ）

THX：リスニングモードを「THX」に切り換えます。
：2チャンネル信号が入力されているときは、「Dolby Pro Logic II Movie」にTHX効果をかけるか、「DTS Neo:6 Cinema」にTHX効果をかけるかを選択できます。THXボタンを押すたびに切り換わります。
：デジタル信号が入力されているときは、48ページの設定ができます。その設定に応じて、「THX Cinema」「THX Surr EX」「DTS-ES THX」などの表示になります。

◀DSP、DSP▶/DSP：入力している信号に対応できるオンキヨー独自のリスニングモードおよび「MONO」、「Theater-Dimensional」が選べます。

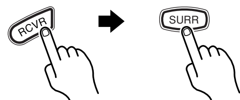
ALL ST（リモコンのみ）：リスニングモードを「All Ch St」に切り換えます。

再生中でリスニングモードがドルビーデジタル、DTS、THX、AACのときはこんなこともできます。



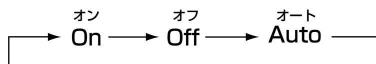
Dolby Digital（ドルビー デジタル）/Dolby Digital EX（ドルビー デジタル）

サラウンドバックスピーカーを使用しているとき、Dolby Digtalソースを6.1チャンネル再生するか5.1チャンネル再生するかを設定しておくことができます。ただし、再生する信号にサラウンドチャンネルの情報がモノラル、または無いときは以下の設定をしてもDolby Digital（5.1チャンネル）再生になります。



RCVR（レシーバー）ボタンを押してから、SURR（サラウンド）ボタンを押す

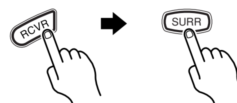
ボタンを押すごとにDolby Digital EXの設定が下記の順で切り換わります。



On（オン）：ドルビーデジタルの識別信号があるときはDolby Digital EXに切り換わり、6.1チャンネル再生をします。ドルビーデジタルの識別信号がないときも、強制的にDolby Digital EXになり、6.1チャンネル再生をします。
Off（オフ）：ドルビーデジタルの識別信号があるディスクでもDolby Digital（5.1チャンネル）再生を行います。
Auto（オート）：ドルビーデジタルの6.1チャンネル識別信号があるときは、Dolby Digital EXに切り換わり、6.1チャンネル再生をします。ドルビーデジタルの識別信号がないときは、Dolby Digital（5.1チャンネル）再生をします。

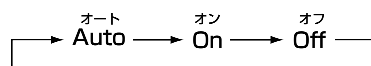
DTS/DTS-ES Discrete（ディスクリート）/DTS-ES Matrix（マトリックス）

サラウンドバックスピーカーを使用しているとき、DTSソースを6.1チャンネル再生するか、5.1チャンネル再生するかを設定しておくことができます。



RCVRボタンを押してから、SURRボタンを押す

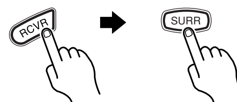
ボタンを押すごとにDTS-ESの設定が下記の順で切り換わります。



Auto（オート）：dts ES があるディスクを再生するときは、DTS-ES Discrete 6.1またはDTS-ES Matrix 6.1に切り換わり、6.1チャンネル再生をします。dts ES がない場合はDTS（5.1チャンネル）再生になります。
On（オン）：dts ES があるディスクを再生するときは、DTS-ES Discrete 6.1またはDTS-ES Matrix 6.1に切り換わり、6.1チャンネル再生をします。
dts ES がない場合も、強制的にDTS-ES Matrix 6.1になり、6.1チャンネル再生をします。
Off（オフ）：dts ES があるディスクでもDTS（5.1チャンネル）再生を行います。

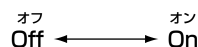
AAC/AAC Dolby（ドルビー） EX

サラウンドバックスピーカーを使用しているとき、AACソースを6.1チャンネル再生するか、5.1チャンネル再生するかを設定しておくことができます。



RCVRボタンを押してから、SURRボタンを押す

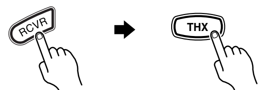
ボタンを押すごとにAACの設定が下記の順で切り換わります。



Off（オフ）：AACソースを5.1チャンネル再生します。
On（オン）：AACソースを6.1チャンネル再生します。

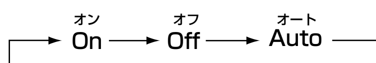
THX Surround EX（Dolby Digital）

サラウンドバックスピーカーを使用しているとき、Dolby Digitalソースを THXサラウンドEX再生するかどうかを設定します。



RCVRボタンを押してから、THXボタンを押す

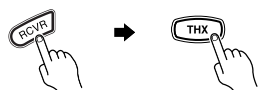
ボタンを押すごとにTHX Surround EXの設定が下記の順で切り換わります。



On ：EX識別信号の有無にかかわらず、THXサラウンドEX再生を行います。
Off ：EX識別信号の有無にかかわらず、THXサラウンドEX再生を行いません。（通常のTHXシネマ再生）
Auto ：EX識別信号があるソースの場合、自動的にTHXサラウンドEX再生になります。

THX Surround EX（AAC）

サラウンドバックスピーカーを使用しているとき、AACのソースをTHXサラウンドEX再生するかどうかを設定します。



RCVRボタンを押してから、THXボタンを押す

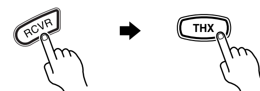
ボタンを押すごとにTHX Surround EXの設定が下記の順で切り換わります。



Off ：THXサラウンドEX再生を行いません。（通常のTHXシネマ再生）
On ：THXサラウンドEX再生を行います。

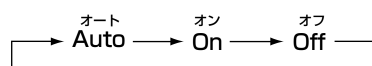
THX Cinema（DTS/DTS-ES）

THX処理のためDTS-ESモードを切り換えます。



RCVRボタンを押してから、THXボタンを押す

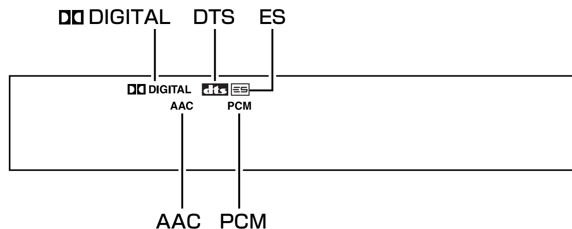
ボタンを押すごとにDTS-ESの設定が下記の順で切り換わります。



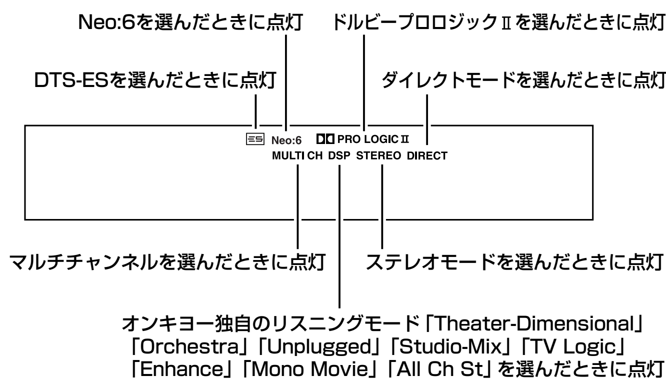
Auto ：dts ES マークがあるディスクを再生するときは、DTS-ES Discrete 6.1またはDTS-ES Matrix 6.1に切り換わり、6.1チャンネル再生をします。
dts ES マークがない場合はDTS（5.1チャンネル）再生になります。
On ：dts ES マークがあるディスクを再生するときは、DTS-ES Discrete 6.1またはDTS-ES Matrix 6.1に切り換わり、6.1チャンネル再生をします。
dts ES マークがない場合も、強制的にDTS-ES Matrix 6.1になり、6.1チャンネル再生をします。
Off ：dts ES があるディスクでもDTS（5.1チャンネル）再生を行います。

表示を確認する

デジタル音声を認識すると、その音声方式によって以下のいずれかのインジケーターが点灯します。

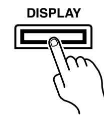


また、リスニングモードを選ぶと以下のいずれかのインジケーターが点灯します。



！ヒント

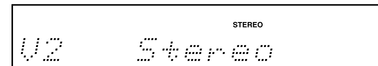
ドルビーデジタルで録音されたソフトを再生したときに、フロントパネルの表示部に「Dialog Norm：○○」（○○は数値）という短いメッセージが表示される場合があります。これは、ドルビーデジタルが備えている機能のひとつで、ダイアログノーマライゼーションといい、再生するソフトが通常より高いレベル、または低いレベルで録音されていることを知らせる機能です。
本機は、お聞きになっている音量に関係なく、自動的にソフトの出力レベルを調整します。ソフトによって音量が変化しても本機の音量を調整する必要はありません。



本体のDISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押すたびに、表示内容が次のように切り換わります。

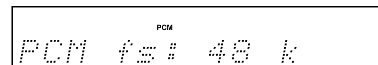
● **入力信号がアナログのとき**

入力ソースと音量 ←→ **入力ソースとリスニングモード**



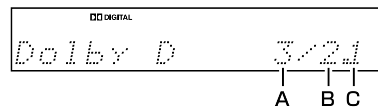
● **入力信号がPCMのとき**

入力ソースと音量 → **サンプリング周波数** *1 → **入力ソースとリスニングモード** → **サンプリング周波数** *1 → **入力ソースと音量**



● **入力信号がPCM以外のデジタル信号のとき**

入力ソースと音量 → **入力信号とフォーマット** *1,2 → **入力ソースとリスニングモード** → **入力信号とフォーマット** *1,2 → **入力ソースと音量**



*1 入力信号にプログラム情報がないときは、表示されません。サンプリング周波数やフォーマット表示状態で、約3秒経過すると、元の表示に戻ります。

*2 フォーマット表示の意味

A: 入力信号に含まれているフロントチャンネルの数
 3: 左フロント、センター、右フロントスピーカーの3チャンネル
 2: 左フロント、右フロントスピーカーの2チャンネル
 1: モノラル（1チャンネル）

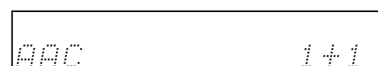
B: 入力信号に含まれているサラウンドチャンネルの数
 3: 左サラウンド、右サラウンド、サラウンドバックスピーカーの3チャンネル
 2: 左サラウンド、右サラウンドスピーカーの2チャンネル
 1: モノラル（1チャンネル）

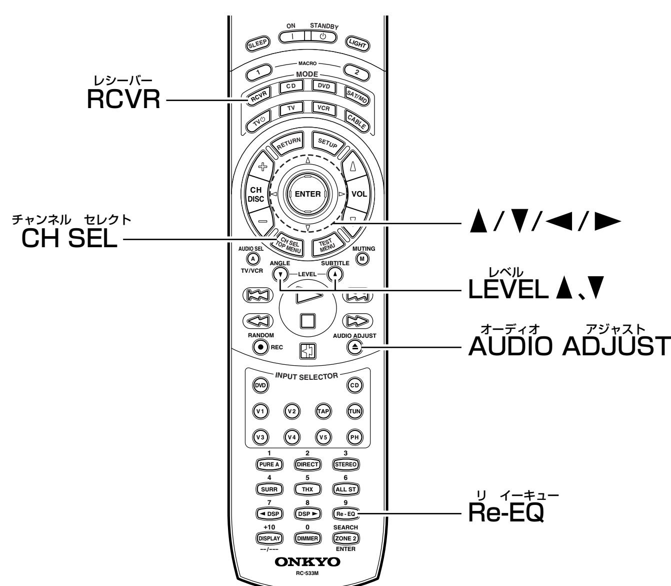
C: 入力信号に含まれているLFE（低域効果音）の有無
 1: あり
 : なし

たとえば、「3/2.1」と表示された場合は、フロント3チャンネルとサラウンド2チャンネル、それにLFEがそれぞれ独立して記録されたソースで、5.1チャンネルソースであることを表しています。

● **入力信号がAACの音声多重放送(2ヶ国語放送など)のとき**

入力ソースと音量 → **入力信号と音声の数** → **入力ソースと選択音声** → **入力信号と音声の数** → **入力ソースと音量**





スピーカーの音量を一時的に調整する

再生中、一時的に各スピーカーのレベルをお好みに調整することができます。本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1

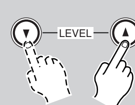


CH SEL（チャンネルセレクト）ボタンを押して、調整するスピーカーを選ぶ

ご注意

接続していないスピーカーは調整できません。

2



LEVEL（レベル）▲/▼ボタンを押して、音量を調整する

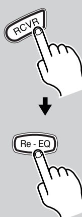
−12dBから+12dBの範囲で調整できます。

- サブウーファーは−15ｄBから+12ｄBの範囲で調整できます。

Re-EQ（リ イーキュー）機能を使う

高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。フロントスピーカーからの高音域が強すぎる場合に設定します。Re-EQの設定は、リスニングモードがMono（モノ）、All Ch St（オール チャンネルステレオ）、ドルビーデジタル、ドルビーデジタルEX、ドルビー プロ ロッジックII ムービー、DTS、DTS-ES、DTS Neo:6 シネマ、AAC、AAC Dolby EX、THX Cinema（シネマ）、THX Surround（サラウンド） EXの場合に働きます。

1



RCVRボタンを押してから、Re-EQ（リ イーキュー）ボタンを（くり返し）押す

- リスニングモードがTHXのときは、初期設定はOn（オン）になっています。電源を切ると初期設定に戻ります。
- リスニングモードがTHX以外のときは、初期設定はOff（オフ）になっています。

レイトナイト機能を使う（ドルビーデジタルのみ）

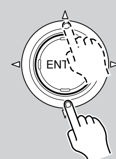
劇場用に作られた映画音声は大きな音と小さな音の差が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聞くには音量を上げる必要があります。レイトナイト機能は音量幅を小さくすることができるため、全体の音量を上げずに小さな音も聞こえます。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。この機能は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1



RCVR（レシーバー）ボタンを押してから AUDIO ADJUST（オーディオ アジャスト）ボタンを押す

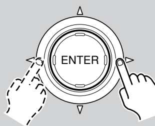
2



▲/▼ボタンで「Late Night（レイト ナイト）」を選ぶ

Late Night:High

3



◀/▶ボタンで調整する

Off（オフ）：レイトナイト機能をオフにします。
Low（ロー）：音量幅を小さくします。
High（ハイ）：音量幅をさらに小さくします。

ご注意

- レイトナイト機能は、ドルビーデジタルソフトにのみ効果があります。
- レイトナイト効果は、ドルビーデジタルソフトによって効果が少なかったり、効果がない場合もあります。

4



AUDIO ADJUST ボタンを押す

録音・録画する

あなたが録音・録画したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ご注意
- サラウンド効果は録音されません。
- 著作権保護されたDVDなどは録音・録画できません。
- マルチチャンネル音声は録音できません。
- DIGITAL INPUT（COAXIAL）または（OPTICAL）の入力端子から入力されたデジタル信号は、DIGITAL OUTPUT(OPTICAL)の出力端子からのみ出力されます。
- デジタル信号の録音・録画については制約があります。デジタル録音するときは、録音機器の取扱説明書もご覧ください。
- デジタル音声入力はデジタル音声出力のみ、アナログ音声入力はアナログ音声出力にのみ出力されます。
- DTS信号をノイズとして録音・録画することになりますので、DTS対応のCDやLDをアナログ録音しないでください。

再生しながら録音･録画する

現在再生中の音楽や映画を録音･録画します。

1 REC OUTボタンを（くり返し）押して「SOURCE」と表示させる

2 入力切換ボタンを押して録音・録画する機器（再生側）を選ぶ

3 録音・録画する機器(録音側)の準備をする
- 録音・録画する機器を録音待機状態にします。
- 録音レベルの調整は録音機器で行ってください。
- 録音のしかたについては、録音・録画機器の取扱説明書をご覧ください。

4 録音・録画を始める

手順**2** で選んだ再生機器を演奏します。
- 録音･録画中にソースを切り換えると、新しく選択されたソースが録音･録画されます。

再生しながら別の機器を録音する

TAPE端子に接続した機器は、他の音楽や映画を再生中でも録音することができます。たとえば、DVDを鑑賞しながら、CDを録音することができます。この場合、映像信号の録画はできません。

1 DVDを再生中に、REC OUTボタンを押す

2 5秒以内に入力切換えボタンを押して、録音する機器（再生側）を選ぶ

3 録音する機器（録音側）の準備をする

録音できるのは、TAPE端子に接続した機器のみです。

4 録音を始める

異なるソースの音楽と映像を録音･録画する

あるソースの音を別のソースの映像に加えて、オリジナルビデオが作成できます。以下の手順は、CD端子に接続したCDプレーヤーの音声とVIDEO 4 INPUT端子に接続したビデオカメラの映像をVIDEO 1 OUTPUT端子に接続したビデオデッキで録音･録画する例です。

1 録音する機器(再生側)の準備をする

例： VIDEO 4 INPUT端子に接続したビデオデッキにテープをセットする

2 VIDEO 1 OUTPUT端子に接続したビデオデッキにテープをセットする

3 入力切換ボタンの「VIDEO 4」を押す

4 入力切換ボタンの「CD」を押す

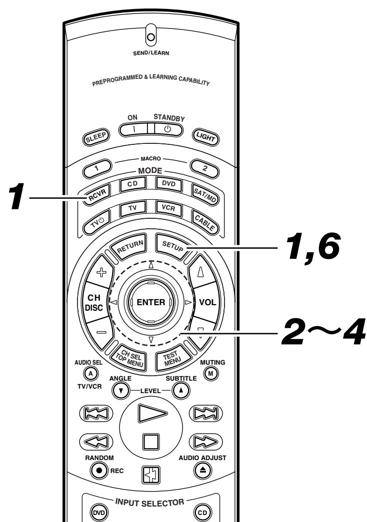
音声出力はCDに変わりますが、映像出力は手順**3** で選んだVIDEO 4のまま変わりません。VIDEO 1 OUTPUT端子に接続したビデオデッキで録画を開始し、VIDEO 4 INPUT端子に接続したビデオカメラとCDプレーヤーの再生を始めます。映像はビデオカメラから録画し、音声はCDプレーヤーから録音されます。

設定をする（応用編）

スピーカーの設定をする

視聴位置からスピーカーまでの距離を設定する（スピーカーディスタンス）

視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。
距離を設定することで、それぞれのスピーカーから視聴位置までの音の届く時間を一定にし、ホームシアターをより快適にお楽しみいただけます。スタンバイ状態にしても記憶しています。



1 RCVRボタンを押してからSETUPボタンを押して、メインメニューを表示させる

```
＊Menu ******************
 1. Hardware Config
 2. Speaker Config
 3. Speaker Distance
 4. Level Calibration
 5. Input Setup
 6. Preference

▼▲ [ENTER] Quit : [SETUP]
```

2 ▲/▼ボタンを押して「3. Speaker Distance」を選び、ENTERボタンを押す

スピーカーディスタンスメニューが表示されます。

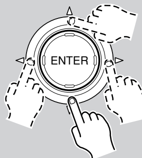
```
3. Speaker Distance
************************
 a. Unit        : meters
 b. Left        : 3.6m
 c. Center      : 3.6m
 d. Right       : 3.6m
 e. Surr Right  : 2.1m
 f . Surr Back  : 2.1m
 g. Surr  Left  : 2.1m
 h. Subwoofer   : 3.6m
▼▲          Quit : [SETUP]
```

＊左図はサラウンドバックスピーカーを1本接続している場合の画面です。

ご注意

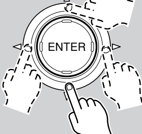
「1. Speaker Config（スピーカー環境）」の設定で、「No」または「None」を選択したスピーカーは、選択できません。

3 ▲/▼ボタンを押して「a. Unit（単位）」を選び、◀/▶ボタンで設定する単位を選ぶ



meters：距離をメートルで設定する。0.3m単位で9mまで設定できます。
feet　：距離をフィートで設定する。1ft単位で30ftまで設定できます。

4 ▲/▼ボタンを押して「b. Left」を選び、◀/▶ボタンで距離を設定する



左フロントスピーカーから視聴位置までの実際に近い数値に設定します。

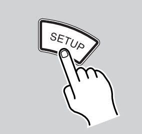
5 手順**4**をくり返し、接続したすべてのスピーカーの距離を設定する

- サラウンドバックスピーカーが1本の場合
  b. Left→c. Center→d. Right→e. Surr Right→f. Surr Back→g. Surr Left→h. Subwoofer
  の順に設定します。
- サラウンドバックスピーカーが2本の場合
  b. Left→c. Center→d. Right→e. Surr Right→f. Surr Back R→g. Surr Back L→h. Surr Left→i. Subwoofer
  の順に設定します。

!ヒント

各スピーカーのディスタンス値の差が大きい場合（たとえば、フロントスピーカーが視聴位置からとても遠いのにサラウンドスピーカーは視聴位置に極端に近いなど）、設定値が自動的に変更される場合があります。（下記※参照）

6 SETUPボタンを押す



すべてのスピーカーの設定が終わったらSETUPボタンを押します。メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るにはRETURNボタンを押してください。

！ヒント

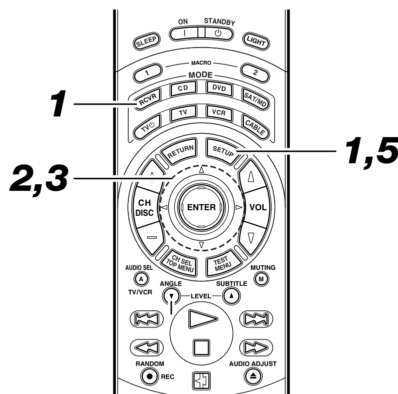
本体のSETUPボタン、カーソルボタン、ENTERボタンでも操作することができます。

※左右フロントスピーカー、センタースピーカー、サブウーファーは、すでに値を設定したディスタンス値のうち最も遠いディスタンス値から3m（10ft）引いた値までを設定できます。たとえば、最も遠いディスタンス値が9mの場合は、6m以上のディスタンス値を設定できます。また、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーは、すでに値を設定したディスタンス値のうちの最も遠いディスタンス値から6m（20ft）引いた値まで設定できます。いずれの場合も、入力しようとしている距離が一番遠いディスタンス値になる場合は、その設定値が新しい基準になるため、それまでに設定したディスタンス値が上記の条件に当てはまらない場合は、数値が範囲内で一番近い数字に自動的に変更されます。

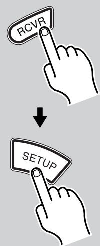
スピーカーの音量レベルを調整する（レベルキャリブレーション）

各スピーカーからのテスト音の音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。
スタンバイ状態にしても記憶しています。

- ミューティング中やヘッドホンを接続しているとき、マルチチャンネルを使用しているときは、設定できません。
- **本機はTHX対応機種ですので、テスト音は標準レベルの0dB（Absolute Volume値の場合は82）で出力されます。通常お聞きになっている音量がこれよりも小さい場合は、突然大きな音になりますので、ご注意ください。テスト音は、下記手順*2*でENTERボタンを押すと同時に出力されます。**



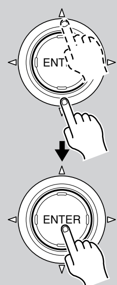
1 RCVR ボタンを押してからSETUPボタンを押して、メインメニューを表示させる



```
＊Menu ******************
  1. Hardware Config
  2. Speaker Config
  3. Speaker Distance
  4. Level Calibration
  5. Input Setup
  6. Preference

▼/▲ [ENTER] Quit : [SETUP]
```

2 ▲/▼ボタンを押して「4. Level Caliblation」を選び、ENTERボタンを押す



レベルキャリブレーションメニューが表示され、「ザー」というテスト音が左フロントスピーカーより出力されます。

```
4. Level Calibration
************************
  a. Left         : 0dB ◀▶
  b. Center       : 0dB ◀▶
  c. Right        : 0dB ◀▶
  d. Surr Right   : 0dB ◀▶
  e. Surr Back    : 0dB ◀▶
  f . Surr  Left  : 0dB ◀▶
  g. Subwoofer    : 0dB ◀▶

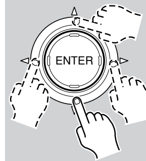
▼/▲          Quit : [SETUP]
```

＊左図はサラウンドバックスピーカーを1本接続している場合の画面です。

ご注意

「2. Speaker Config（スピーカー環境）」の設定で、「No」または「None」を選択したスピーカーは、設定できません。

3 ◀/▶ボタンを押してテスト音を調整し、▲/▼ボタンでスピーカーを切り換える

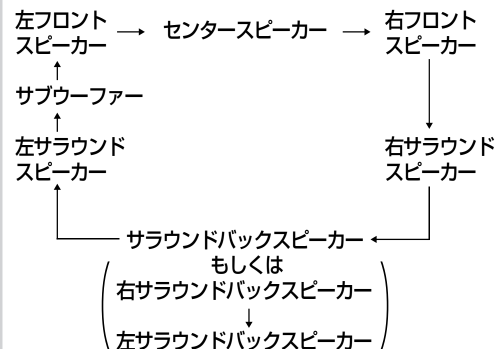


すべてのスピーカーのテスト音が同じ音量に聞こえるように調整します。

- −12dB〜+12dBの範囲内を1dBごとに調整できます。
- サブウーファーは−15dB〜+12dBの範囲内で調整できます。

4 手順*3* をくり返し、接続したすべてのスピーカーのテスト音を調整する

テスト音は次の順で出力されます。



5 SETUPボタンを押す



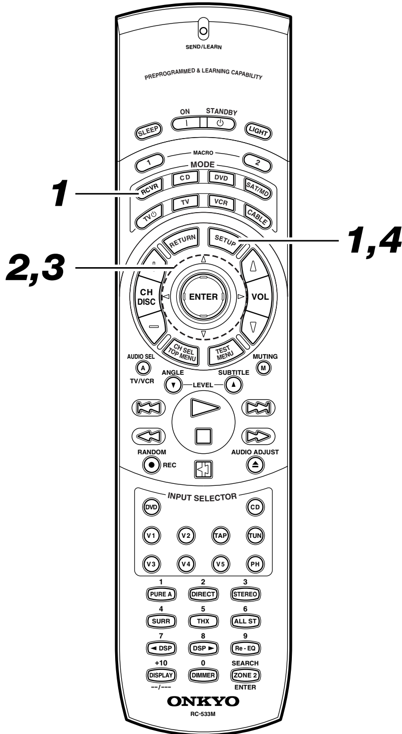
レベルキャリブレーションの設定が終わり、メニュー画面が消えます。

!ヒント

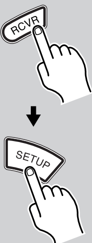
TESTボタンでテスト音を出して設定することもできます。この場合、LEVEL▲/▼ボタンでテスト音を調整し、CH SELボタンでスピーカーを切り換えます。

低音域の管理設定をする（クロスオーバー）

それぞれのスピーカーの低音域を設定します。



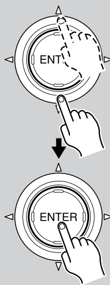
1 RCVR（レシーバー）ボタンを押してからSETUP（セットアップ）ボタンを押して、メインメニューを表示させる



```
＊Menu ******************
 1. Hardware Config
 2. Speaker Config
 3. Speaker Distance
 4. Level Calibration
 5. Input Setup
 6. Preference

▼▲ [ENTER] Quit : [SETUP]
```

2 ▲/▼ボタンを押して「2. Speaker（スピーカー）Config（コンフィグ）（スピーカー環境）」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

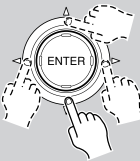


スピーカー設定画面が表示されます。

```
2. Speaker Config
*************************
 a. Subwoofer      : Yes
 b. Front L/R      : Small
 c. Center         : Small
 d. Surround L/R   : Small
 e. Surround Back  : Small
 f . Crossover : 80Hz(THX)

▼▲            Quit : [SETUP]
```

3 ▲/▼ボタンを押して「f. Crossover（クロスオーバー）」を選び、◀/▶ボタンで設定する



クロスオーバー設定値を環境に合った数値に設定します。

目安としてサブウーファーがある場合は、フロントスピーカーのユニット部の直径を、サブウーファーがない場合は「Small」に設定したスピーカーユニットの直径を目安にします。

- THX社認定のTHXスピーカーシステムをご使用になるときは、「80（THX）」に設定します。

ユニット部の直径	クロスオーバー設定値
30 cm 以上	40
20 ～ 30 cm	60
16 ～ 20 cm	80（THX）
13 ～ 16 cm	100
9 ～ 13 cm	120
9 cm 以下	150

4 SETUP（セットアップ）ボタンを押す



設定が終了したら、SETUPボタンを押します。メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るにはRETURN（リターン）ボタンを押してください。

！ヒント

本体のSETUP（セットアップ）ボタン、カーソルボタン、ENTER（エンター）ボタンでも操作することができます。

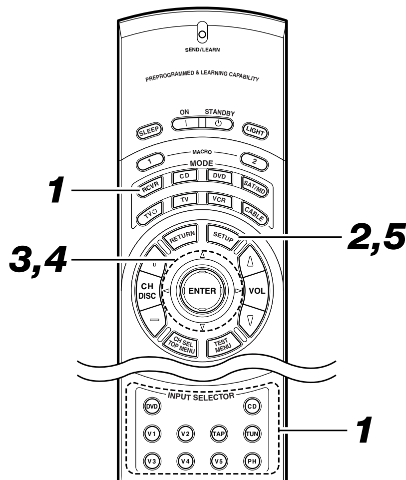
！ヒント

クロスオーバー周波数を低い値に設定したとき、その周波数以下の音域が音源に含まれない場合は、サブウーファーから出力される音も少なくなります。

リスニングモードを設定しておく

よく使うリスニングモードを設定しておく

入力される信号によって、よく使うリスニングモードを設定しておくことができます。
再生中に切り換えることもできますが、一度スタンバイ状態にすると設定されたモードに戻ります。



1 RCVRボタンを押してから、INPUT SELECTORボタンで設定する「入力ソース」を選ぶ

!ヒント

PCM96kHz、モノラルで記録されたデジタル信号は、すべての入力ソースが共通で設定されます。

2 SETUPボタンを押して、メインメニューを表示させる

```
＊Menu ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
1. Hardware Config
2. Speaker Config
3. Speaker Distance
4. Level Calibration
5. Input Setup
6. Preference

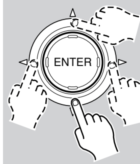
▼▲ [ENTER] Quit : [SETUP]
```

3 ▲/▼ボタンを押して「5. Input Setup」を選び、ENTERボタンを押す

インプットセットアップメニューが表示されます。

```
5. Input Setup
＊＊＊ Input : DVD      ＊＊＊＊＊＊
              ▲
a. Digital Input     : OPT1 ◀▶
b. Component Video
                     : Input1 ◀▶
c. IntelliVolume
                     : 0dB ◀▶
              ▼
▼▲              Quit : [SETUP]
```

4



CDなどのPCM信号やレコード、カセットテープなどのアナログ信号、2チャンネルで記録されたドルビーデジタルAACなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定しておくには

1. ▲/▼ボタンを押して「d. Analog/PCM/D.F.2ch」を選ぶ
2. ◀/▶ボタンで設定するモードを選択する

- PCM/アナログ音声時に選択できるリスニングモードのみ表示されます。「Last Valid」はリスニングモードを固定せず、最後に選択したモードを優先します。

PCM96kHzの音声信号を再生するときのリスニングモードを設定しておくには

1. ▲/▼ボタンを押して「e. PCM fs = 96k」を選ぶ
2. ◀/▶ボタンで設定するモードを選択する

- PCM96kHz音声時に選択できるリスニングモードのみ表示されます。
  「Last Valid」はリスニングモードを固定せず、最後に選択したモードを優先します。

ドルビーデジタル、AAC，DTSなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定しておくには

1. ▲/▼ボタンを押して「f.D.F」を選ぶ
2. ◀/▶ボタンで設定するモードを選択する

- 上記の音声時に選択できるリスニングモードのみ表示されます。
  「Last Valid」はリスニングモードを固定せず、最後に選択したモードを優先します。

モノラルで記録されたドルビーデジタル、AAC，DTSなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを没定しておくには

1. ▲/▼ボタンを押して「g. D.F.Mono」を選ぶ
2. ◀/▶ボタンで設定するモードを選択する

- 「DF Mono」音声時に選択できるリスニングモードのみ表示されます。
  「Last Valid」はリスニングモードを固定せず、最後に選択したモードを優先します。

5 SETUPボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

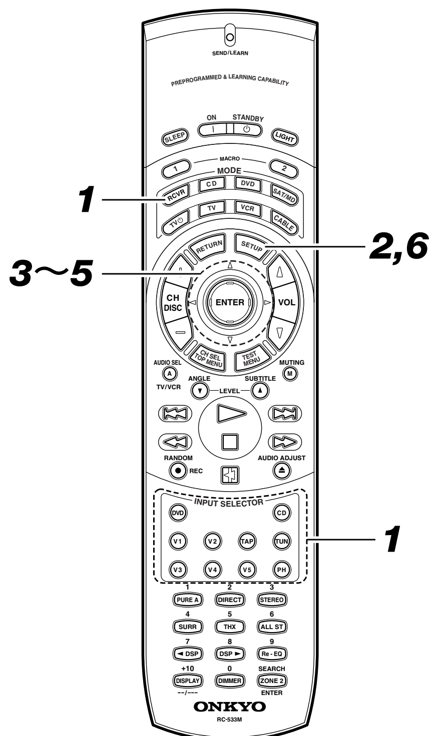
!ヒント

「e. PCM fs=96k」、「f.D.F」、「g.D.F. Mono」はデジタル入力端子の設定がされている入力ソースのみ設定できます。

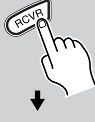
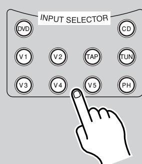
その他の設定

機器間の音量差を減らす（インテリジェントボリューム）

本機に複数の機器を接続している場合、本機のボリューム位置が同じでも機器によって再生するときの音量に差が出ることがあります。
その音量差を減らすことで、同じボリューム位置のまま同じ音量で各機器をお楽しみいただけます。



1

RCVR ボタンを押してから、INPUT SELECTORボタンを押して「入力ソース」を選ぶ

設定するソースを選びます。

2

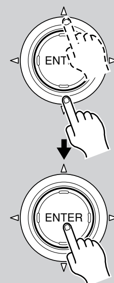


SETUPボタンを押して、メインメニューを表示させる

＊Menu ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
1. Hardware Config
2. Speaker Config
3. Speaker Distance
4. Level Calibration
5. Input Setup
6. Preference

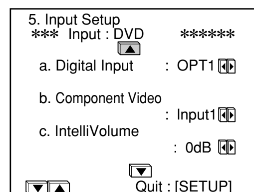
[ENTER] Quit : [SETUP]

3

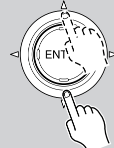


▲/▼ボタンを押して「5. Input Setup」を選び、ENTERボタンを押す

インプットセットアップメニューが表示されます。

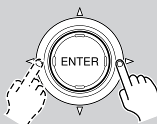


4



▲/▼ボタンを押して、「c. Intelli Volume」を選ぶ

5



◀/▶ボタンを押して「音量」を調整する

他の機器と比べて音量が大きい場合は◀ボタン、小さい場合は▶ボタンを押して調整します。
- −12dB～+12dBの範囲内で調整できます。

6



SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

本体のSETUPボタン、カーソルボタン、ENTERボタンでも操作することができます。

ヘッドホンレベルの設定

スピーカーで聞くときとヘッドホンで聞くときの音量に差がある場合、ヘッドホンの音量を微調整しておくことができます。

1 RCVR（レシーバー）ボタンを押してからSETUP（セットアップ）ボタンを押して、メインメニューを表示させる

```
＊Menu ******************
1. Hardware Config
2. Speaker Config
3. Speaker Distance
4. Level Calibration
5. Input Setup
6. Preference

▼▲ [ENTER] Quit : [SETUP]
```

2 ▲/▼ボタンを押して「6. Preference（プリファレンス）」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

プリファレンスセットアップメニューが表示されます。

```
6. Preference
************************
a. Headphone Level
        :   0dB
b.Background Color
        :  Blue
c. Immediate Display
        :  Normal
d. Volume Display
        :  Absolute
▼▲          Quit : [SETUP]
```

3 ▲/▼ボタンを押して「a. Head-phone Level（ヘッドホンレベル）」を選ぶ

4 ◀/▶ボタンを押してヘッドホンの音量を調整する

−12dB〜+12dBの範囲で選択できます。

5 SETUPボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

本体のSETUP（セットアップ）ボタン、カーソルボタン、ENTER（エンター）ボタンでも操作することができます。

OSD(オンスクリーンディスプレイ）の背景色を変える

オンスクリーンディスプレイの背景色を変えることができます。

1 RCVR ボタンを押してからSETUPボタンを押して、メインメニューを表示させる

```
＊Menu ******************
1. Hardware Config
2. Speaker Config
3. Speaker Distance
4. Level Calibration
5. Input Setup
6. Preference

▼▲ [ENTER] Quit : [SETUP]
```

2 ▲/▼ボタンを押して「6. Preference」を選び、ENTERボタンを押す

プリファレンスセットアップメニューが表示されます。

```
6. Preference
************************
a. Headphone Level
        :   0dB
b.Background Color
        :  Blue
c. Immediate Display
        :  Normal
d. Volume Display
        :  Absolute
▼▲          Quit : [SETUP]
```

3 ▲/▼ボタンを押して「b. Back-ground Color（バックグラウンドカラー）」を選ぶ

4 ◀/▶ボタンを押してお好みの色を選ぶ

Blue（ブルー）（青）、Green（グリーン）（緑）、Magenta（マゼンタ）（紅色）、Red（レッド）（赤）の中から選択できます。

5 SETUPボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

本体のSETUP（セットアップ）ボタン、カーソルボタン、ENTER（エンター）ボタンでも操作することができます。

OSD（オンスクリーンディスプレイ）の表示を切り換える

リスニングモードやボリュームを切り換えるとき、オンスクリーンディスプレイに情報を表示します。その表示位置などを切り換えることができます。

1

RCVR（レシーバー）ボタンを押してからSETUP（セットアップ）ボタンを押して、メインメニューを表示させる

```
＊Menu ******************
  1. Hardware Config
  2. Speaker Config
  3. Speaker Distance
  4. Level Calibration
  5. Input Setup
  6. Preference

  ▼▲ [ENTER] Quit : [SETUP]
```

2

▲/▼ボタンを押して「6. Preference（プリファレンス）」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

プリファレンスセットアップメニューが表示されます。

```
6. Preference
************************
  a. Headphone Level
                    :   0dB
  b.Background Color
                  :  Blue
  c. Immediate Display
                  :  Normal
  d. Volume Display
                 :  Absolute
▼▲              Quit : [SETUP]
```

3

▲/▼ボタンを押して「c . Immediate（イミディエイト） Display（ディスプレイ）」を選ぶ

4

◀/▶ボタンを押して「Normal（ノーマル）」、「Wide（ワイド）」または「Off（オフ）」を選ぶ

Normal（ノーマル）：ご使用のテレビが4：3のとき選択します。

Wide（ワイド）：ご使用のテレビが16：9のとき選択します。

Off：表示をしません。

5

SETUPボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

本体のSETUP（セットアップ）ボタン、カーソルボタン、ENTER（エンター）ボタンでも操作することができます。

ボリュームの表示を切り換える

ボリュームの表示方法を絶対値と相対値に切り換えることができます。

1

RCVR（レシーバー）ボタンを押してからSETUP（セットアップ）ボタンを押して、メインメニューを表示させる

```
＊Menu ******************
  1. Hardware Config
  2. Speaker Config
  3. Speaker Distance
  4. Level Calibration
  5. Input Setup
  6. Preference

  ▼▲ [ENTER] Quit : [SETUP]
```

2

▲/▼ボタンを押して「6. Preference（プリファレンス）」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

プリファレンスセットアップメニューが表示されます。

```
6. Preference
************************
  a. Headphone Level
                    :   0dB
  b.Background Color
                  :  Blue
  c. Immediate Display
                  :  Normal
  d. Volume Display
                 :  Absolute
▼▲              Quit : [SETUP]
```

3

▲/▼ボタンを押して「d. Volume（ボリューム） Display（ディスプレイ）」を選ぶ

4

◀/▶ボタンを押して「Relative（リラティブ）」または「Absolute（アブソリュート）」を選ぶ

Absolute（絶対値）

Min·1·2……98·99·Maxの範囲で表示します。

Relative（相対値）

−∞dB·−81dB·−80dB……17dB·Maxの範囲で表示します。絶対値の音量82が相対値の0dBに相当します。

5

SETUPボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

本体のSETUP（セットアップ）ボタン、カーソルボタン、ENTER（エンター）ボタンでも操作することができます。

音響効果の設定をする

リスニングモードや接続した機器によって音響効果をお好みに設定することができます。設定するリスニングモードにしてから音質の調整を行ってください。

1

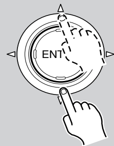


RCVR ボタンを押してから AUDIO ADJUSTボタンを押す

AUDIO ADJUSTメニューが表示されます。

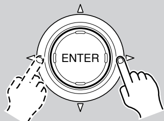
- 表示されるAUDIO ADJUSTメニューは、リスニングモードによって異なります。

2



▲/▼ボタンで設定したい項目を選ぶ

3



◀/▶ボタンで調整する

4



AUDIO ADJUSTボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

本体のAUDIO ADJUSTボタン、カーソルボタンでも操作することができます。

低音を調整する

Bass

「Direct」「Pure Audio」「THX」以外のリスニングモード時に左右フロントスピーカーの低音を調整することができます。初期設定は「0」ですが、－12dB～+12dBの範囲内で2dBずつ調整できます。

高音を調整する

Treble

「Direct」「Pure Audio」「THX」以外のリスニングモード時に左右フロントスピーカーの高音を調整することができます。初期設定は「0」ですが、－12dB～+12dBの範囲で2dBずつ調整できます。

Mono/2ch/96kHz信号再生時の重低音を調整する

Double Bass

「スピーカーの設定」でサブウーファーを「Yes（有り）」にしていて、フロントスピーカーを「Large」に設定している場合、サブウーファーをさらに強調させることができます。モノラル信号、2チャンネル信号、96kHz信号入力時に効果があります。

On：サブウーファーを強調します。
Off：サブウーファーを強調しません。

ドルビーデジタル、DTS、AAC信号再生時の低域効果音を調整する

LFE Level

ドルビーデジタル、DTS、AAC信号が入力されたときに、それぞれにLFE（Low Frequency Effect）レベルを設定しておくことができます。
最適なLEF効果が得られる推奨設定は初期設定の0dBですが、－∞または－10dB～0dBの範囲内で1dBずつ調整できます。
音楽や映画などで低音域が強調されすぎる場合、必要に応じて値を下げてください。

!ヒント

再生している信号にLFE成分がない場合は表示されません。

DTS Neo:6 Music時の音質を調整する

Center Image

「DTS Neo:6 Music」は、2チャンネルで収録されたソースを6チャンネルで再生するリスニングモードで、左右フロントチャンネルからいくらか差し引いた音声を使ってセンターチャンネルの音声を作り出します。どの程度音声を差し引いてセンターチャンネルのイメージを作るかを調整します。初期設定は「3」ですが、0〜5の範囲で選択できます。

!ヒント

- 「0」は左右のチャンネルから半分（−6ｄB）差し引いてセンターイメージを作るため、より中央に寄った感じになります。視聴位置が中央からかなりずれている場合に便利です。
- 「5」は左右のチャンネルから音声が差し引かれないため元のステレオ音声のバランスのまま出力されます。

Dolby Pro Logic II Music時の音質を調整する

Panorama

前方の音場を横方向まで広げることができます。
初期設定は「Off」に設定されています。

On：プロロジックII パノラマ効果をオンにします。
Off：プロロジックII パノラマ効果をオフにします。

Dimension

音場を前方または後方へ移動させることができます。
初期設定は「3」に設定されています。

!ヒント

- 「3」を中心に、2、1、0にすると前方へ、4、5、6にすると後方へ移動します。
- 広がり感がありすぎたり、サラウンドが強すぎる場合は音場を前方に調整するとバランスが良くなります。逆にモノラル感や音場が狭い感じの場合は音場を後方に調整するとバランスがよくなります。

Center Width

センタースピーカーの音の広がり幅を調整することができます。
Dolby Pro Logic IIでは、センタースピーカーがある場合はセンターチャンネルの信号をセンタースピーカーからのみ出力します。（センタースピーカーがない場合は、左右フロントスピーカーに等分に振り分け、幻想のセンター音像を作ります。）
この設定では、センタースピーカーと左右フロントスピーカーの配合を調整し、センターの音の重量感を調整することができます。初期設定は「3」ですが、0〜7の範囲で選択できます。

オンキヨー独自のリスニングモード時の音質を調整する

Front Effect

フロントスピーカーの残響効果をオフにすることができます。
ライブコンサートなどが記録されたソースはあらかじめ周囲に残響音が収録されています。これにリスニングモードの残響効果が加わると雰囲気がぼやけたように聞こえることがあります。
Front Effectをオフにすると左右フロントスピーカー、センタースピーカーには残響音を加えないため、ソースの情報をありのまま再生します。初期設定は「On」に設定されています。

On：残響音を加えます。
Off：残響音を加えません。

Reverb Level

再生するソース、部屋の状況などに合わせて、残響音の大小を調節します。初期設定は「Middle」ですが、「High」、「Low」も選択できます。

Reverb Time

再生するソースや部屋の状況などに合わせて、残響時間を調節します。初期設定は「Middle」ですが、「Long」、「Short」も選択できます。

Mono時の設定をする

Input Channel

ステレオ音声をリスニングモードMonoで再生するときの出力方法を設定します。初期設定は「AUTO L+R」に設定されています。

Auto L+R：左右フロントスピーカーからそれぞれ同じ音声が出力されます。
Left：左チャンネルと右チャンネルにそれぞれ異なる言語が記録されたソースを再生する場合、左チャンネルの音声を左右フロントスピーカーに出力します。
Right：左チャンネルと右チャンネルにそれぞれ異なる言語が記録されたソースを再生する場合、右チャンネルの音声を左右フロントスピーカーに出力します。

Academy Filter

古いモノラル映画は、通常フィルムの構造上再生されるヒスノイズが聞こえないようにするため、上映時に高音を下げることで音のバランスを調節します。映画によっては、高音域を下げずにビデオへの転送を行った結果、高音が強調されたヒスノイズの多い音が再生されることがあります。この設定で当時多くのシステムに使用された再生手法に基づいた「アカデミーフィルター」で高音域を下げることができます。初期設定は「Off」に設定されています。

On：アカデミーフィルターをかけ、高音を下げる再生をします。
Off：アカデミーフィルターをかけず、通常の再生をします。

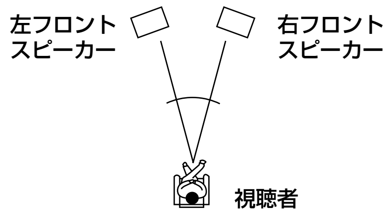
Theater-Dimensional時の音響を調整する

（シアター ディメンショナル）

Listening Angle

（リスニング アングル）

視聴者から見た左右フロントスピーカーに対する角度を設定します。シアターディメンショナルはこの角度をもとにバーチャル処理を行います。初期設定は「40°」ですが「20°」も選べます。



Center

（センター）

センタースピーカーを接続している場合はセンターチャンネルの信号をセンタースピーカーで再生することができます。
これにより左右フロントスピーカーの負担が軽減され、より明瞭度の優れた音響空間を創り出します。

- On（オン）：センターチャンネルの信号はセンタースピーカーから出力されます。
- Off（オフ）：センターチャンネルの信号は左右フロントスピーカーに振り分けられて、出力されます。

初期設定は「Off」に設定されています。

Front Expander

（フロント エクスパンダー）

前方の音場を横方向まで広げることができます。特にリスニングアングルが20° といった狭いリスニング条件の時にお使いいただくと効果があります。
初期設定は「Off」に設定されています。

- On（オン）：フロントエクスパンダー効果をオンにします。
- Off（オフ）：フロントエクスパンダー効果をオフにします。

Dialog Enhance

（ダイアログ エンハンス）

多くの場合、センターチャンネルにはセリフが記録されています。この設定でセンターチャンネルを強調することができます。初期設定は「Off」に設定されています。

- On（オン）：センターチャンネル信号を強調します。
- Off（オフ）：センターチャンネル信号を強調しません。

Virtual SurrLvl

（バーチャル サラウンドレベル）

バーチャル処理したサラウンド信号のレベルを調整します。明瞭度が悪いときや不自然な音がするときにこのレベルを下げることで改善される場合もあります。初期設定は「0」ですが、－3～+3の範囲で選択できます。

TX-SA701(52-61)(SN29343498) 61 03.4.11, 6:02 PM

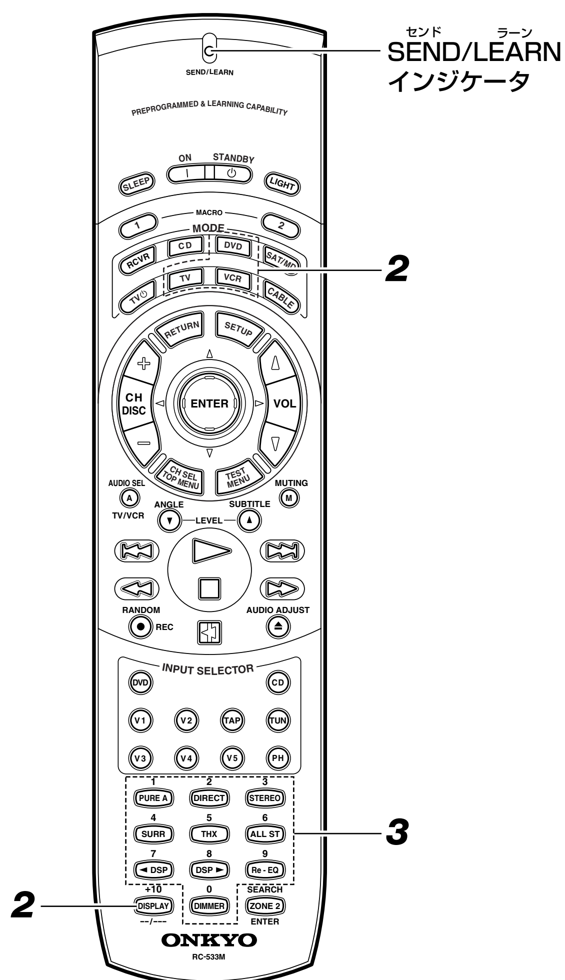
接続した製品を本機のリモコンで操作する

本機に付属のリモコン（RC-533M）で、他社の製品を操作したり、連続した操作を学習させることができます。
操作するには次の3つの方法があります。

- **他機（DVD、テレビ、ビデオ）のリモコンコードを登録する**
- **他機のリモコンから指定した操作を学習させる**
- **マクロ機能を使って連続した操作を学習させる**

リモコンコードを登録する

他機のリモコンコードを本機のリモコンの「MODEボタン」に登録すると、本機のリモコンで他機を操作することができます。
「DVD」、「TV」、「VCR」のいずれかのMODEボタンに機器のリモコンコードを登録させることができます。



1 登録する他機のメーカー別リモコンコード（3桁）を63ページのリモコンコード表で確かめる

2 登録するMODEボタンを押しながら、DISPLAYボタンを押し、両方から指を離す

- MODEボタンを押すと、SEND/LEARNインジケーターが点灯し、DISPLAYボタンを押すと消灯します。
- SEND/LEARNインジケーターが消えてから、指を離してください。指を離すと再び点灯します。

3 数字ボタンで3桁のリモコンコードを入力する

- 30秒以内に入力してください。SEND/LEARNインジケーターが2回ゆっくり点滅します。
- 3回すばやく点灯した場合は登録に失敗していますので、もう一度手順***2***から操作し直してください。

4 登録したボタンを押して、他機を操作する

他機が操作できない場合は、もう一度手順***3***から操作し直してください。

オンキヨー製DVDプレーヤーのコードを登録するときは…

次の3種類のコード番号があります。DVDプレーヤーの使用方法に応じて選択してください。

600 ： オーディオ用ピンコードとRIケーブルの両方を接続している場合に使用します。初期設定は「600」になっていますのでRI接続している場合はこのままご使用ください。リモコンは本機のリモコン受光部に向けて操作します。

601/613 ： 接続しているDVDプレーヤーにRI端子がついていない、またはRIケーブルを接続していない場合に使用します。製品によって動作が異なるため、「601」を入力し、正しく動作しない場合は「613」を入力してください。

リモコンコード表

複数のコード番号があるときは、1つずつ登録し、機器に合った方を選んでください。

DVD（DVDプレーヤー）

ブランド名	コード番号
デノン	602, 609
日立	603
日本ビクター(JVC)	604
ケンウッド	605
マグナボックス	606, 613
マランツ	607
三菱	608, 613
オンキヨー	600, 601, 613
パナソニック	609
パイオニア	610
プロスキャン	611
RCA	611
ソニー	612
東芝	613
ヤマハ	609, 614
ZENITH	613, 615

SAT（衛星放送チューナー）

ブランド名	コード番号
ECHOSTAR	700
GENERAL INSTRUMENTS	701
日立	702
HUGHES NETWORK SYSTEMS	703
パナソニック	704
PRIMESTAR	705
プロスキャン	706, 707
RCA	706, 707
ソニー	708
東芝	709

CABLE（ケーブルテレビ）

ブランド名	コード番号
GENERAL INSTRUMENTS	500
GEMINI	501
HAMLIN	502, 503, 504, 505
JERROLD	500, 506, 507, 508, 509, 510, 511, 512, 513, 514
MACOM	515, 516, 517
マグナボックス	518
OAK	519, 520, 521
パナソニック	522, 523
フィリップス	524, 525, 526, 527, 528, 529
パイオニア	530, 531
SCIENTIFIC ATLANTA	532, 533, 534
サムスン	535
TOCOM	536
ZENITH	537, 538

VCR（ビデオデッキ）

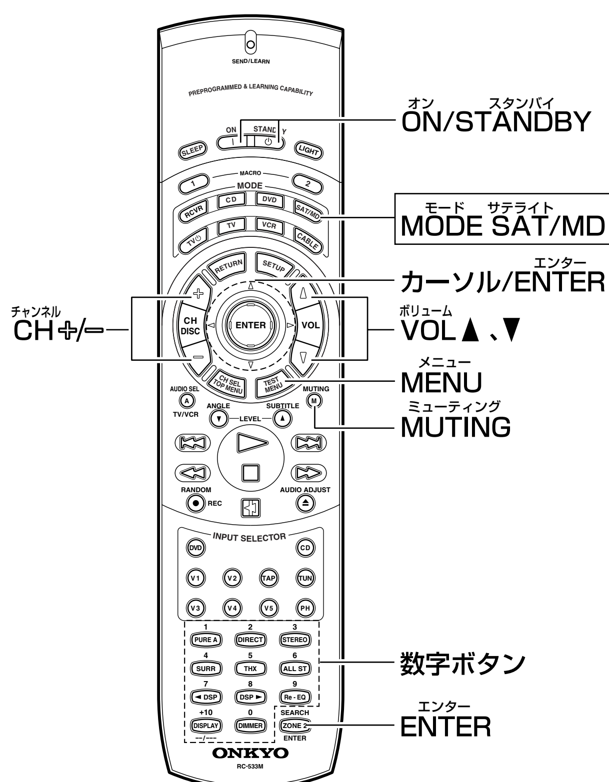
ブランド名	コード番号
アイワ	300, 301, 302
アカイ	303, 304, 305, 306, 307
BAIRD	308
ベルハウエル	309
BLAUPUNKT	310
CGM	311, 312, 313
COLTINA	314
DAEWOO	315, 316
DIGITAL	317
エマーソン	318, 319, 320, 321, 322
FENNER	323
フィッシャー	324, 325, 326, 327
富士通ゼネラル	328
フナイ	329
GE	330, 331
GO VIDEO	332, 336, 337
ゴールドスター	333, 334
グッドマンズ	335
GRUNDIG	338
日立	339, 340, 341
日本ビクター(JVC)	342, 343, 344, 345, 346, 347, 348, 349, 350
LOEWE	351, 352
マグナボックス	353, 354, 355
三菱	356, 357, 358, 359, 360, 361, 362, 363, 364
NEC	365, 366, 367
ノキア	313
NORDMENDE	368, 369, 370
OKANO	371, 372
オリオン	319, 373
パナソニック	374, 375, 376, 377, 378
フィリップス	353, 379, 380
PHONOLA	311
パイオニア	381
RCA	382
SABA	383
サムスン	384, 385, 386, 387, 388, 389, 390
サンヨー	391, 392, 393
SCOTT	394
SELECO	395
シャープ	396, 397, 398, 399
SHINTOM	400
SIEMENS	401
ソニー	402, 403, 404, 405, 406, 407, 408, 409, 410, 411, 412, 413
SYMPHONIC	414
TEKNIKA	414, 415
TELEFUNKEN	416, 417
東芝	418, 419, 420
WHITE WESTINGHOUSE	333
WATSON	421
ZENITH	422

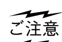
TV（テレビ）

ブランド名	コード番号
アイワ	100, 101
アカイ	102, 103, 104
オーディオソニック	105
ベルハウエル	106
BLAUPUNKT	107
BRIONVEGA	108, 109
CENTURION	110
COLTINA	111, 112, 113
CORONAD	114
クラウン	115, 116
DAEWOO	117, 118, 119, 120, 121
DUAL	122
エマーソン	123, 124, 125, 126, 127
FENNER	128, 129
FERGUSON	130, 131
フィッシャー	132
フナイ	133, 134, 135
富士通ゼネラル	136, 137, 138
GE	139, 140, 141
GOLDSTAR	142, 143
グッドマンズ	144
GRUNDIG	145, 146
日立	147, 148, 149, 150
ハイパー	151
INNO HIT	152
IRRADIO	103
日本ビクター(JVC)	153, 154, 155, 156, 157
KENDO	158
KTV	159, 160
LUXOR	161
マグナボックス	162, 163
マランツ	164
マーク	165
マツイ	166, 167, 168, 169
三菱	170, 171, 172, 173
MIVAR	174, 175
NEC	176, 177
ノキア	178, 179, 180, 181
OCEANIC	181
NORDMENDE	182, 183
OKANO	152
オリオン	184, 185, 186
パナソニック	187, 188, 189, 190
フィリップス	152, 162, 191
パイオニア	192, 193
プロスキャン	194
QUASAR	195
RADIO SHACK	196
RCA	110, 141, 197, 198, 199, 200
SABA	182, 183, 201
サムスン	202, 203, 204, 205, 206, 207, 208
サンヨー	209, 210, 211, 212
SCHNEIDER	103
SEARS	213
SELECO	214, 215
シャープ	216, 217
ソニー	218, 219, 220, 221, 222, 223
シンフォニック	224, 225
TELEFUNKEN	201, 226, 227
トムソン	228
東芝	213, 229
UNIVERSUM	230
ZENITH	231, 232

接続した製品を本機のリモコンで操作する

BSチューナーを操作する





リモコン送信部をBSチューナーのリモコン受光部に向けて操作してください。

1 **MODE SAT/MD ボタンを押す**

MODE SAT/MDボタンが緑色に点灯します。

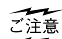
2 **各操作ボタンを押す**

操作ボタン(リモコンコード記憶後)

ON/STANDBY	:BSチューナーの電源ON/OFF
MENU	:メニュー表示
CH+/−	:選局
△▽△▽	:カーソル移動
ENTER	:決定
0、1〜9、+10	:数字ボタン

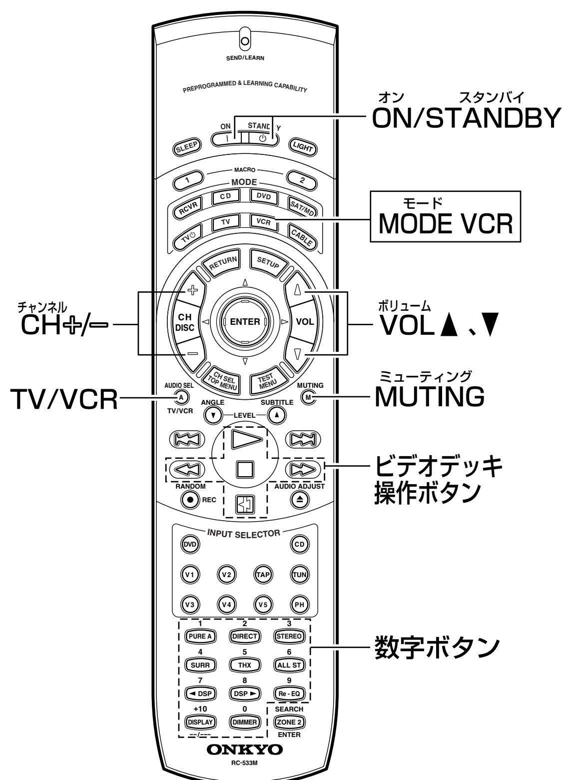
下記のボタンも操作することができます。

VOL △/▽	:本機の音量調整
MUTING	:本機のミューティング



数字ボタン右下のENTERボタンはカーソル/ENTERボタンのENTERの働きと同じです。

ビデオデッキを操作する



1 **MODE VCR ボタンを押す**

MODE VCRボタンが緑色に点灯します。

2 **各操作ボタンを押す**

ON/STANDBY :ビデオデッキの電源ON/OFF

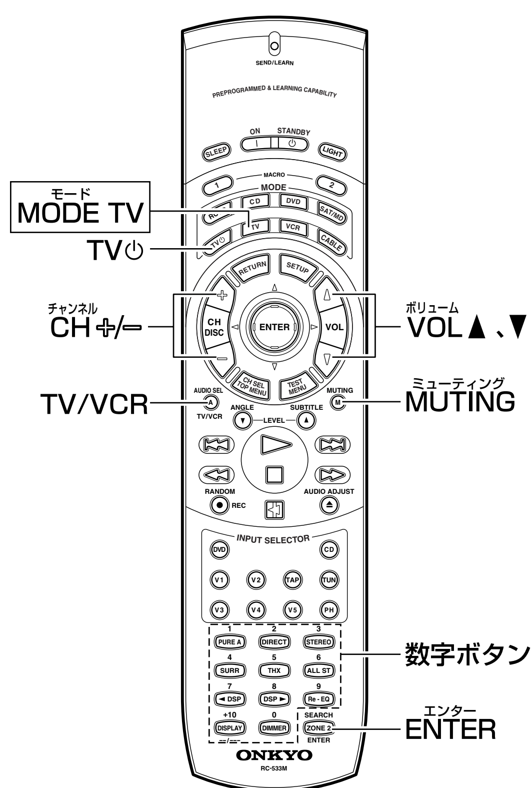
操作ボタン(リモコンコード記憶後)

CH+/−	:プリセット局の選局
TV/VCR	:テレビ/ビデオの切り換え
	:再生
	:停止
	:巻戻し
	:早送り
	:一時停止
0,1〜9, +10	:数字ボタン

下記のボタンも操作することができます。

VOL △/▽	:本機の音量調整
MUTING	:本機のミューティング

テレビを操作する



1 MODE TV ボタンを押す

MODE TVボタンが緑色に点灯します。

2 各操作ボタンを押す

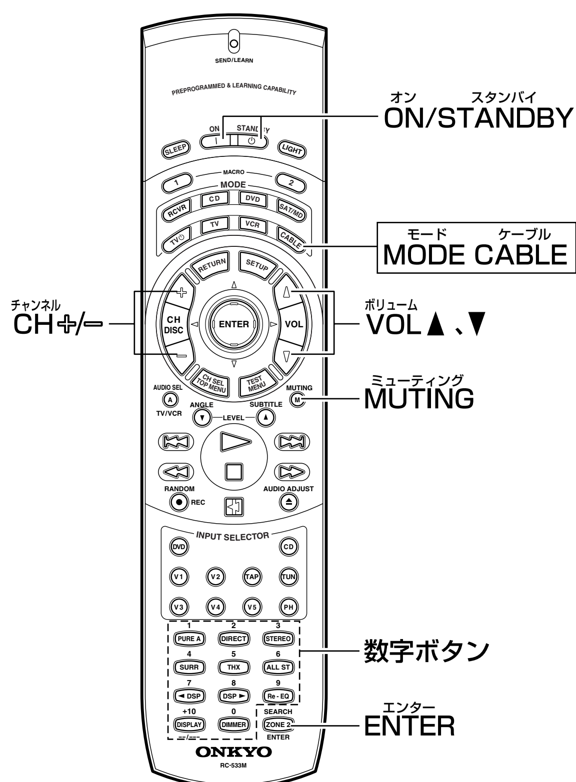
操作ボタン（リモコンコード記憶後）

TV⏻	：	TVの電源を入/切（同時にモードがTVに切り換わります）
CH+/−	：	チャンネル選択
TV/VCR	：	テレビ/ビデオの入力切り換え
0,1～9, +10	：	数字ボタン
ENTER	：	決定

下記のボタンも操作することができます。

VOL△/▽	：	テレビの音量調整
MUTING	：	テレビのミューティング

ケーブルテレビを操作する



1 MODE CABLE ボタンを押す

MODE CABLEボタンが緑色に点灯します。

2 各操作ボタンを押す

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

ON/STANDBY	：	ケーブルテレビの電源ON/OFF
CH+/−	：	プリセットチャンネルの選局
0,1～9, +10	：	数字ボタン
ENTER	：	決定

下記のボタンも操作することができます。

VOL△/▽	：	本機の音量調整
MUTING	：	本機のミューティング

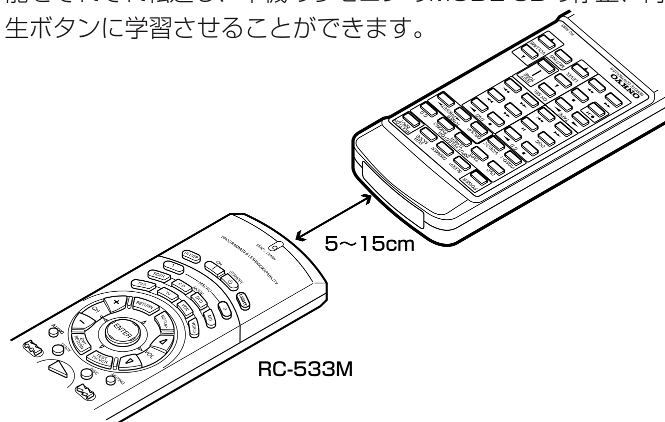
接続した製品を本機のリモコンで操作する

他機のリモコンから指定した操作を学習させる

他機のリモコンの操作を1つずつ転送し、本機のリモコンに学習させることができます。

他機のリモコンから学習させる

たとえば、他機CDプレーヤーのリモコンから再生、停止の機能をそれぞれ転送し、本機のリモコンのMODE CDの停止、再生ボタンに学習させることができます。



1 他機のリモコンと本機のリモコン（RC-533M）を5cm〜15cm離して置く

2 RC-533Mの学習させたいMODE（モード）ボタンを押しながらリモコン右下部のENTER（エンター）ボタンを押し、指を両方から離す

MODE
CD
SEARCH
ZONE 2
ENTER

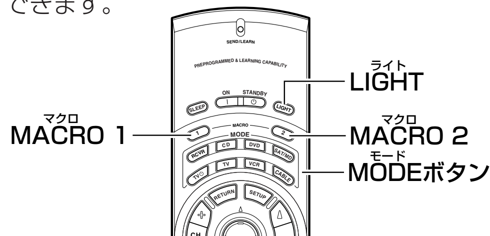
MODEボタンを押すとSEND（センド）/LEARN（ラーン）インジケーターが点灯し、ENTERボタンを押すと消えます。SEND/LEARNインジケーターが消えてから、指を離してください。指を離すと再び点灯します。

3 学習する操作ボタンを押して、指を離す

RC-533M

ボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが消え、指を離すと再び点灯します。

下記以外のいずれのボタンにも登録することができます。



！ヒント

ボタンを押し間違えた時は、同じボタンをもう一度押してください。SEND/LEARNインジケーターが2回点滅し、学習モードが解除されます。

4 学習させたい他機のリモコンのボタンを、本機のリモコンに向かって押し続ける



SEND/LEARNインジケーターが2回点滅するまで押し続けます。SEND/LEARNインジケーターは2回点滅した後、再び点灯します。

5 別の操作ボタンを学習する場合は、手順***2***〜***4***をくり返す

6 学習を終了する場合は、手順***2***で選んだ MODE ボタンを押す

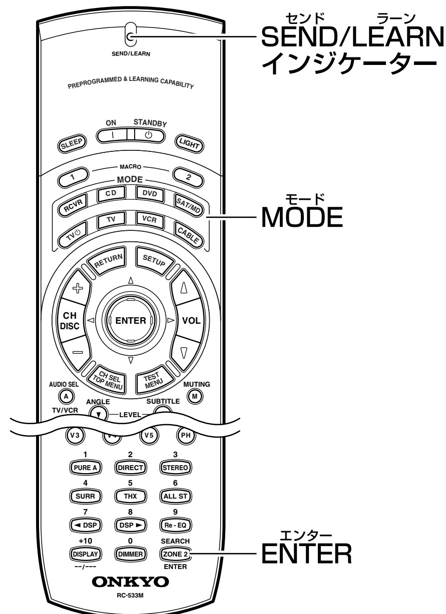
7 学習したボタンで正しく操作できることを確かめる

ご注意

- SEND/LEARNインジケーターがすばやく3回点滅したときは、操作を失敗したり、30秒以上ボタン操作をしなかったため学習モードが解除された場合です。
- SEND/LEARNインジケーターがすばやく6回点滅した場合は、ひとつのMODEに対しての学習容量を超えたため、学習モードが解除されました。別のMODEボタンに追加して学習させてください。
- 本機のリモコンは、オンキヨー製CDプレーヤー、テープデッキ、DVDプレーヤー、MDレコーダーのコードをすでに記憶しています。これらのボタンに他のコードを記憶させることもできますが、記憶内容を消去すると（67ページ）もとのコードに戻ります。
- コードが登録されているボタンに、新しいコードを上書きして記憶させるときも同じ手順で操作します。
- 本機のリモコンは、学習エリアとして357個（7モード×51ボタン）のボタンがあります。ただし、他機のリモコンによっては、ひとつのボタンで多くのエリアを使用する場合があります。その場合は学習できるエリアは357個より少なくなります。
- 本機のリモコンは、ほとんどのリモコンと同様に赤外線を利用しています。しかし、リモコンによっては、転送システムの違いによってコードを転送できないものがあります。
- 本機のリモコンに記憶させた他機の操作方法については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
- 本機および他機のリモコンの電池は新しいものをご使用ください。電池が消耗していると、学習操作ができないことがあります。
  記憶内容を消去する方法については、67ページをご覧ください。
- 電池切れなどの理由でリモコンコードが消えてしまった場合のために、他機のリモコンは大切に保管しておいてください。

学習させた操作コードを消去する

リモコンに学習させた操作コードを消去します。



MODE CDの▷ボタンに学習させた操作コードを消去する例

1

消去したいボタンのあるMODEボタンを押しながら、リモコン右下部のENTERボタンを押し、指を離す

MODEボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが点灯し、ENTERボタンを押すと消えます。SEND/LEARNインジケーターが消えてから、指を離してください。指を離すと再び点灯します。

2

消去したいボタンを押して、指を離す

ボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが消え、指を離すと再び点灯します。

3

消したいボタンをもう一度押して、指を離す

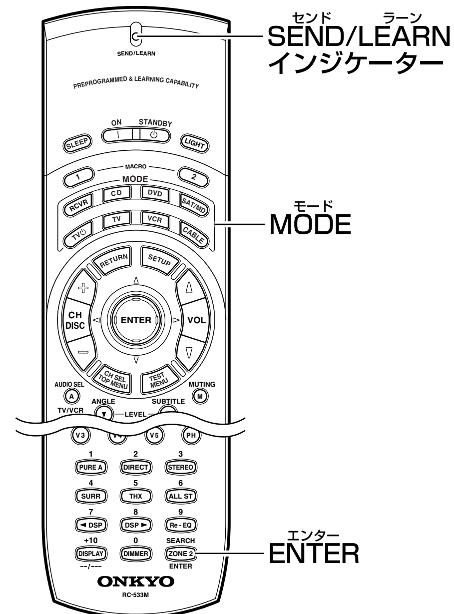
SEND/LEARNインジケーターがゆっくり2回点滅します。

ご注意

SEND/LEARNインジケーターがすばやく3回点滅したときは、30秒以上ボタン操作をしなかったため学習モードが解除された場合です。

MODEボタンに登録した全ての操作コードを消去する

ひとつのMODEボタンに登録した全ての操作コードを消去します。



MODE CDのいくつかのボタンに学習させた操作コードを消去する例

1

消去したいMODEボタンを押しながら、リモコン右下部のENTERボタンを2回押し、指を離す

MODEボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが点灯し、ENTERボタンを押すと消えます。SEND/LEARNインジケーターが消えてから、指を離してください。2回点滅したあと、再び点灯します。

2

消したいMODEボタンをもう一度押して、指を離す

指を離すと、SEND/LEARNインジケーターが2回ゆっくり点滅し、消去が完了します。

ご注意

- SEND/LEARNインジケーターがすばやく3回点滅したときは、操作を失敗したか、30秒以上ボタン操作をしなかったため学習モードが解除された場合です。もう一度手順1から操作してください。
- 消去するMODEボタンの操作ボタンに登録した数が多いときは、手順2で、SEND/LEARNインジケーターが約20秒間点灯し続けることがありますが、故障ではありません。

マクロ機能を使って連続した操作を学習させる

マクロ機能とは

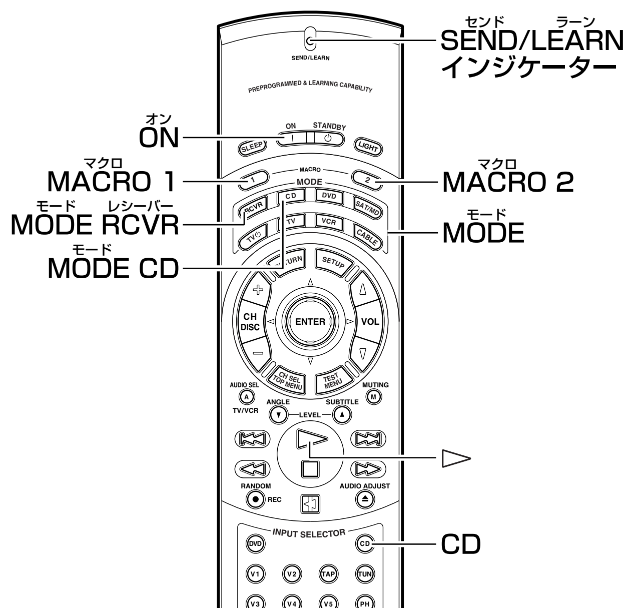
連続した操作を１つのボタンに学習させることができます。たとえば、リモコンを使って本機に接続したCDプレーヤーを演奏するには以下のようなボタン操作が必要となります。

1 MODE RCVRボタンを押す → **2** ONボタンを押す → **3** INPUT SELECTORのCDボタンを押す → **4** MODE CDボタンを押す → **5** 再生ボタンを押す

これらの操作を下記の手順でマクロボタンに学習させれば、１つのボタンで操作することができます。

マクロを学習させる

MACROボタン1、MACROボタン2の、2通りのマクロを学習させることができます。



1 学習させたいMODEボタンを押しながら、MACRO1（または２）ボタンを押し、指を離す

MODEボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが点灯し、MODEボタンが点灯します。MACROボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが消え、指を離すと再び点灯します。

2 記憶させたい操作ボタンを、操作順に連続して押す

例：MODE RCVR → ON → CD (INPUT SELECTOR) → MODE CD → ▶

ボタンを押すたびに、SEND/LEARNインジケータが消え、指を離すと再び点灯します。

3 MACRO1（または２）ボタンを押して終了する

SEND/LEARNインジケーターがゆっくり2回点滅します。

4 マクロを実行して正しく学習されたかを確かめる

！ヒント

マクロ信号は0.5秒間隔で次々に送信されますが、操作する機器によっては1つの動作が0.5秒で完了せず、次の信号が読み取れないことがあります。マクロを学習させるときに、間を空けたいところでそのMODEボタンを押すと、押すたびに約１秒間の間隔を延ばすことができます。

例：MODE RCVR → ON → MODE RCVR → CD （INPUT SELECTOR） → MODE CD → ▶

ご注意

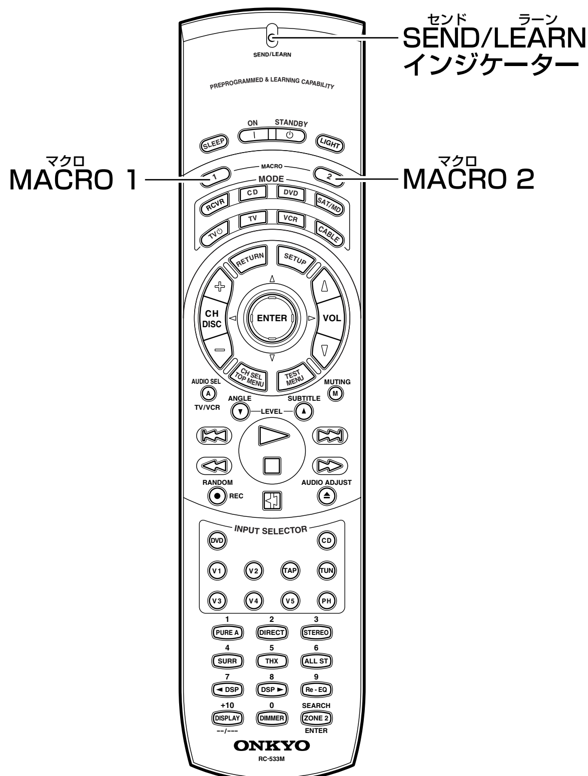
- 16個までの連続した動作を学習できます。17個目を学習させようとしても16個までしか学習しません。
- SEND/LEARNインジケーターがすばやく3回点滅したときは、操作を失敗したか、30秒以上ボタン操作をしなかったため学習モードが解除された場合です。もう一度手順1から操作してください。
- マクロを学習させたあと、そこに含まれるボタンの操作コードを消去したり、他の操作を上書きすると誤動作の原因になります。再度、マクロ学習を行ってください。

マクロモード設定メモ

MACRO	MACRO1	MACRO2
操作１		
操作２		
操作３		
操作４		
操作５		
操作６		
操作７		
操作８		
操作９		
操作10		
操作11		
操作12		
操作13		
操作14		
操作15		
操作16		

マクロを実行する

学習させたマクロを実行します。



1 MACRO1（または2）ボタンを押す



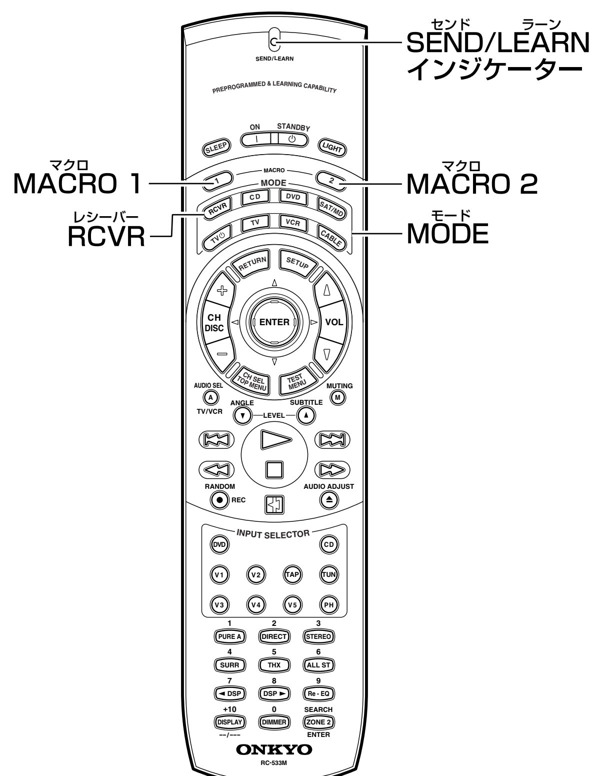
リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

ご注意

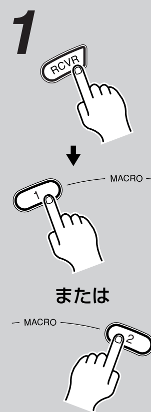
- マクロには複数の操作が記憶されているため、転送するまでに時間がかかることがあります。
- SEND/LEARNインジケーターが消えるまで、リモコンをリモコン受光部に向けておいてください。

マクロを消去する

学習させたマクロを消去します。



1 RCVR ボタンを押してからMODEボタンを押し、MACRO1(または2)ボタンを押し指を離す



MODEボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが点灯し、MODEボタンが点灯します。MACROボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが消え、指を離すと1回だけ点滅します。

2 MACRO1（または2）ボタンをもう一度押す



指を離すと、SEND/LEARNインジケーターが2回ゆっくり点滅し、マクロが消去されます。

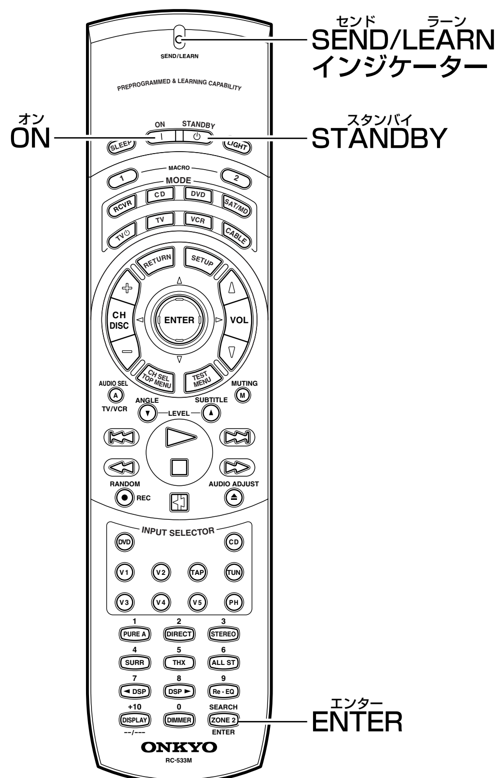
ご注意

- SEND/LEARNインジケーターがすばやく3回点滅したときは、30秒以上ボタン操作をしなかったため消去モードが解除された場合です。もう一度手順***2*** から操作してください。
- 手順2でMACRO以外のボタンを押すと、新しいマクロとして上書きされます。

接続した製品を本機のリモコンで操作する

リモコンに学習させたすべてのコードを消去する

学習させたすべてのコードやマクロが消去され、お買い上げ時の状態に戻ります。



1 リモコンの電池カバーを開け、電池を取り出す

2 ON（オン）ボタンとSTANDBY（スタンバイ）ボタンを同時に押しながら、乾電池を正しく入れ、ボタンから指を離す

ON STANDBY

SEND/LEARN（センド/ラーン）インジケーターがゆっくり点滅します。

3 リモコン右下部のENTER（エンター）ボタンを押す

SEARCH ZONE 2 ENTER

SEND/LEARNインジケーターが約10秒間点灯してから消えます。リモコンがお買い上げ時の状態に戻ります。

！ヒント

必ずENTERボタンを押してください。手順***2***のまま時間が経つと、インジケーターが点滅しつづけ、電池が消耗してしまいます。

主な仕様

総合

電源・電圧：AC100V・50/60Hz
消費電力：460W（電気用品安全法技術基準）
待機時電力：2.2W
最大外形寸法：435（幅）×175（高さ）×432（奥行）mm
質量：13.0kg

●映像入力：
D4：2（D4 VIDEO INPUT 1/2）
コンポーネント：2（COMPONENT VIDEO INPUT 1/2）
S：5（DVD、VIDEO 1/2/3、VIDEO 4（前面パネル））
コンポジット：5（DVD、VIDEO 1/2/3、VIDEO 4（前面パネル））

●映像出力：
D4：1（D4 VIDEO OUTPUT）
コンポーネント：1（COMPNENT VIDEO OUTPUT）
S：3（VIDEO 1/2、MONITOR OUT）
コンポジット：3（VIDEO 1/2、MONITOR OUT）

●音声入力：
デジタル：4（OPTICAL×3、COAXIAL×1）
アナログ：9（PHONO、CD、TAPE、VIDEO 1/2/3、
VIDEO 4（前面パネル）、TUNER、DVD）
マルチchアナログ：5.1ch

●音声出力：
デジタル：2（OPTICAL、COAXIAL）
アナログ：3（TAPE、VIDEO 1/2）
プリ出力：7.1（FRONT L/R、SURR L/R、CENTER
SUBWOOFER、SURR BACK L/R）
スピーカー出力：6
ヘッドホン出力：1

アンプ（音声）部

定格出力：
全てのチャンネル（2チャンネル駆動時）
125W（6Ω 1kHz、全高調波歪率0.1%以下）
100W（8Ω 20Hz～20kHz、全高調波歪率0.08%以下）
実用最大出力：160W（6Ω、EIAJ）
全高調波歪率：0.08%（定格出力時）
ダンピングファクター：60（フロント、8Ω）
入力感度/インピーダンス：
DIGITAL INPUT (COAXIAL)：0.5Vp-p/75Ω
DIGITAL INPUT (OPTICAL)：0.5Vp-p/75Ω
LINE (CD、VIDEO 1、2、3、TAPE、TUNER)：200mV/47kΩ
PHONO：2.5mV/47kΩ
DVD (FRONT L/R、CENTER、SURR L/R：200mV/47kΩ
DVD (SUBWOOFER)：36mV/47kΩ
出力電圧/インピーダンス：
REC OUT (VIDEO 1、2、TAPE)：200mV/470Ω
PREOUT：1V/470Ω

周波数特性：
10Hz～100kHz：+1dB/－3dB（ダイレクトモード）
トーンコントロール最大変化量：
Bass ：±10dB（50Hz時）
Treble ：±10dB（20kHz時）
PHONO最大許容入力：
70mV RMS（1kHz、0.5% THD）
SN比：
LINE ：106dB IHF-A、0.5V入力(ダイレクトモード)
PHONO ：80dB IHF-A、5mV入力(ダイレクトモード)
スピーカー適応インピーダンス：4Ω～16Ω

映像部

入力感度・出力電圧/インピーダンス：
1.0Vp-p/75Ω（コンポジット、S VIDEO　Y信号）
0.7Vp-p/75Ω（コンポーネント CB/PB、CR/PR）
0.286Vp-p/75Ω（S Video C信号）
コンポーネント映像周波数特性：5Hz～50MHz

リモコン　RC-533M

方式：赤外線
信号到達距離：約5m
使用電池：単3形、R6（1.5V）乾電池2個

※仕様および外観は予告なく変更することがあります。

困ったときは

まず下の表で点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。
●文章の最後にある数字は参照ページです。

電源

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、5秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。

音声

音声が出力されない/小さい

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の入力端子/出力端子に間違いがないか確認してください。
- スピーカーコードの+/−は正しく接続されているか、スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部に触れているか確認してください。
- 入力が正しく選択できているか確認してください。（39）
- ボリューム位置を確認してください。本機は基本的にMin･1･2･･･98･99･Maxまで調整できます。
- 表示管に“MUTING”と表示されている場合はリモコンのMUTINGボタンを押して解除してください。（40）
- ヘッドホンが接続されているとスピーカーからの音声が出力されません。（40）
- 接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がOFFになっていることがあります。
- 音声信号の設定はされていますか。AUDIO SELECTORボタンで音声を選択してください。（42）
- MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはヘッドアンプが必要です。
- ケーブルが折れ曲がったり損傷していないか確認してください。
- リスニングモードによっては音声の出力されないスピーカーがあります。（44, 45）
- スピーカーの距離、音量設定を行ってください。（52, 53）

フロントスピーカーからしか音が出ない

- リスニングモードが「Stereo」になっているとフロントスピーカーとサブウーファーからしか音が出ません。（44）
- リスニングモードが「Direct」「Pure Audio」になっているとフロントスピーカーからしか音が出ません。（44）
- スピーカーの設定をしてください。（35, 52〜54）

センタースピーカーからしか音が出ない

- TVやAM放送などモノラル音源を再生するときにサラウンドモードをPL II MOVIEまたはPL II MUSICにするとセンタースピーカーに音が集中します。違和感を感じるときは、他のリスニングモードを選んでください。
- スピーカーの設定をしてください。（35, 52〜54）

サラウンドスピーカーから音が出ない

- リスニングモードが「Stereo」「Direct」「Pure Audio」のときはサラウンドスピーカーから音が出ません。（44）
- 再生するソースやリスニングモードによっては、音が出にくい場合があります。違和感を感じるときは、他のリスニングモードを選んでください。
- スピーカーの設定をしてください。（35, 52〜54）

センタースピーカーから音が出ない

- リスニングモードが「Stereo」「Direct」「Pure Audio」のときはセンタースピーカーから音が出ません。（44）
- リスニングモードが「Orchestra」のときはセンタースピーカーから音が出ません。（45）
- スピーカーの設定をしてください。（35, 52〜54）

サラウンドバックスピーカーから音が出ない

- リスニングモードによってはサラウンドバックスピーカーから音が出ません。（44, 45）
- EXモードをONに設定してください。（47, 48）
- 再生するソースによっては音が出にくい場合があります。
- スピーカーの設定をしてください。（35, 52〜54）

音声

サブウーファーから音が出ない

- サブウーファー音声要素（LFE）の入っていないソフトを再生している場合は、サブウーファーから音が出ません。
- スピーカーの設定をしてください。（35, 52〜54）

希望する信号フォーマットで音声出力ができない

- 音声信号の設定の確認を行ってください。再生する信号によって「Auto」、「Multich」、「Analog」、「DTS」、「PCM」を選択します。（41）
- 接続した機器でのデジタル出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がOFFになっていることがあります。
- 入力される信号によっては選択できないリスニングモードがあります。（44, 45）

音量調整が99以下で終わる

- 各スピーカーの音量調整を行うと、音量最大値が変わることがあります。（53）

ノイズが出る

- オーディオ用ピンコードと電源コードなどを束ねると音質が劣化しますので避けてください。
- 接続コードが影響を受けている可能性がありますので、接続コードの位置を動かしてみてください。

レイトナイト機能が働かない

- 再生ソースがドルビーデジタルか確認してください。（50）

マルチチャンネル音声が出力されない

- マルチチャンネル対応のDVDプレーヤーを使用しているか確認してください。
- 音声信号の種類を「Multich」にしてください。（41）
- マルチチャンネルは入力をDVDにしたときにしか選ぶことができません。

DTS信号について

- DTS信号を再生しているときは、本機のDTSインジケーターが点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了してもDTSインジケーターが点灯したままになります。このため、DTS信号から急にPCM信号に切り換わるタイプのソフトは、PCMがすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。出力されているDTSデーターに何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しいDTSデーターとみなすことができず、ノイズを発生することがあります。
- DTS対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側でポーズやスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

困ったときは

映像

画面が一色になる

- AUDIO ADJUSTボタンを押すと、OSDの背景色になります。

映像が出ない

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の映像出力端子と本機の接続に間違いがないか確認してください。
- 映像機器と本機をD端子接続している場合は、本機とテレビもD端子またはコンポーネント接続をしてください。（20）
- 映像機器と本機をCOMPONENT端子接続している場合は、本機とテレビもコンポーネントまたはD端子接続をしてください。（20）
- TVなど、モニター側での入力画面の切り換えを確認してください。
- D端子とCOMPONENT端子を同じ系統で同時に接続しないでください。（20）
- VIDEOまたはS VIDEO端子で接続しているときは、Pure Audioになっていると映像は出ません。

OSD画面表示が出ない／位置がおかしい

- 映像出力端子の設定を行ってください。（37）
- 表示設定（Immediate Display）で、ご使用のモニターに合わせた設定をしてください。（58）
- ご使用のテレビなどのモニター側の設定を確認してください。

リモコン

リモコン操作ができない

- 電池の極性（＋/－）が正しく入っているか確認してください。
- 電池を2本とも新しいものと交換してみてください。
- リモコンと本体の間が離れすぎていないか、リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がないかを確認してください。
- 本体のリモコン受光部に強い光（インバーター蛍光灯や直射日光）が当たっているとリモコン操作ができない場合があります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスが使用されていると正常に機能しない場合があります。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。（12～15, 64, 65）
- 他社製品の仕様により、記憶しているリモコンコードでは、一部の操作が働かない場合があります。

他機器の操作ができない

- オンキヨー製他機器とRIケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- RIケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンコードも接続してください。（RIケーブルだけでは連動しません）
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。（12～15, 64, 65）
- 入力表示が正しく設定されているか確認してください。（例TAPE端子にMDレコーダーを接続した場合）（38）

リモコンの学習操作ができない

- 使用するべきENTERボタンの位置に気をつけてください。学習時はリモコン右下部のENTERボタンを使用します。
- リモコン受光部が正しく向き合っていることを確認してください。
- 学習できないリモコンを学習させようとしていませんか？コードを転送できないもの、1つのボタンで複数の指示を出すリモコンは学習できないことがあります。

録音

録音ができない

- 録音機器側で、デジタルやアナログなどの録音入力切り換えが正しくできているか確認してください。

その他

ヘッドホンを接続すると音が変わる/表示が消える

- Direct、Pure Audio以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的にSTEREO出力になります。（40）

スピーカーの距離設定が希望通りにならない

- 設定する数値がホームシアターに適した数値に矯正されることがあります。

表示が出ない

- Pure Audioになっていると表示が消えます。

メモリー保持について
本機には、メモリー保持用の予備電源装置が内蔵されています。これは、お客様が行ったスピーカーの設定や音響効果に関する設定などを停電時などに保護するためのものです。本機の主電源を切った状態でメモリーが保持できるのは約2週間です。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約5秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音･録画できることを確認の上、録音･録画を行ってください。

すべての内容をお買い上げ時の設定内容に戻すには
電源を入れた状態でVIDEO 1ボタンを押したままSTANDBY/ONボタンを押してください。
表示部に「CLEAR」が表示され、スタンバイ状態になります。

用語集

音声フォーマット

サラウンド（Surround）
ドルビーデジタルやDSPの音声モードなどを用いた臨場感のある音の総称。

ドルビーデジタル（Dolby Digital）
ドルビー社によって開発されたデジタルマルチチャンネル音声規格。モノラルから5.1チャンネルまでに対応しています。
プログラム間でセリフの平均レベルを一定に保つダイアログノーマライゼーション、視聴環境の制約に対応してダイナミックレンジを調整するダイナミックレンジ圧縮、スピーカーの数に合わせて出力チャンネル数を最適化するダウンミックスなど数々の機能が採り入れられています。DVD-Videoの標準音声、米国DTVの標準音声として採用されています。

ドルビーデジタルサラウンドEX（Dolby Digital Surround EX）
ドルビー社とルーカスフィルムTHXで共同開発された新しい音響フォーマット。
映画館の壁面に配置されるサラウンドチャンネルスピーカー、左右側面と背面の3つのセクション（左サラウンド、右サラウンド、バックサラウンド）に分割します。これによりサラウンドの空間表現力、定位感が高められ、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をよりリアルに体感できます。バックサラウンドチャンネルは左サラウンド、右サラウンドに振り分けることもできるため、通常の5.1チャンネルとして、既存のドルビーデジタル環境で再生することが可能です

ドルビープロロジック（Dolby Pro Logic）
ドルビー社によって開発されたマトリックスタイプのサラウンドデコード技術。
2チャンネル（Lt/Rt）にマトリックスエンコードされた4チャンネル（L/C/R/S）信号を方向性強調を用いてもとの4チャンネル信号に復元します。センターチャンネルスピーカーを使用することで、正面で視聴していなくても画面からセリフが聞こえるようになります。

ドルビープロロジックII（Dolby Pro LogicII）
プロロジックを更に改良したマトリックスデコード技術。
これまでのプロロジックとの大きな差としては、サラウンドチャンネルがステレオであること（プロロジックはモノラル）、その再生帯域がフルバンド（プロロジックは7kHzの帯域制限）であることです。
したがって、あらゆるステレオ音源を5.1chであるかのような立体音場で楽しむことができます。
映画の再生に適した「ムービー」モード、音楽再生に適した「ミュージック」モードがあります。

DTSデジタルサラウンド（DTS Digital Surround）
米国のDTS社が開発したデジタルサラウンドフォーマット。コヒレントアコースティックス符号化と呼ばれる算法を使用し、圧縮率は通常4:1程度と比較的低くなっています。映画館ではフィルムにプリントされたタイムコードに同期してCD-ROMに記録された音声が再生されます。

DTS-ES エクステンディッドサラウンド (DTS-ES Extended Surround)
従来のDTS5.1chシステムにセンターバックサラウンド(CS)チャンネルを加えたもので、かつてない音像・定位感を再現します。DTS-ESには「DTS-ESディスクリート6.1ch」と「DTS-ESマトリックス6.1ch」の2種類があり、どちらも下位互換性を有しているため従来のDTS5.1ch対応機器での再生も可能です。

DTS-ES　ディスクリート6.1 (DTS-ES Discrete 6.1)
5.1チャンネル音声データに拡張データとしてセンターサラウンドチャンネル音声データを付加し、この方式に対応したDTSデジタルサラウンドデコーダーによって完全に独立した6.1チャンネル音声を再生するDTSシステム。

DTS-ES　マトリックス6.1 (DTS-ES Matrix 6.1)
映画館におけるDTS-ESと同様に、あらかじめ左右サラウンドチャンネルにマトリックスエンコードされたセンターバックサラウンドチャンネルを、マトリックスデコーダーを使って復元して6.1チャンネルとする方式のDTSシステム。マトリックスデコーダーとしてNeo:6に対応した機器を使用します。

Neo:6
DTS社によって開発された、デジタル・アナログを含む全ての2チャンネルソースを6チャンネルサラウンドにするマトリックスデコード技術。映画に適した「シネマ」モードと音楽に適した「ミュージック」モードが用意されています。また、DTS-ES マトリックス 6.1のセンターサラウンドチャンネル信号の抽出にも使用されます。

MPEG-2 AAC
AAC(Advanced Audio Coding)は、AT&T社、ドルビー社、フラウンホーファー・インスティテュート・フォー・インテグレーティド・サーキット（Fraunhofer IIS)、そしてソニー株式会社の4社の高品質マルチチャンネル音声符号化のための最先端技術を組み合わせたもので、ISOとIECの共同管轄の下に、MPEG-2規格の一部として規格化された音声圧縮符号化方式です。
従来のMPEG音声との後方互換性がないので、従来のMPEG音声デコーダーでは再生できません。わが国のデジタルテレビ音声方式として採用されています。

THX
ルーカスフィルム(Lucasfilm)社が提唱する劇場用音響の品質規格。映画制作者のニュアンスを劇場で忠実に伝えきるために、レベルやノイズ/残響音/音響機材/スピーカーの設置位置など厳格な品質基準が設けられています。全世界で5,000を超える劇場が認可され、音響品質の高い映画館の代名詞とさえ言われます。

THXセレクト (THX Select)
8〜12畳程度のリスニングルームを想定して新たに制定された規格カテゴリー。音圧やパワーといった項目の規格が幾分か緩和されています。現在のところインテグレーティドアンプ(AVセンター、AVアンプ、AVレシーバー)やスピーカーなど一部の製品カテゴリーのみが対象とされています。

THXサラウンドEX (THX Surround EX)
ルーカスフィルム社が、ドルビーデジタルサラウンドEXをホームシアター用再生システムとしてライセンスを行っている方式。映画館と同様にデコードされた左右サラウンドチャンネル信号からマトリックスデコーダーによってサラウンドバックチャンネル信号を取り出します。それぞれの処理にはホームTHXで定められた厳しい性能規格が適用されます。

6.1chサラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つ、真後ろに設置するサラウンドバックスピーカー1つで6ch（6チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この7本のスピーカーを使って再生することを6.1chサラウンドと言います。

音声

アナログ
カセットデッキやビデオデッキ、レコードプレーヤーの音を一般にアナログ音声と呼びます。

デジタル
DVDやCDの音源を一般にデジタル音声と呼びます。

光（OPTICAL）デジタル
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号で光ケーブルを使用して接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にOPTICAL端子がある場合に使用できます。
音質は同軸デジタルと同等です。

同軸（COAXIAL）デジタル
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号でＲＣＡタイプのピンコードを用いて接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にCOAXIAL端子がある場合に使用できます。音質は光デジタルと同等です。

サンプリング周波数
アナログ信号をデジタル信号に変換する時の精度。44.1ｋHzは1秒間に44100回、96ｋHzは1秒間に96000回アナログ信号を読みとってデジタルに変換します。

ダイナミックレンジ
信号を正しく変換する最大のレベルと、雑音等機器の性質で制限させる最小レベルの差。

ビットストリーム
ドルビーデジタルやDTSフォーマットのデジタルデータ。

LFE（Low Frequency Effect）
ドルビーデジタルやDTSの低周波数効果音のこと。
一般にディスクなどの信号に入っているとサブウーファーが効果的に働きます。

5.1chサラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つで5ch（チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この6本のスピーカーを使って再生することを5.1chサラウンドと言います。

映像

コンポジット
映像の入出力を行う標準的な信号。テレビやビデオデッキには赤・白・黄の丸い端子が装備されていますが、
その黄色端子が映像を意味します。コンポジット信号を入出力するには黄色のピンコードを使用します。

Ｓビデオ
輝度信号（Y信号）と色信号（C信号）、同期信号などを複合した形で扱う信号。
コンポジット信号より良い映像を楽しめます。接続にはＳビデオコードを使用します。テレビにＳ端子がある場合使えます。

コンポーネント
輝度信号（Y信号）と色信号（C信号）を2つに分けた色差信号をそれぞれ独立して扱う信号。
Ｓ信号よりも良い映像を楽しめます。接続には専用のコンポーネントケーブルをご使用ください。テレビにコンポーネント端子がある場合使えます。画質はSビデオより良く、D端子と同レベルです。

D端子
ケーブル1本で簡単にコンポーネント接続でき、より高品位な映像が楽しめます。テレビにD端子がある場合使えます。
D1～D4までの解像度のランクがあり、D4がもっとも高画質です。画質はSビデオより良く、コンポーネントと同レベルです。映像機器のアスペクト比など、制御信号を送ることができます。

修理について

保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから修理を依頼してください。

保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店または、当社サービスステーションにご依頼ください。詳細は保証書をご覧ください。

修理を依頼されるときは

「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名 TX-SA701」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお買い上げ店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。

保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

補修用性能部品の保有期間について

当社では本機の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。

修理を依頼されるときは、下記事項をお買い上げ店、または当社サービスステーションまでお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名 TX-SA701
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

ご購入された時にご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

購入年月日：　　年　　月　　日

ご購入店名：

Tel.　　(　　)

メモ：

ONKYO®

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

製品の故障や修理についてのお問い合わせ先：
お買い上げの販売店もしくは「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」に記載の最寄りのサービスステーションへお申し出ください。
●東京サービスセンター　☎ 03(3861)8121　●大阪サービスセンター　☎ 072(831)8080

ONKYO HOMEPAGE
http://www.onkyo.co.jp/

SN 29343498

G0304-1